



**IM-FormaDesigner**

# **操作ガイド**

**Ver.7.2**

**2016/08/01 第11版**

変更履歴

変更年月日	変更内容
2011/11/28 初版	
2011/12/28 第2版	「2.2.1.4 一覧画面・登録画面を表示するための設定を行う」内の記述を修正しました。 一覧表示設定の表示名についての補足説明を追記しました。
2012/01/27 第3版	「1.1.2.3 メニューロール情報の設定」内の記述を修正しました。 サブロールについての制限事項を削除しました。 「1.1.2.6 アイテムラベルの最大入力文字数の設定」のタイトルを修正しました。 「2.2.1.1 基本設定を行う」内の記述を修正しました。 アプリケーション登録画面の入力項目「有効日付(終了)」を修正しました。 有効日付(終了)の入力値を省略した場合についての記述を修正しました。 「2.2.1.2 フォームの設定を行う」内の記述を修正しました。 「水平線」アイテムの名称を「横線」に修正しました。 「2.2.1.4 一覧画面・登録画面を表示するための設定を行う」内の記述を修正しました。 スマートフォン用の一覧画面の設定方法を追記しました 「2.2.2 フォーム追加とフォーム遷移」内の記述を修正しました。 「水平線」アイテムの名称を「横線」に修正しました。 「2.2.3 アプリケーション履歴を登録する」内の記述を修正しました。 有効日付(終了)の入力値を省略した場合についての記述を修正しました。 「3.1.2.1 IM-Workflow連携用アプリケーションを作成する」内の記述を修正しました。 アプリケーション登録画面の入力項目「有効日付(終了)」を削除しました。 「3.1.3.2 基本設定を行う」内の記述を修正しました。 コンテンツ作成画面の入力項目「有効日付(終了)」を削除しました。
2012/03/30 第4版	各画面を最新化しました。 「1.1.2.4 IM-Workflow連携情報の設定」内の記述を修正しました。 タブ表示の設定を追加しました。 「1.1.3 アイテム設定ファイル」内の記述を修正しました。 アイテム設定に「印影表示」アイテムの列数の上限を追加しました。 アイテム設定に「セレクトボックス」アイテムの項目数の上限を追加しました。 アイテム設定に「一覧選択」アイテムの出力値設定対象外のアイテムの設定を追加しました。 「2.5 ユーザプログラムの管理」を追加しました。 「5.2.1 アプリケーションのインポートを行う」内の記述を修正しました。 ユーザプログラムに関する注意書きを追記しました。 「5.2.3 IM-Workflowのインポートとエクスポートについて」を追加しました。

---

2012/05/11 第5版

---

「2.5 ユーザプログラムの管理」内の記述を修正しました。

---

スクリプト開発モデルの場合のプログラムパスを修正しました。

---

2012/10/26 第6版

---

「1.1.3 アイテム設定」内の記述を修正しました。

---

「日付フォーマット」の初期値を修正しました。

---

「セレクトボックス」アイテムの項目数の上限の初期値を修正しました。

---

「一覧選択」アイテムの出力値設定対象外のアイテムの初期値に「採番」アイテムを追加しました。

---

「1.1.7 採番の設定手順」を追加しました。

---

「2.6 PDF出力のための設定」を追加しました。

---

「4.2 データソースの登録」内の記述を修正しました。

---

アクターをアプリ開発管理者に修正しました。

---

「4.2.1.2 クエリ詳細登録を行う」内の記述を修正しました。

---

DB接続参照項目の説明を修正しました。

---

「第5章 採番ルール定義」を追加しました。

---

2012/11/01 第7版

---

「3.1.3.5 承認画面設定を行う」内の記述を修正しました。

---

設定できるノードについての説明を追加しました。

---

「3.1.3.6 案件プロパティ設定を行う」内の記述を修正しました。

---

設定できるノードについての説明を修正しました。

---

「3.1.3.7 追記設定を行う」内の記述を修正しました。

---

設定できるノードについての説明を修正しました。

---

2014/04/01 第8版

---

「2.4.1 アプリケーションの削除」内の記述を修正しました。

---

アプリケーション削除時のデータ削除範囲についての説明を追加しました。

---

2014/05/09 第9版

---

「1.1.2.7 不要添付ファイル削除時の猶予期間(日)の設定」の記述を追記しました。

---

「1.1.3.1 アイテム設定」内の記述を修正しました。

---

セレクトボックスのツールバー表示に関する設定の説明を追加しました。

---

2014/06/16 第10版

---

「3.1.3.5 承認画面設定を行う」の説明を追加しました。

---

「3.1.3.6 案件プロパティ設定を行う」の説明を追加しました。

---

「3.1.3.7 追記設定を行う」の説明を追加しました。

---

2016/08/01 第11版

---

「2.2.1.2 フォームの設定を行う」にフィールド識別IDに関する説明を追加しました。

---



## はじめに

本書は、IM-FormaDesignerをご利用いただけるように、基本的な操作について説明したものです。まずは本書をご一読いただき、IM-FormaDesignerの導入、運用の一助としていただければ幸いです。

### 本書の対象者

本書は、[アプリ開発者]、[アプリ開発管理者]を対象としています。権限により、操作できる機能が異なりますのでご注意ください。



<[対象となるユーザー]>

### ユーザーの種類

IM-FormaDesignerを利用するユーザーは、以下のようになります。

ユーザー	説明
アプリ利用者	作成したアプリケーションを利用するユーザーです。
アプリ開発者	アプリケーションの作成、編集を行うユーザーです。
アプリ開発管理者	IM-FormaDesignerの設定、クエリ作成を行うユーザーです。

### 本書の設定

操作ガイドでは、次のような設定を前提に説明しています。

Intra-mart WebPlatform/AppFramework に英語コンテンツ、中国語コンテンツがインストールされた状態

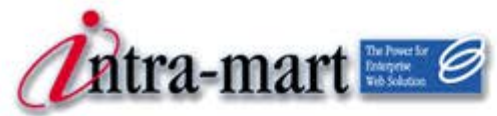
IM-Workflowに英語コンテンツ、中国語コンテンツがインストールされた状態

第1章 IM-FormaDesigner	1
1.1 IM-FormaDesignerの概要	2
1.1.1 メニュー構成	3
1.1.2 詳細設定ファイル	4
1.1.3 アイテム設定ファイル	6
1.1.4 アプリケーションの設定手順	8
1.1.5 IM-Workflow連携の設定手順	10
1.1.6 データソースクエリの設定手順	13
1.1.7 採番の設定手順	15
第2章 アプリケーションの設定	16
2.1 アプリケーションの概要	17
2.2 アプリケーションの登録	18
2.2.1 アプリケーションを登録する	18
2.2.2 フォーム追加とフォーム遷移	48
2.2.3 アプリケーション履歴を登録する	64
2.2.4 アプリケーションを使用してデータを登録する	66
2.3 アプリケーションの更新	73
2.3.1 アプリケーションを更新する	73
2.3.2 アプリケーションのバージョンを更新する	75
2.4 アプリケーションの削除	78
2.4.1 アプリケーションを削除する	78
2.4.2 アプリケーション履歴を削除する	81
2.5 ユーザプログラムの管理	84
2.5.1 ユーザプログラムを登録する	84
2.5.2 ユーザプログラムを更新する	89
2.5.3 ユーザプログラムを削除する	91
2.6 PDF出力のための設定	93
2.6.1 PDF出力機能とは	93
2.6.2 PDFファイルとして出力できる内容	93
2.6.3 PDFファイルを一覧表示画面から出力するための設定方法	94
2.6.4 PDFファイルをボタンで出力するための設定方法	95
2.6.5 PDFファイルの出カイメージの確認方法	96
第3章 ワークフローとの連携	97
3.1 IM-Workflow連携	98
3.1.1 IM-Workflow連携の概要	98
3.1.2 連携するアプリケーションを準備する	99
3.1.3 連携するための設定を行う	106
3.1.4 画面を利用して申請する	124
3.1.5 申請時の登録内容を確認する	126
3.1.6 連携の設定を更新する	127
3.1.7 申請書を再利用する	130
3.1.8 連携を解除する	132
第4章 データソース定義	134
4.1 データソース定義の概要	135
4.1.1 データソース定義の流れ	135
4.2 データソースの登録	136

4.2.1 データソースを登録する	136
第5章 採番ルール定義	141
5.1 採番ルール定義の概要	142
5.2 採番ルール定義の登録	143
5.2.1 採番ルール定義を登録する	143
第6章 インポート・エクスポート	145
6.1 インポート・エクスポートの概要	146
6.2 インポート・エクスポートの実行	147
6.2.1 アプリケーションのインポートを行う	147
6.2.2 アプリケーションのエクスポートを行う	150
6.2.3 IM-Workflowのインポートとエクスポートについて	152
6.2.4 データソースのインポートを行う	153
6.2.5 データソースのエクスポートを行う	156







**intra-mart WebPlatform/AppFramework**

# 第1章 IM-FormaDesigner

# 1.1

## IM-FormaDesignerの概要

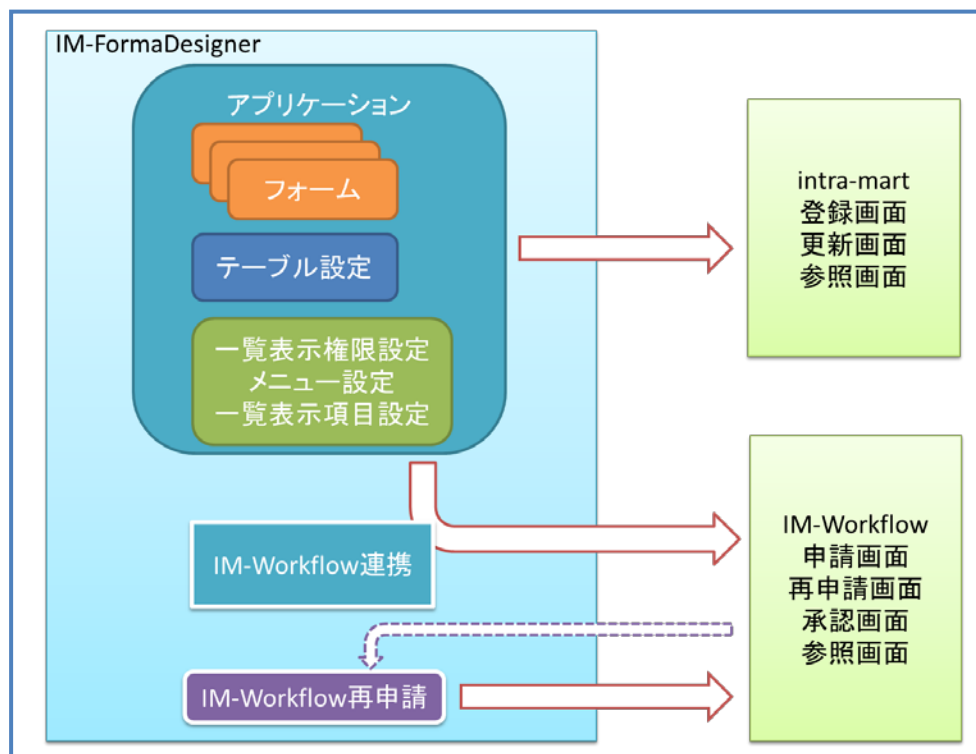
IM-FormaDesignerは、intra-mart上で動作するアプリケーションを簡単に作成することができる製品です。

アプリケーションで使用する登録画面、更新画面、参照画面は、視覚的に作成することができますので、アプリ開発者は、HTML、JavaScript、XMLなどのWeb画面作成を行うための言語に関する知識が不要です。また、画面の入力項目に対する必須属性、文字数、入力形式などの各種設定も設定を行うだけで利用することができます。

アプリケーションの登録画面、登録されたデータの一覧表示画面の表示項目などの設定は、アプリケーション管理を利用して行うことができます。

また、アプリケーションは履歴管理を行うことができますので、アプリケーション履歴の期間を適切に設定することによって、ある特定の日を境にアプリケーション履歴を切り替えることができます。

また、IM-Workflowと連携することで、申請や承認用の画面として簡単に利用できるように設定することができます。



<IM-FormaDesignerの概要>



- 申請書の再利用を行える案件は、IM-FormaDesignerで作成した申請書を利用した案件に限られます。IM-Workflowの機能のみを利用して作成された申請は、再利用できません。



### 1.1.1 メニュー構成

IM-FormaDesignerには、以下の機能が用意されています。

#### アプリ一覧

登録、更新、参照画面を持つアプリケーションを作成、更新、削除する機能です。また、登録したデータの一覧表示画面の表示項目などの設定ができます。

1つのアプリケーションで期間による複数の履歴管理ができ、それぞれの履歴に登録、更新、参照画面が紐付いています。

#### WF連携設定

intra-mart上に登録したアプリケーションをIM-Workflowの申請・承認画面に利用できるように連携させる機能です。

#### グループDBクエリ・システムDBクエリ

ログイングループDBやシステムDBからデータを取得するクエリを作成、更新、削除する機能です。この機能で作成したクエリを使って、IM-FormaDesignerで作成したアプリケーション上でデータを取得することができます。

#### インポート・エクスポート

[アプリ移行]

intra-mart上にアプリケーション定義情報をインポートしたり、登録済みのアプリケーション定義情報をファイルにエクスポート、または、ダウンロードしたりする機能です。

[データソース定義移行]

intra-mart上にデータソース定義情報をインポートしたり、グループDBクエリ、システムDBクエリで登録したデータソース定義情報をファイルにエクスポート、または、ダウンロードしたりする機能です。

#### 申請書再利用 (IM-Workflow)

IM-FormaDesignerのアプリケーションを利用して、IM-Workflowで申請された案件のデータをもとに、新たな案件を起こす機能です。

申請済みの案件を再利用することで、効率良く新しい申請書を作成して申請することができます。



## 1.1.2 詳細設定ファイル

IM-FormaDesignerには、アプリ開発管理者が設定できる詳細設定ファイル（forma.iniファイル：下記参照）が用意されています。ここでは、この設定ファイルで設定できる内容を説明します。

設定を反映させるためには、各サービスの再起動が必要です。

```
%ResourceService%/pages/product/src/forma/forma.ini
```



### 1.1.2.1 一覧表示の設定

各一覧画面に表示するデータ件数を設定することができます。

ページ内表示件数

IMFR\_PAGE\_COUNT = x（初期値：x=20）



### 1.1.2.2 テーブル作成時のカラム設定

テーブル作成関連では、IM-FormaDesignerで作成したフォームの情報を元に、作成されるテーブルカラムのデータ型を設定することができます。

データ型 文字列

IMFR\_DATA\_TYPE\_STRING = x（初期値：x=VARCHAR）

データ型 数値

IMFR\_DATA\_TYPE\_NUMBER = x（初期値：x=DECIMAL）

データ型 日付

IMFR\_DATA\_TYPE\_DATE = x（初期値：x=DATE）

データ型 日時

IMFR\_DATA\_TYPE\_TIMESTAMP = x（初期値：x=TIMESTAMP）

テーブル名最大文字数

IMFR\_TABLE\_NAME\_MAX\_LENGTH = x（初期値：x=30）

列名最大文字数

IMFR\_COLUMN\_NAME\_MAX\_LENGTH = x（初期値：x=30）



- サーバの環境によってはデータ型や最大文字数を初期値から変更する必要があります。詳しくは「IM-FormaDesignerセットアップガイド」を参照してください。

### 1.1.2.3 メニューロール情報の設定

メニュー設定では、特定のロールを持ったフォルダ（[Formaアプリフォルダ]）配下のみにメニューの作成を行えます。以下の設定項目を変更することで、ログイングループ単位にメニューロールを決定し、メニューを分けることができます。

#### デフォルト・メニューロールID

IMFR\_ROLE\_DEFAULT\_FORMA\_MENU = x （初期値：x=imFormaAppMenus）

デフォルトで使用するメニューロールIDです。

ログイングループに対するメニューロール（次項目の設定）がない場合、デフォルトのメニューロールを使用します。

#### ログイングループに対するメニューロールID

IMFR\_ROLE\_FORMA\_MENU\_%ログイングループID% = x  
%ログイングループID%の部分ログイングループIDに置き換えて設定を行います。この場合、%ログイングループID%は全て大文字で記述してください。

（例）ログイングループIDがdefaultの場合

IMFR\_ROLE\_FORMA\_MENU\_DEFAULT = imFormaAppMenus



- [Formaアプリフォルダ]として使用するためには、[HOME]直下のメニューフォルダである必要があります。これ以外のメニューフォルダの権限にメニューロールIDを追加してもIM-FormaDesignerの[メニュー設定]画面には表示されません。
- メニューロールをサブロールに持つロールを、メニューの権限に設定した場合、IM-FormaDesignerの[メニュー設定]画面には表示されません。  
（例）ロールAのサブロールにimFormaAppMenusを設定します。このロールをHOME直下のメニューフォルダ「サンプルフォルマアプリ」の権限に設定します。メニューロールが権限に設定されていないため、「サンプルフォルマアプリ」はIM-FormaDesignerの[メニュー設定]画面には表示されません。

### 1.1.2.4 IM-Workflow連携情報の設定

IM-Workflowと連携して使用するアプリケーションのアプリケーション管理画面にあるメニュー設定タブと一覧項目表示設定タブを表示、非表示する設定をすることができます。

#### メニュー設定タブの表示

IMFR\_IMW\_SHOW\_MENU\_TAB = x （初期値：x=FALSE）  
表示する場合はTRUE、表示しない場合はFALSEを設定してください。TRUE/FALSEは大文字で記述してください。

#### 一覧表示項目設定タブの表示

IMFR\_IMW\_SHOW\_LIST\_ITEM\_DISP\_TAB = x （初期値：x=FALSE）  
表示する場合はTRUE、表示しない場合はFALSEを設定してください。TRUE/FALSEは大文字で記述してください。

### 1.1.2.5 ショートカットURLの設定

IM-FormaDesignerで作成したアプリケーションを使用して登録されたデータの更新画面、参照画面に直接ジャンプすることができるショートカットURLを設定することができます。

ショートカットURL生成時のログインURL	IMFR_SHORTCUT_URL = x (初期値 : x=http://localhost:8080) インストールした環境に関わらず、最初は上記の初期値で登録されているため、必ずホスト名、ポート番号を実際のインストール時の設定に合わせてください。
ショートカットURL有効期限	IMFR_SHORTCUT_VALID_DATE = x (初期値 : x=10) 単位は日数です。



### 1.1.2.6 アイテムラベルの最大入力文字数の設定

フォームのアイテムのラベル項目に入力できる最大文字数を設定することができます。

アイテムのラベル入力最大文字数	IMFR_ITEM_LABEL_MAX = x (初期値 : x=10000)
-----------------	---



### 1.1.2.7 不要添付ファイル削除時の猶予期間(日)の設定

IM-FormaDesigner Ver7.2.4パッチを適用した場合、画面アイテム「ファイルアップロード」の登録済添付ファイルを削除すると、物理削除されず。Storage Service上のtrashディレクトリに移動されます。trashディレクトリ上に保存された不要な添付ファイルはバッチにより物理削除されますが、削除されるまでの猶予期間を設定することができます。

不要添付ファイルを削除する際の猶予期間(日)	IMFR_FILEUPLOAD_CLEANER_PROTECTED_PERIOD = x (初期値 : x=1)
------------------------	---



### 1.1.3 アイテム設定ファイル

IM-FormaDesignerには、アプリ開発管理者が設定できるアイテム設定ファイル (forma-config.xml) ファイル : 下記参照) が用意されています。ここでは、この設定ファイルで設定できる内容を説明します。

設定を反映させるためには、各サービスの再起動が必要です。

```
%ServerManager%/conf/forma-config.xml
```

アイテム設定	<pre> &lt;item-setting&gt; &lt;date-format&gt;日付フォーマット&lt;/date-format&gt; &lt;table-row-limit&gt;明細テーブル行数の上限&lt;/table-row-limit&gt; &lt;table-col-limit&gt;明細テーブル列数の上限&lt;/table-col-limit&gt; &lt;imw-stamp-list-col-limit&gt;印影の列数の上限&lt;/imw-stamp-list-col-limit&gt; &lt;listbox-item-limit&gt;リストボックスの項目数の上限&lt;/listbox-item-limit&gt; &lt;radio-item-limit&gt;ラジオボタンの項目数の上限&lt;/radio-item-limit&gt; &lt;checkbox-item-limit&gt;チェックボックスの項目数の上限&lt;/checkbox-item-limit&gt; &lt;selectbox-item-limit&gt;セレクトボックスの項目数の上限&lt;/selectbox-item-limit&gt; &lt;exclude-itemselect&gt;一覧選択の出力値設定対象外のアイテム&lt;/ </pre>
--------	--

	<pre>exclude-itemselect&gt; &lt;selectbox-item-display-limit&gt; セレクトボックス ツールバー最大表示行数 &lt;/selectbox-item-display-limit&gt; &lt;/item-setting&gt;</pre>
--	---



### 1.1.3.1 アイテム設定

アイテム設定要素では、アイテムに対する設定を定義します。

#### date-format要素

日付を持つアイテム(例: 日付アイテム、期間アイテム、関数アイテム)で選択できる日付フォーマットを定義できます。

日付フォーマットを追加する場合には、<date-format>要素に日付フォーマットを記述して、アイテム設定要素にを追加してください。

(初期値: yyyy/MM/dd,  
yyyy/M/d,  
yyyy-MM-dd,  
yyyy-M-d,  
dd/MM/yyyy,  
MM/dd/yyyy)

#### table-row-limit要素

明細テーブルアイテムの行数の上限を定義します。

(初期値: 50)

#### table-col-limit要素

明細テーブルアイテムの列数の上限を定義します。

(初期値: 30)

#### imw-stamp-list-col-limit要素

印影アイテムの列数の上限を定義します。

(初期値: 30)

#### listbox-item-limit要素

リストボックスアイテムの項目数の上限を定義します。

(初期値: 30)

#### radio-item-limit要素

ラジオボタンアイテムの項目数の上限を定義します。

(初期値: 30)

#### checkbox-item-limit要素

チェックボックスアイテムの項目数の上限を定義します。

(初期値: 30)

#### selectbox-item-limit要素

セレクトボックスアイテムの項目数の上限を定義します。

(初期値: 10)

**exclude-itemselect要素**

一覧選択の出力値設定対象外のアイテムを定義します。出力値設定対象外とするアイテムのアイテムタイプを記述します。

(初期値: product\_72\_checkbox,  
product\_72\_listbox,  
product\_72\_radio,  
product\_72\_selectbox,  
product\_72\_userSelect,  
product\_72\_departmentSelect,  
product\_72\_departmentPostSelect,  
product\_72\_affiliationSelect,  
product\_72\_formaAutoNo)

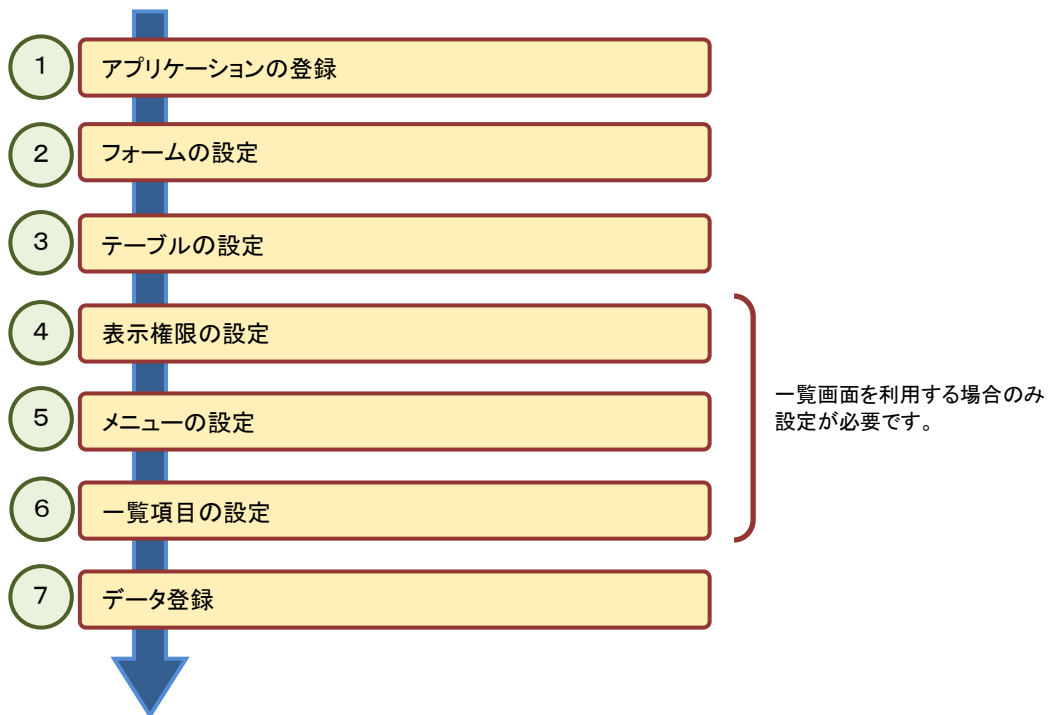
**selectbox-item-display-limit要素**

IM-FormaDesigner Ver7.2.4パッチを適用すると、セレクトボックスアイテムがツールバー表示となります。ツールバー表示とならない最大行数を定義します。



### 1.1.4 アプリケーションの設定手順

ここでは、IM-FormaDesignerでアプリケーションを作成し、intra-mart上で登録、更新、参照画面として使用するまでの流れを説明します。



<アプリケーションの設定手順>

**STEP 1:**  
**アプリケーションの登録**

アプリケーションを使用できる有効期間(利用開始日と終了日)を登録します。これがアプリケーションの1つのアプリケーション履歴となります。

**STEP 2:**  
**フォームの作成**

登録、更新、参照画面として使用するフォームを作成します。



**STEP 3:**  
**テーブルの設定**

作成したフォームを利用して登録したデータを保存するためのデータベース定義を設定します。

**STEP 4:**  
**表示権限の設定**

一覧画面に表示したデータに対する、更新、削除、参照を行うための権限を設定します。

一覧画面を利用しない場合は、この設定は不要です。

**STEP 5:**  
**メニューの設定**

作成したフォームを利用して登録したデータの一覧画面や、データ登録画面へのリンクをメニューに登録します。

登録画面と一覧画面を利用しない場合は、この設定は不要です。

**STEP 6:**  
**一覧項目の設定**

作成したフォームを利用して登録したデータを一覧表示する際に表示する項目の設定を行います。

作成したフォームに設定されている項目を画面上から選択することで、その項目に設定された値が一覧画面に表示されるようになります。また、表示項目として設定された項目は検索項目としても利用できます。

一覧画面を利用しない場合は、この設定は不要です。

**STEP 7:**  
**データ登録**

これで、メニューから一覧画面を表示して、作成したフォームを登録、参照画面として利用することができます。



## 1.1.5 IM-Workflow連携の設定手順

ここでは、IM-FormaDesignerで作成したアプリケーションをIM-Workflowと連携させ、アプリケーションを利用して申請できるようにするまでの流れを説明します。



<IM-Workflow連携の設定手順>

**STEP 1:**  
アプリケーションの登録

登録したフォームを使用できる有効期間（利用開始日と終了日）を登録します。これがアプリケーションの1つのバージョンとなります。

**STEP 2:**  
フォームの設定

申請、再申請、承認、参照画面として使用するフォームを作成します。

**STEP 3:**  
テーブルの設定

登録したフォームを利用して登録したデータを保存するためのデータベース定義を設定します。

**STEP 4:**  
IM-Workflowとの連携

作成した申請書を、IM-FormaDesignerに用意されているIM-Workflow連携機能で、申請が行えるように連携します。この際、IM-Workflow側にコンテンツ定義の基本形が作成されます。

**STEP 5:**  
ルート定義の登録

IM-Workflow連携で作成される定義は画面などを構成するコンテンツ定義のみです。

そのため、IM-Workflow側の機能を利用して、ルート定義（申請者や承認者など）の追加設定を行い、処理の流れを設定します。

**STEP 6:**  
**フロー定義の登録**

ルート定義に引き続いて、フロー定義（コンテンツ定義とルート定義を組み合わせた定義情報）の追加設定を行い、フローを完成させます。

**STEP 7:**  
**IM-Workflow連携の設定**

承認画面設定、案件プロパティ設定、追記設定を行うことができます。

**STEP 8:**  
**申請**

これで、通常のIM-Workflowで作成した申請画面と同様に、申請を行うことができます。



## Column

## コンテンツ定義編集の注意

IM-FormaDesignerのIM-Workflow連携で自動的に作成されるコンテンツ定義は、通常のIM-Workflowで作成したコンテンツ定義と異なる箇所があります。そのため、IM-Workflowの機能（[コンテンツ定義]画面）で、次のような操作は絶対に行わないようにしてください。

### ■コンテンツ定義

- コンテンツ名の変更（※1）
- コンテンツの削除

### ■コンテンツ定義バージョン情報

- バージョンの新規作成（※2）
- コンテンツのコピー
- バージョン内画面定義、ユーザプログラム定義の変更（※3）

※1：権限の変更は可能です。

※2：バージョンのコピー、削除はできますが、バージョンの削除はコピーしたバージョンに対してのみ行ってください。必ず1つ以上のバージョンが登録されている状態にする必要がありますので、すべてのバージョンを削除しないようご注意ください。

※3：メール定義、ルール定義の変更は可能です。ユーザプログラム定義に新しいプログラムを追加で登録したり、追加登録したユーザプログラムを削除したりすることはできますが、初期状態から登録されているユーザプログラム定義は変更しないようご注意ください。

コンテンツ定義を削除してしまった場合や、設定を初期状態に戻す場合は、以下の手順に従って再度連携作業を行ってください。

1. コンテンツ定義の削除
2. IM-Workflow連携設定の削除
3. IM-Workflow連携設定の再登録



## 1.1.6 データソースクエリの設定手順

ここでは、IM-FormaDesignerで作成したアプリケーションで使用するクエリを登録する流れを説明します。

グループDB、または、システムDBに対してのクエリをそれぞれ登録することができます。

ここで登録したクエリは、ラジオボタン、チェックボックス、リストボックス、一覧選択の取得元として利用することができます。



<データソースクエリの設定手順>

**STEP 1:**

**クエリの登録**

クエリの基本情報を登録します。

**STEP 2:**

**クエリ詳細の設定**

セレクトクエリを記述します。また、入力、出力パラメータを設定します。



Column

## クエリ詳細設定の注意

クエリ詳細画面では対象データを取得するためのSQLを自由に記述できますが、登録するSQL文の内容は登録者に委ねられます。

ここで指定するクエリは、サブクエリとして実行されます。

そのため、クエリ内で ORDER BY句 を指定すると、SQLServerではエラーになります。SQLServer では、ORDER BY句 を指定しないようにしてください。

基本的にはSELECT文のみ登録が可能になっていますが、DDL文も実行することができます。

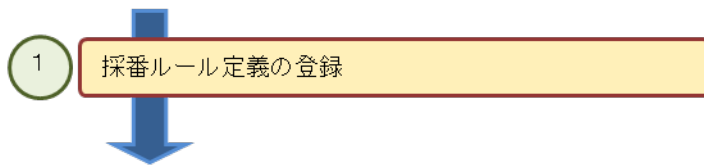
ユーザーにデータソースクエリ作成権限を与えるときはこの点を十分に留意して権限設定を行ってください。



## 1.1.7 採番の設定手順

ここでは、IM-FormaDesignerで作成したアプリケーションで使用する採番ルール定義を登録する流れを説明します。

ここで登録した採番ルール定義は、採番アイテムの採番ルール定義として利用することができます。



<採番の設定手順>

**STEP 1:**  
**採番ルール定義の登録**

採番ルール定義を登録します。

## 第2章 アプリケーションの設定



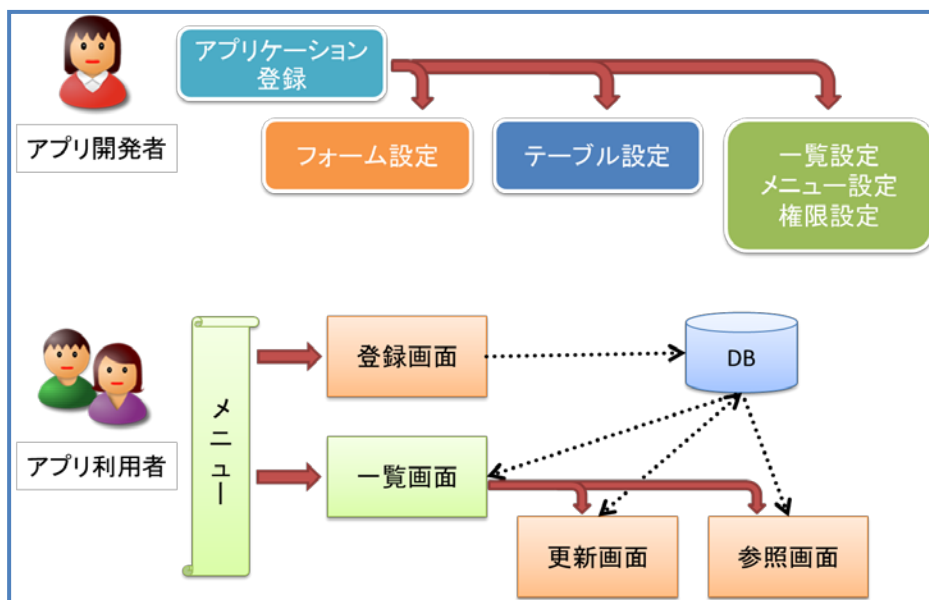
# 2.1

## アプリケーションの概要

IM-FormaDesignerでは、「作成したアプリケーションを単独で使用方法」と「作成したアプリケーションをワークフローと連携して使用方法」の2つの使い方があります。

アプリケーションを登録し、データの登録、更新、および参照を行うためのフォームを設定することができます。メインフォームを元に、登録するデータを保持するためのテーブルをDB上に作成することができます。また、登録画面を使用して登録されたデータを一覧表示するための画面を自動生成するための設定を行うこともできます。

[メニュー設定] を行ったアプリケーションは、メニューに画面を表示するためのリンクが表示され、フォーム設定で作成した画面を使用できるようになります。[メニュー設定] 画面では「登録画面表示」と「一覧画面表示」の2つの画面表示メニューを登録することができます。



<アプリケーション使用例>

## 2.2

# アプリケーションの登録

アプリ開発者が、アプリケーション登録で、フォーム設定、テーブル設定、一覧設定などを行い、アプリ利用者がintra-mart上やIM-Workflow上で使用できるようにします。

ここでは、新しくintra-mart上にアプリケーションを登録する方法と、作成したアプリケーションを単独のデータ登録、参照画面として使用する方法について説明します。



### 2.2.1 アプリケーションを登録する

アプリケーションを登録して使用可能にする方法について、「休暇届」のアプリケーション作成を例に説明します。

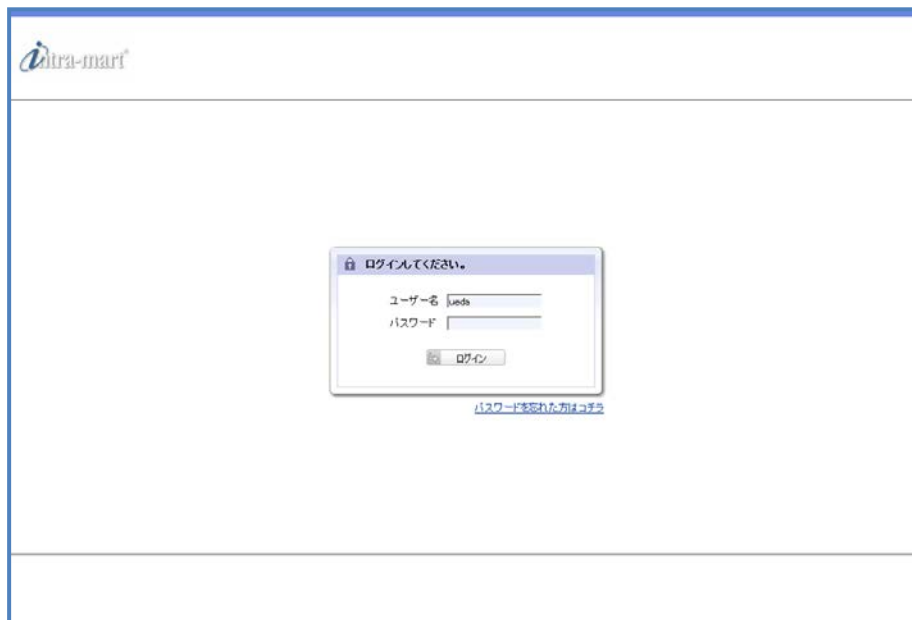


#### 2.2.1.1 基本設定を行う

以下の手順に従ってアプリケーションを作成していきます。

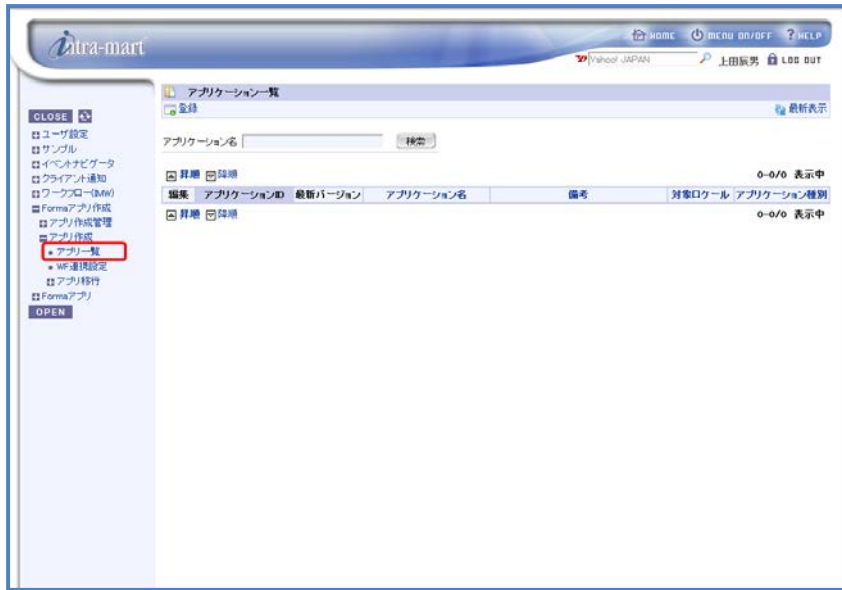
1

ブラウザで一般ユーザのログイン画面を開き、ログインします。  
ユーザのメイン画面が表示されます。



<一般ユーザログイン画面>

- 2 メニューから[Formaアプリ作成]－[アプリ作成]－[アプリ一覧]をクリックします。  
[アプリケーション一覧]画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 3 [アプリケーション一覧]画面のツールバーにある[登録]リンクをクリックします。  
[アプリケーション登録]画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

4 各項目に以下のように入力します。「対象ロケール」を「日本語、英語」に設定することによって、ロケール情報部に日本語と英語を表示します。

[登録] ボタンをクリックします。

アプリケーションの登録処理が実行され、アプリケーションのバージョンが1つ登録されます。

[フォーム編集] 画面へ遷移し、メインフォームを作成します。

アプリケーションID	kyuka
アプリケーション種別	標準
有効日付(開始)	2011/11/01
有効日付(終了)	2999/12/31
対象ロケール	日本語、英語
アプリケーション名[日本語]	休暇届
アプリケーション名[英語]	Vacation request form

<[アプリケーション登録]画面>



- 「対象ロケール」によって、アプリケーションで使用するロケールを明示的に決定します。ログインユーザーのロケールが、設定した対象ロケールに含まれる場合のみ、ユーザーはこのアプリケーションを利用することができます。
- 「有効日付(終了)」は任意項目ですが、入力を省略した場合はWebPlatformのシステム終了日(デフォルトでは9999/12/31)が設定されます。

### 2.2.1.2 フォームの設定を行う

基本情報の登録後、メインフォームの設定を行います。メインフォームで設定した項目が、後で設定するテーブルの列と結びつきます。

#### 1 メインフォームの設定を行います。



<[フォーム編集]画面>

以下のようなイメージの休暇届のフォームを作成します。

**休暇届**

所属       氏名

---

休暇期間  -

休暇日数

---

事由

<休暇届のイメージ>

#### 2 [フォーム編集]画面のヘルプについて

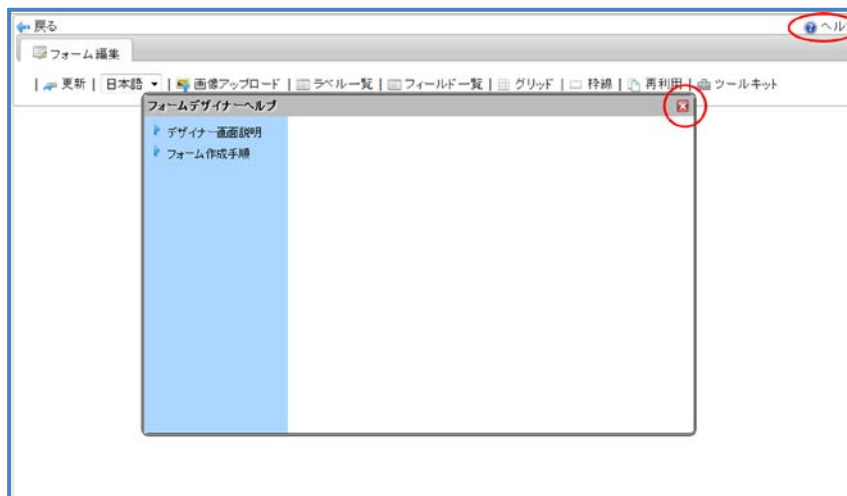
フォーム編集での詳細は、ヘルプを参照してください。

画面の右上の[ヘルプ]リンクをクリックして、[ヘルプ]画面を表示します。

ヘルプ[画面]を閉じるには、[ヘルプ]リンク、または、[ヘルプ]画面の[ x ]ボタンをクリックします。



<[フォーム編集]画面>



<[フォーム編集]画面 ヘルプを開いた状態>

3 ツールキットの共通マスタアイテムから[組織選択]アイテムをドラッグして、アイテムを配置します。



<[フォーム編集]画面>

## 4 [組織選択]アイテムのプロパティアイコンをクリックし、プロパティを開きます。



<[フォーム編集]画面>

## 5 プロパティから、アイテムの各設定項目を次の通り設定します。

アイテム名	所属アイテム
ラベル	所属
フィールド識別名	所属
フィールド識別ID	department
必須入力チェック	ON

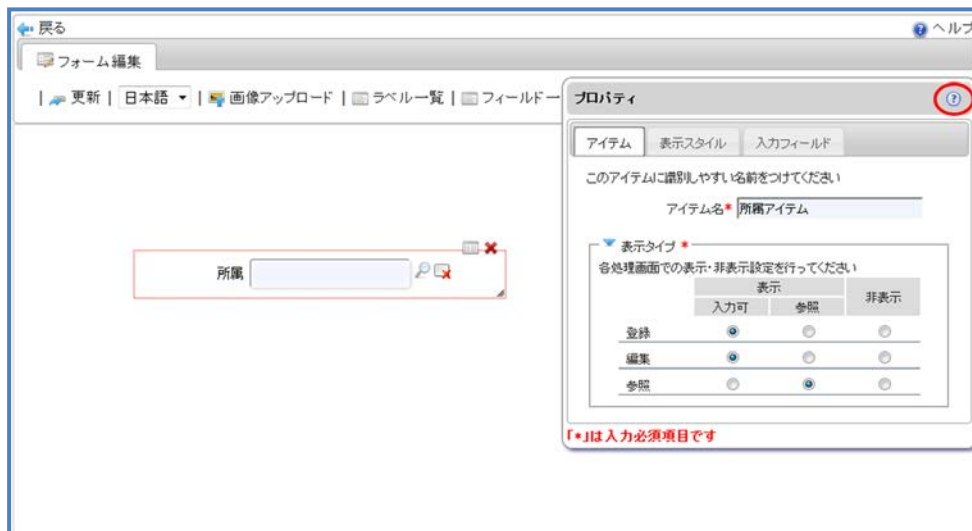
アイテムについての詳細は、各アイテムのプロパティ上のヘルプを参照してください。



- このアプリケーションの、データベース上のテーブルのカラム名は、フィールド識別IDを元に生成されます。カラム名として分かり易い名前を付けることをお勧めします。
- Webブラウザの仕様等により、フィールド識別IDに指定すると、正しく申請等の動作が行えない単語があります。現時点で判明している利用できない単語は、以下の通りです。
  - ・target
  - ・action

## 6 アイテムのヘルプについて

各アイテムのプロパティの[?]リンクをクリックし、[ヘルプ]画面を表示します。  
[ヘルプ]画面を閉じるには、もう一度[?]リンクをクリックします。



<[フォーム編集]画面>



<[フォーム編集]画面 ヘルプを開いた状態>



7 氏名は、入力アイテムから[ユーザ選択]アイテムを配置して作成します。

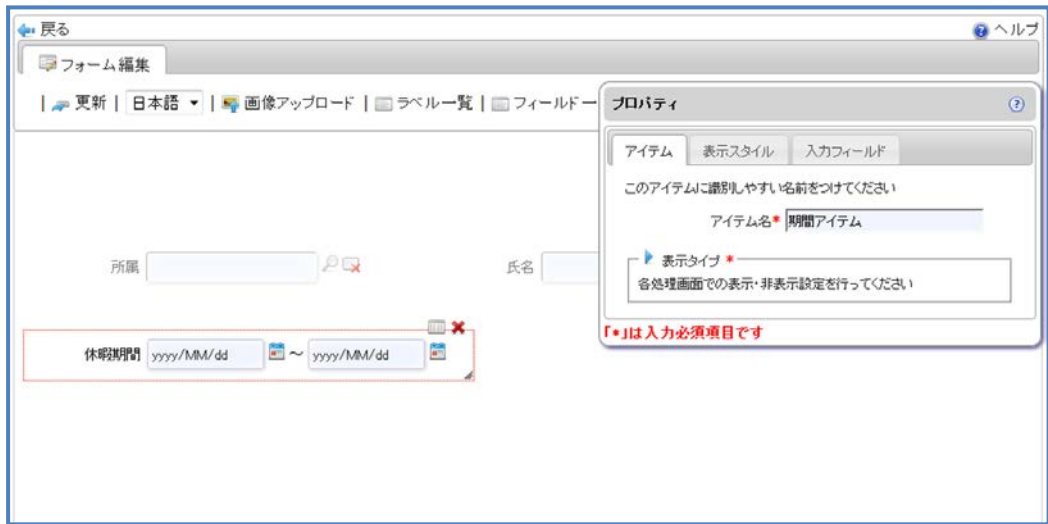
アイテム名	氏名アイテム
ラベル	氏名
フィールド識別名	氏名
フィールド識別ID	name
必須入力チェック	ON



<[フォーム編集]画面>

8 休暇期間は、[期間]アイテムを配置して作成します。

アイテム名	期間アイテム
ラベル	休暇期間
セパレータ	～
[始]フィールド識別名	休暇開始日
[終]フィールド識別名	休暇終了日
[始]フィールド識別ID	terms_start
[終]フィールド識別ID	terms_end
[始]必須入力チェック	ON
[終]必須入力チェック	ON



<[フォーム編集]画面>

## 9 休暇日数は、[関数]アイテムを配置して作成します。

式には関数を使用して、休暇開始日と休暇終了日から日数を計算しています。  
[式]の詳細については、関数アイテムの[ヘルプ]を参照してください。

<b>アイテム名</b>	休暇日数アイテム
<b>式</b>	$\text{round}(\text{getDateTime}(\text{terms\_end}) - \text{getDateTime}(\text{terms\_start})) / 86400000) + 1$
<b>式評価結果のデータ型</b>	数値
<b>ラベル</b>	休暇日数 日
<b>フィールド識別名</b>	休暇日数
<b>フィールド識別ID</b>	vacation_dates
<b>最大入力値</b>	999999



<[フォーム編集]画面>

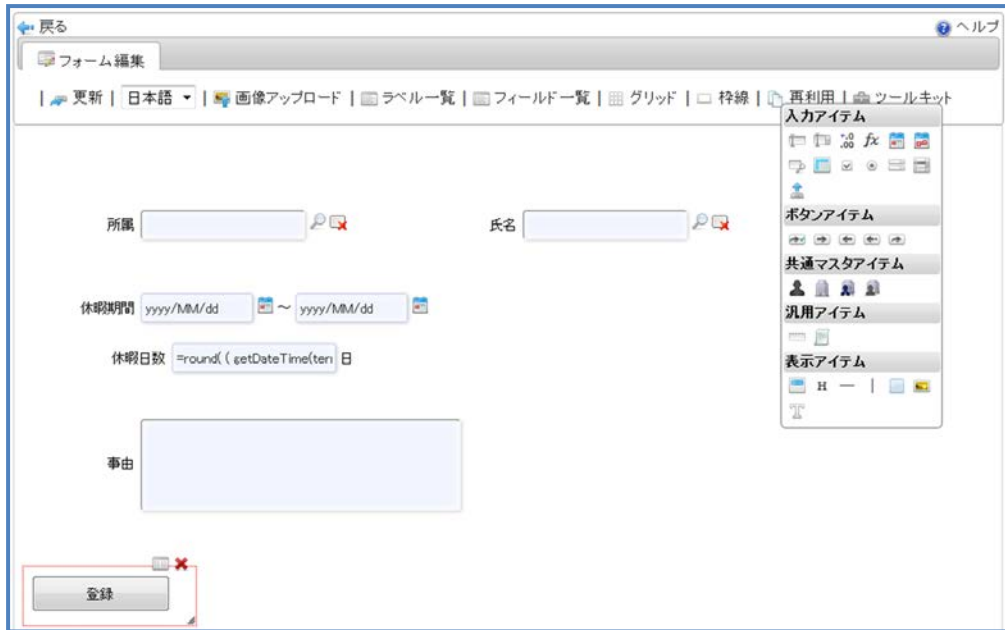
## 10 事由は、[複数行文字列]アイテムを配置して作成します。

アイテム名	事由アイテム
ラベル	事由
フィールド識別名	事由
フィールド識別ID	notes



<[フォーム編集]画面>

- 11 登録ボタンは、ボタンアイテムから[登録ボタン]アイテムを配置して作成します。  
 [登録]ボタンの設定は変更しません。



<[フォーム編集]画面>

- 12 タイトル(休暇届)は、表示アイテムから[見出し]アイテムを配置して作成します。

見出し名	休暇届
見出しレベル	3



<[フォーム編集]画面>

## 13 [横線]アイテムを配置して、フォームに横線を作成します。

<[フォーム編集]画面>

## 14 英語環境でのフォームを設定します。

[ロケール変更]リストを英語に変更します。これまでと同様にして、各アイテムの英語表示を設定します。

<[フォーム編集]画面>

- 15 以上でフォームの設定は完了です。更新ボタンを押下してフォームの設定を更新します。  
更新完了後、戻るリンクを押下してフォーム一覧画面へ遷移します。

The screenshot shows the 'Form Edit' interface. At the top, there is a navigation bar with a '戻る' (Back) button and a 'ヘルプ' (Help) button. Below this is a toolbar with several icons and labels: '更新' (Update), '日本語' (Japanese), '画像アップロード' (Image Upload), 'ラベル一覧' (Label List), 'フィールド一覧' (Field List), 'グリッド' (Grid), '枠線' (Border), '再利用' (Reuse), and 'ツールキット' (Toolkit). The '更新' button is circled in red. The main content area is titled '休暇届' (Vacation Request) and contains several input fields: '所属' (Department), '氏名' (Name), '休暇期間' (Vacation Period) with date pickers, '休暇日数' (Vacation Days) with a formula field containing '=round( (setDateTime(ten) 日', and a large text area for '事由' (Reason). A '登録' (Register) button is located at the bottom left.

<[フォーム編集]画面>

This screenshot shows the same 'Form Edit' interface as the previous one, but after the update action. The '更新' (Update) button is now visible in the toolbar. A modal dialog box is displayed in the center of the screen, containing the text 'フォームデータを更新しました。' (Form data has been updated). The dialog box has a close button (X) in the top right corner. The rest of the form fields and buttons remain the same as in the previous screenshot.

<[フォーム編集]画面 更新完了後>

## 16 フォーム一覧画面

設定したメインフォームが一覧に表示されています。

戻るリンクをクリックして、アプリケーション履歴一覧へ遷移します。

戻る

最新表示

アプリケーションID kyuka  
アプリケーション名 休暇届  
アプリケーション履歴番号 1

アプリケーション履歴情報 フォーム一覧 フォーム遷移一覧

登録

編集	フォーム編集	プレビュー	フォーム名	フォーム備考
			メインフォーム	

<[フォーム一覧]画面>

## 17 アプリケーション履歴一覧画面

テーブル設定タブをクリックして、テーブル設定画面へ遷移します。

アプリケーション履歴一覧

戻る

アプリケーションID kyuka  
アプリケーション名 休暇届

アプリケーション情報 フォーム設定 テーブル設定 権限設定 メニュー設定 一覧項目設定

登録 最新表示

昇順 降順 1-1/1 表示中

編集	アプリケーション履歴番号	有効日付(開始)	有効日付(終了)	備考	更新日
	1	2011/11/01	2999/12/31		2011/11/16

昇順 降順 1-1/1 表示中

<[アプリケーション履歴一覧]画面>

## 2.2.1.3 テーブル設定を行う

## 1 テーブル設定画面

設定したフォームの情報を元に、テーブルの設定を行います。  
登録リンクをクリックして、テーブル登録画面へ遷移します。

<[テーブル設定]画面>

## 2 テーブルを作成します。

メインフォームを元に、列が表示されます。  
文字列、数値のデータ型のコラムにデータサイズを設定します。  
コラムにデータサイズを入力した後、登録リンクをクリックします。

会社コード	400
組織セットコード	400
所属	400
氏名	400
休暇日数	6
休暇日数(小数部)	0
事由	2000



テーブル作成

戻る 登録

アプリケーションID: kyuka  
アプリケーション名: 休暇届

ヘッダー

テーブル名: imfr\_ut\_kyuka

項目名	列名	データ型	データサイズ	データサイズ(小数部)
データ登録ID	imfr_sd_insert_id	文字列	20	
アプリケーションID	imfr_sd_application_id	文字列	100	
アプリケーション履歴番号	imfr_sd_application_no	数値	10	0
バージョン	imfr_sd_version_no	数値	10	0
登録日	imfr_sd_create_date	タイムスタンプ		
登録者ユーザコード	imfr_sd_create_user_cd	文字列	100	
更新日	imfr_sd_record_date	タイムスタンプ		
更新者ユーザコード	imfr_sd_record_user_cd	文字列	100	
一時保存フラグ	imfr_sd_preserve_flg	文字列	1	
会社コード	imfr_ud_department_c	文字列	400	
組織セットコード	imfr_ud_department_s	文字列	400	
所属	imfr_ud_department	文字列	400	
氏名	imfr_ud_name	文字列	400	
休暇開始日	imfr_ud_terms_start	日付		
休暇終了日	imfr_ud_terms_end	日付		
休暇日数	imfr_ud_vacation_dates	数値	6	0
事由	imfr_ud_notes	文字列	2000	

<[テーブル作成]画面>



- 文字列、数値のデータサイズは、設定したフォームのそれぞれのアイテムの最大入力文字数、最大入力値を元に設定してください。データベースによっては、データサイズの単位が文字数でなくバイト数になりますので、最大入力文字数と同じデータサイズでは、最大入力文字数の文字列を登録できない場合があります。
- 一度テーブルを作成した後にアイテムの項目のデータタイプを変更する場合は、テーブルを再作成する必要があります。ですので、テーブルを作成する場合にはご注意ください。再作成の方法として、アイテムの項目の[フィールド識別ID]を変更し、テーブル更新を行ってカラムを追加してください。
- 登録時にエラーが発生した場合、次のことが原因と考えられますが、詳しくはログを参照してください。指定したデータサイズが大きすぎる。

テーブル作成後、権限設定タブをクリックして、一覧表示権限設定へ遷移します。

テーブル設定

戻る

アプリケーションID: kyuka  
アプリケーション名: 休暇届

アプリケーション情報 | フォーム設定 | テーブル設定 | **権限設定** | メニュー設定 | 一覧項目設定

更新 | 削除

参照	種別	対象ID	テーブル名
	ヘッダー	imfr_form	imfr_ut_kyuka

<[テーブル設定]画面>



### 2.2.1.4 一覧画面・登録画面を表示するための設定を行う

このアプリケーションで設定したフォームを単独のデータ登録、更新、参照画面として使用する場合は、続けて表示権限設定、メニュー設定、および、一覧項目設定を行います。  
 一覧画面表示設定を行うと、メニューから一覧画面の表示ができるようになり、登録したフォームを使用してデータの登録、編集、参照ができるようになります。  
 IM-Workflowと連携して使用する場合には、単独のデータ登録、更新、参照画面として使用する必要がありませんので、この設定は行いません。

「休暇届」のアプリケーションに対して上記の設定を行うためには、以下の手順に従って操作を行います。



- IM-Workflowの申請画面として使用するためには、アプリケーションとIM-Workflowとの連携設定を行います。IM-Workflowとの連携は「3.1.3 連携するための設定を行う」を参照してください。

#### 1

#### 一覧表示権限設定画面

一覧表示権限設定画面で、アプリケーションに対する一覧表示権限を設定します。  
 例として、以下のように権限を設定します。

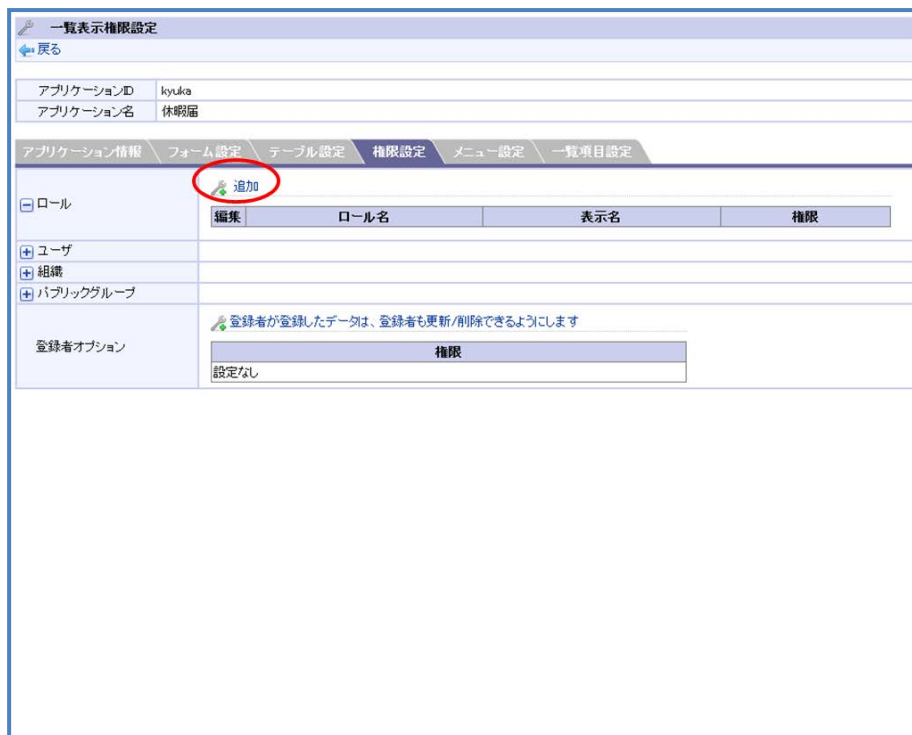
ロール: **ゲストロール** | 登録・更新・削除可能

ロールの[+]リンクをクリックして、ロール権限一覧を開きます。

The screenshot shows the 'List Display Permission Setting' (一覧表示権限設定) interface. At the top, there are fields for 'Application ID' (アプリケーションID) set to 'kyuka' and 'Application Name' (アプリケーション名) set to '休暇届'. Below these are tabs for 'Application Information' (アプリケーション情報), 'Form Setting' (フォーム設定), 'Table Setting' (テーブル設定), 'Permission Setting' (権限設定), 'Menu Setting' (メニュー設定), and 'List Item Setting' (一覧項目設定). The 'Permission Setting' tab is active. Under the 'Roles' (ロール) section, there is a list of roles with expandable '+' icons. The 'Guest Role' (ゲストロール) is expanded, showing a table of permissions. The table has a header 'Permissions' (権限) and a value 'Not Set' (設定なし). A red circle highlights the '+' icon next to the 'Roles' header.

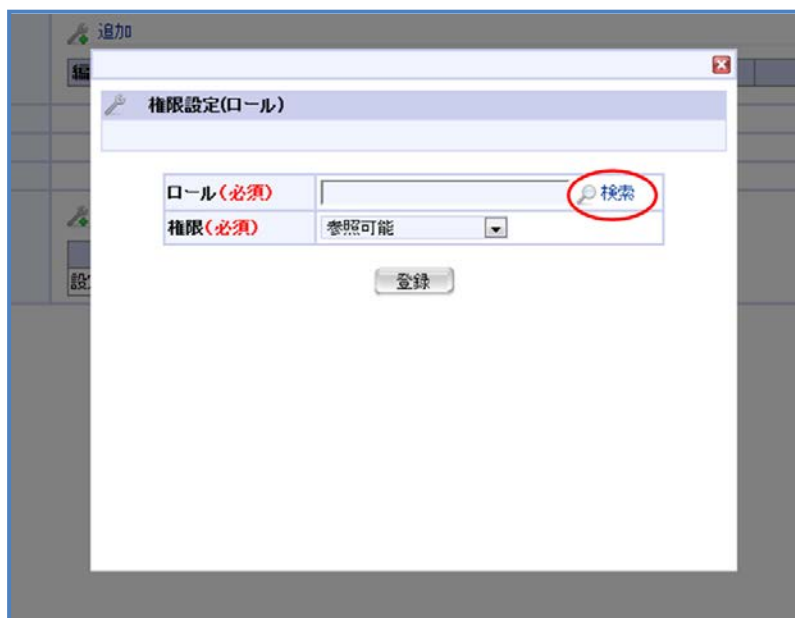
<[一覧表示権限設定]画面>

2 [追加]リンクをクリックして権限設定(ロール)登録画面を開きます。



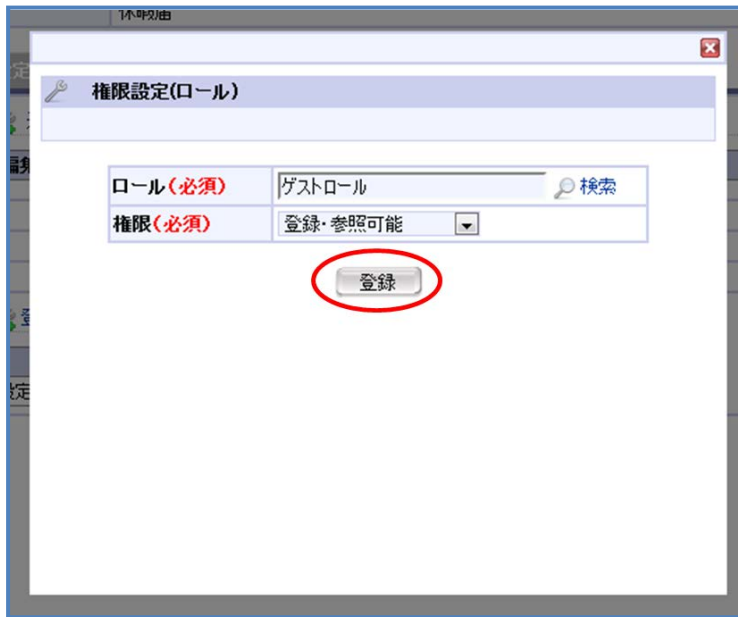
<[一覧表示権限項目設定]画面 ロール一覧を開いたところ>

3 [検索]ボタンをクリックしてロールの検索画面を表示します。



<[権限設定(ロール)登録]画面>

- 4 [検索]ボタンをクリックして、検索画面から「ゲストロール」を選択します。  
 [表示権限 (ロール)] 画面が再表示された後、「権限」から「登録・参照可能」を選択して、[登録] ボタンをクリックします。



<[権限設定(ロール)登録]画面>

「権限」は以下の項目から選択することができます。

<b>参照可能</b>	<p>当該アプリケーションで作成されたデータを参照することができます。</p> <p>データを更新、削除することはできません。</p> <p>一覧画面を表示することができます。</p> <p>一覧画面のレコードに表示される詳細のリンクにより各データを参照することができます。</p>
<b>更新可能</b>	<p>当該アプリケーションで作成されたデータを更新、参照することができます。</p> <p>データを削除することはできません。</p> <p>一覧画面を表示することができます。</p> <p>一覧画面のレコードに表示される更新、詳細のリンクにより各データを更新、参照することができます。</p>
<b>削除可能</b>	<p>当該アプリケーションで作成されたデータを削除、参照することができます。</p> <p>データを更新することはできません。</p> <p>一覧画面を表示することができます。</p> <p>一覧画面のレコードに表示される削除、詳細のリンクにより各データを削除、参照することができます。</p>

**更新・削除可能**

当該アプリケーションで作成されたデータを更新、削除、参照することができます。

一覧画面を表示することができます。

一覧画面のレコードに表示される更新、削除、詳細のリンクにより各データを更新、削除、参照することができます。

**登録可能**

当該アプリケーションでデータの登録を行うことができます。

データを更新、削除、参照することはできません。

登録画面から、データを登録することができます。

一覧画面を表示することはできません。

**登録・参照可能**

当該アプリケーションで作成されたデータを登録、参照することができます。

データを更新、削除することはできません。

登録画面から、データを登録することができます。

一覧画面を表示することができます。

**登録・更新可能**

当該アプリケーションでデータの登録を行うことができます。また、当該アプリケーションで作成されたデータを更新、参照することができます。

データを削除することはできません。

一覧画面を表示することができます。

一覧画面の登録リンクから、データを登録することができます。また、一覧画面のレコードに表示される更新、詳細のリンクにより各データを更新、参照することができます。

**登録・削除可能**

当該アプリケーションでデータの登録を行うことができます。また、当該アプリケーションで作成されたデータを削除、参照することができます。

データを更新することはできません。

一覧画面を表示することができます。

一覧画面の登録リンクから、データを登録することができます。また、一覧画面のレコードに表示される削除、詳細のリンクにより各データを削除、参照することができます。

**登録・更新・削除可能**

当該アプリケーションでデータの登録を行うことができます。また、当該アプリケーションで作成されたデータを更新、削除、参照することができます。

一覧画面を表示することができます。

一覧画面の登録リンクから、データを登録することができます。また、一覧画面のレコードに表示される更新、削除、詳細のリンクにより各データを更新、削除、参照することができます。

- 5 登録者オプションの項目の[登録者が登録したデータは、登録者も更新/削除できるようにします]リンクをクリックし、登録者に対して登録者自身のデータに対する[更新、削除、参照]権限を設定します。

一覧表示権限設定

戻る

アプリケーションID: kyuka  
アプリケーション名: 休暇届

アプリケーション情報 フォーム設定 テーブル設定 権限設定 メニュー設定 一覧項目設定

追加

編集	ロール名	表示名	権限
	guest	ゲストロール	登録・参照可能

登録者オプション

登録者が登録したデータは、登録者も更新/削除できるようにします

権限

設定なし

<[一覧表示権限項目設定]画面>

登録者オプションの権限のON/OFFで次の状態を切り替えます。

**ON: 登録者が登録したデータは、登録者も更新/削除できます**

**OFF: 設定なし**

登録者に対して、登録者自身が作成したデータへ更新、削除、参照する権限を設定します。

登録者は、自身が作成したデータに対しても更新、削除、参照する権限がありません。

- 6 確認ウィンドウの[OK]ボタンをクリックします。

登録者が登録したデータに対して、登録者が更新/削除可能な権限を与えますか？

OK キャンセル

<[確認ウィンドウ]>

- 7 登録者オプションの権限が「登録者が登録したデータは、登録者も更新/削除できます」になっています。  
 以上で権限の設定は終わります。  
 [メニュー設定]タブをクリックして、メニュー設定画面へ遷移します。

権限設定画面のスクリーンショット。タブメニューで「メニュー設定」が選択されています。

編集	ロール名	表示名	権限
	guest	ゲストロール	登録・参照可能

権限
登録者が登録したデータは、登録者も更新/削除できます

<[一覧表示権限設定]画面>

- 8 [メニュー設定]画面が表示されます。  
 ここでは、「休暇届」アプリケーションのメニューを設定します。「Formaアプリ」フォルダの下に「休暇届」フォルダを作成し、登録画面と一覧画面のメニューを設定します。  
 [Formaアプリ]フォルダをクリックして、フォルダの内容を表示します。

メニュー設定画面のスクリーンショット。「Formaアプリ」フォルダが選択されています。

<[メニュー設定]画面>

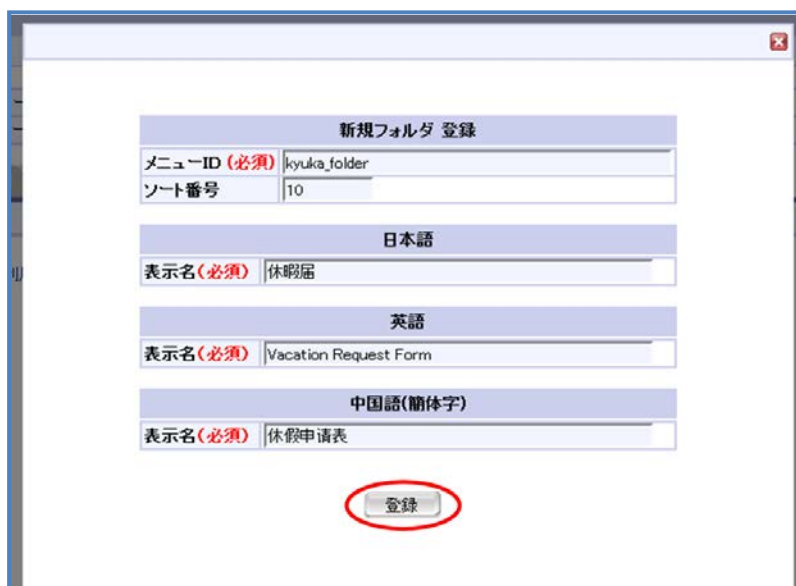
- 9 [Formaアプリ]の文字部分をクリックして、[メニュー設定]ウィンドウを表示します。  
「新規フォルダ」をクリックし、[新規フォルダ登録]画面を表示します。



<[メニュー設定]画面>

- 10 メニューフォルダの各項目を次のように設定し、[登録]ボタンをクリックします。

メニューID	kyuka_folder
ソート番号	10
表示名[日本語]	休暇届
表示名[英語]	Vacation Request Form
表示名[中国語]	休假申请表



<[新規フォルダ 登録]画面>



## 11 [IMメニュー更新]画面が表示されます。

ここではメニュー表示に関する権限を設定します。

一覧表示権限設定にあわせて、権限に「ゲストロール」を追加します。

[更新]ボタンをクリックしたら、メニュー(フォルダ)の登録は終了です。

休暇届 フォルダ

メニューID(必須) kyuka\_folder

表示名(必須)(国際化) 日本語 休暇届

クライアントタイプ パソコン

備考

アイコン画像ファイルパス

このフォルダの権限を下位メニュー (すべてのフォルダ・ページ) に反映する

権限リスト

ロール	組織	役職	パブリックグループ
<input type="checkbox"/>	guest		ゲストロール

追加 削除

更新

<[IMメニュー更新]画面>

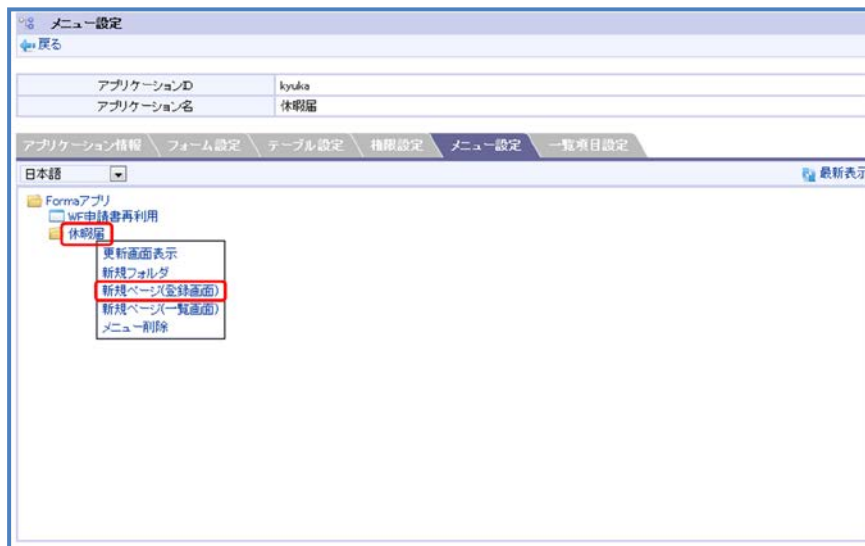


- IM-FormaDesignerの[メニュー設定]画面からフォルダや画面などのメニューを登録した場合、初期状態では表示権限が一切設定されていないため、そのままでは実際のメニューに表示されません。必ずメニューの表示権限を設定するようにしてください。
- 登録したメニューをすぐに反映させるためには、intra-mart画面の上にある[HOME]リンクをクリックしてください。画面がログイン直後の状態にリセットされ、登録したメニューが表示されるようになります。
- 登録したメニューが表示されない場合は、メニューの表示権限設定を確認してください。表示権限が設定されている場合は、ログイン中のユーザがその権限リストに登録されているロール、組織などに所属しているか確認してください。

## 12 登録したフォルダに登録画面のメニューを登録します。

[休暇届]フォルダをクリックして、[メニュー設定]ウィンドウを表示させます。

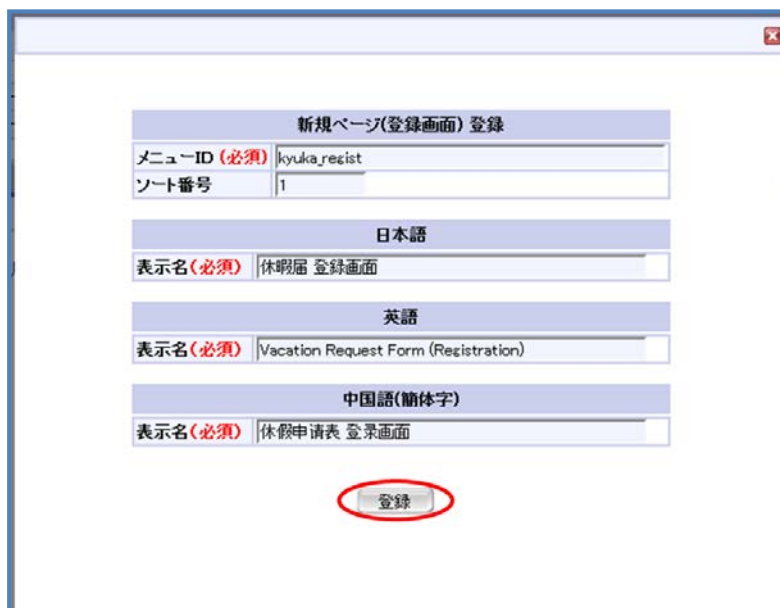
「新規ページ(登録画面)」を選択して、新規ページ(登録画面)を表示します。



<[メニュー設定]画面>

### 13 登録画面メニューの各項目を次のように設定し、[登録]ボタンをクリックします。

メニューID	kyuka_regist
ソート番号	1
表示名[日本語]	休暇届 登録画面
表示名[英語]	Vacation Request Form (Registration)
表示名[中国語]	休假申请表 登录画面



<[新規ページ(登録画面)登録]画面>



- 画面を表示するためのメニュー登録は、グループ管理者画面の[メニュー設定]からでも行うことができますが、IM-FormaDesignerの[メニュー設定]画面から登録画面を設定することで、画面を表示する際に必要な「URL」や「引数」の指定を自動的に行います。グループ管理者画面からメニューを登録する場合は、それらの設定を手動で入力する必要があります。
- スマートフォン用の画面は、グループ管理者の[メニュー設定]から行う必要があります。

URLには以下を設定してください。

登録画面

forma/normal/view/regist\_application\_view\_sp.jsp

一覧画面

forma/normal/view/list\_view.jsp

引数には以下を設定してください。

キー:imfr\_application\_id

値:(登録画面のアプリケーションID)

## 14 [IMメニュー更新]画面が表示されます。

ここではメニュー表示に関する権限を設定します。

一覧表示権限設定にあわせて、権限に「ゲストロール」を追加します。

[更新]ボタンをクリックしたら、メニュー(登録画面)の登録は終了です。

休暇届 登録画面

メニューID(必須) kyuka\_regist

表示名(必須)(国際) 日本語 休暇届 登録画面

クライアントタイプ パソコン

URL(必須) /view/regist\_application\_view.jsp

引数	キー	値	編集
<input type="checkbox"/>	imfr_application_id	kyuka	<input type="button" value="編集"/>

アイコン画像ファイルパス

備考

権限リスト

ロール	組織	役職	パブリックグループ
<input type="checkbox"/>	ロール名	表示名	
<input type="checkbox"/>	guest	ゲストロール	

<[IMメニュー更新]画面>

## 15 登録したフォルダに一覧画面のメニューを登録します。

[休暇届]フォルダをクリックして、[メニュー設定]ウィンドウを表示させます。  
「新規ページ（一覧画面）」を選択して、新規ページ（一覧画面）を表示します。



<[メニュー設定]画面>

## 16 一覧画面メニューの各項目を次のように設定し、[登録]ボタンをクリックします。

メニューID	kyuka_list
ソート番号	2
表示名[日本語]	休暇届 一覧画面
表示名[英語]	Vacation Request Form (List)
表示名[中国語]	休假申请表 目录画面

<[新規ページ（一覧画面）登録]画面>

## 17

[IMメニュー更新]画面が表示されます。

ここではメニュー表示に関する権限を設定します。

一覧表示権限設定にあわせて、権限に「ゲストロール」を追加します。

[更新]ボタンをクリックしたら、メニュー(一覧画面)の登録は終了です。

休暇届 一覧画面

メニューID(必須) kyuka\_list

表示名(必須)(国際) 日本語 休暇届 一覧画面

クライアントタイプ パソコン

URL(必須) forma/normal/view/list\_view.jssp

引数	キー	値	編集
<input type="checkbox"/>	imfr application	kyuka	<input type="button" value="編集"/>

アイコン画像ファイルパス

備考

権限リスト

ロール	組織	役職	パブリックグループ
<input type="checkbox"/>	ロール名	表示名	
<input checked="" type="checkbox"/>	guest	ゲストロール	

<[IMメニュー更新]画面>

## 18

登録したメニューが[メニュー設定]画面に表示されます。

[一覧項目設定]タブをクリックして、[一覧表示項目設定]画面を表示します。

メニュー設定

戻る

アプリケーションID kyuka

アプリケーション名 休暇届

アプリケーション情報 フォーム設定 テーブル設定 権限設定 メニュー設定 **一覧項目設定**

日本語 最新表示

Formaアプリ

- WF申請書再利用
- 休暇届
  - 休暇届 登録画面
  - 休暇届 一覧画面

<[メニュー設定]画面>

## 19 [一覧表示項目設定]画面が表示されます。

[選択項目一覧]リストから、「編集、削除、詳細、更新URL、詳細URL、所属、氏名、休暇開始日、休暇日数」を選択し、[選択]リンクをクリックします。



<[一覧表示項目設定]画面>



- 「選択項目一覧」には、フォームを作成するときに設定した項目が表示されます。ただし、[明細テーブル]アイテムの項目や、「フィールド値DB登録」がOFFの項目は表示されません。

## 20 選択した項目が[表示項目一覧]リストに設定され、一覧表示プレビューに一覧の形式で表示されます。 [登録]リンクをクリックして、一覧表示項目設定の登録を行います。



<[一覧表示項目設定]画面>

## 登録結果

一覧表示項目設定

戻る

アプリケーションID: kyuka  
アプリケーション名: 休暇届

アプリケーション情報 / フォーム設定 / テーブル設定 / 権限設定 / メニュー設定 / 一覧項目設定

更新 削除 日本語 最新表示

選択項目一覧

- 休暇終了日
- 事由

表示項目一覧

- 編集
- 削除
- 詳細
- 更新URL
- 詳細URL
- 所属
- 氏名
- 休暇開始日
- 休暇日数

一覧表示レビュー

編集	削除	詳細	更新URL	詳細URL	所属	氏名	休暇開始日	休暇日数
					所属	氏名	休暇開始日	休暇日数

<[一覧表示項目設定]画面>



- 表示項目一覧に表示名でなくフィールド識別IDが表示される場合があります。この場合は、一覧表示設定とフォームとの項目に不整合があるので、該当項目を見直してください。



## 2.2.2 フォーム追加とフォーム遷移

アプリケーションを登録した直後は、「メインフォーム」だけが登録され、登録画面、更新画面、参照画面に結びついています。IM-FormaDesignerでは、[フォーム追加]し[フォーム遷移]設定を行うことによって、メインフォーム以外のフォームをそれぞれの画面で使用することや、フォーム遷移を設定することができます。

フォーム遷移は用途によって、登録画面遷移、更新画面遷移、参照画面遷移に分かれています。

### 登録画面遷移

データの登録、および、ワークフローの申請画面として使用するフォーム遷移です。

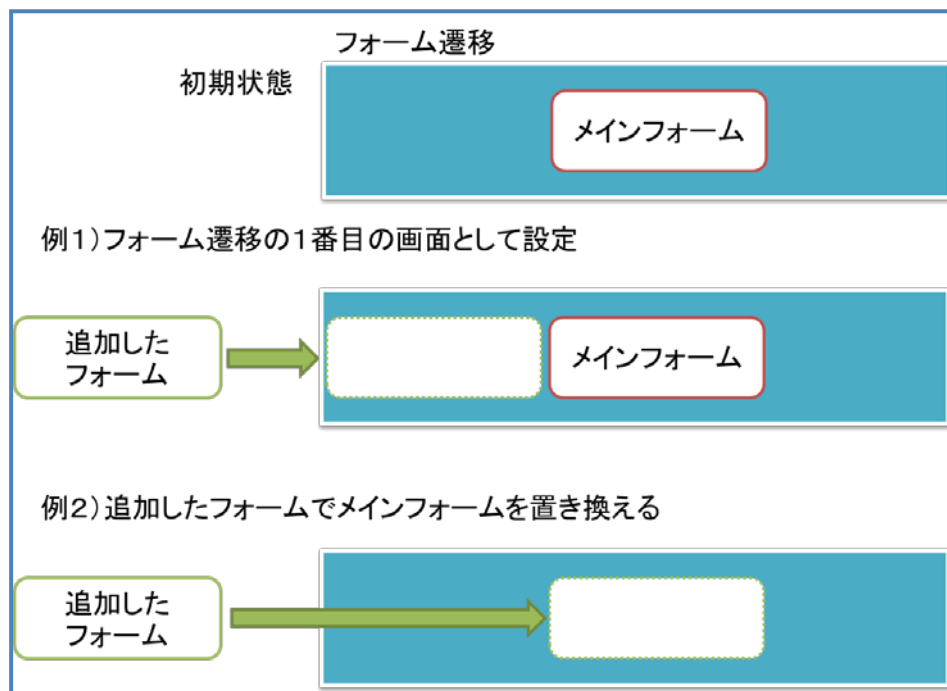
### 更新画面遷移

データの更新、および、ワークフローの再申請画面として使用するフォーム遷移です。

### 参照画面遷移

データの参照、および、ワークフローの承認、確認、参照画面として使用するフォーム遷移です。

追加したフォームを各フォーム遷移に設定することで、複数のフォームで構成された画面遷移する登録画面や更新画面、参照画面を作ることができます。



<[フォーム遷移設定の例]>

ここでは、「休暇届」アプリケーションにフォームを追加して、登録画面遷移の最初の画面として設定する例に従って手順を説明します。



- 1 「休暇届」の[アプリケーション情報]画面を開き、[フォーム設定]タブをクリックします。  
[アプリケーション履歴一覧]画面が表示されます。

アプリケーション情報

戻る

アプリケーションID kyuka  
アプリケーション名 休暇届

アプリケーション情報 **フォーム設定** テーブル設定 権限設定 メニュー設定 一覧項目設定

アプリケーションID kyuka  
バージョン数 1  
アプリケーション種別(必須) 標準  
対象ロケール 日本語, 英語  
対象ロケールの追加

少なくとも一つのロケール情報を設定してください。

日本語

アプリケーション名(必須) 休暇届  
備考

英語

アプリケーション名(必須) Vacation request form  
備考

更新 削除

<[アプリケーション情報]画面>

- 2 [アプリケーション履歴一覧]画面の[編集]リンクをクリックします。  
[アプリケーション履歴情報]画面が表示されます。

アプリケーション履歴一覧

戻る

アプリケーションID kyuka  
アプリケーション名 休暇届

アプリケーション情報 フォーム設定 **テーブル設定** 権限設定 メニュー設定 一覧項目設定

最新 最新表示

詳細 詳細 1-1/1 表示中

編集	アプリケーション履歴番号	有効日付(開始)	有効日付(終了)	備考	更新日
	1	2011/11/01	2999/12/31		2011/11/16

詳細 詳細 1-1/1 表示中

<[アプリケーション履歴一覧]画面>

- 3 [アプリケーション履歴情報]画面の[フォーム一覧]タブをクリックします。  
[フォーム一覧]画面が表示されます。

アプリケーション履歴情報

戻る

アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	1

アプリケーション履歴情報 **フォーム一覧** フォーム遷移一覧 ユーザプログラム一覧

有効日付(開始)(必須)	2011/11/01
有効日付(終了)	2999/12/31
メインフォーム名	メインフォーム

日本語

備考

英語

備考

更新 削除

<[アプリケーション履歴情報]画面>

- 4 [フォーム一覧]画面の[登録]リンクをクリックします。  
[フォーム登録]画面が表示されます。

フォーム一覧

戻る 最新表示

アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	1

アプリケーション履歴情報 フォーム一覧 フォーム遷移一覧 ユーザプログラム一覧

**登録**

編集	フォーム編集	プレビュー	フォーム名	フォーム備考
			メインフォーム	

<[フォーム一覧]画面>

## 5 [フォーム登録]画面でフォーム名を入力し、[登録]ボタンをクリックします。

フォーム名[日本語]

登録前画面フォーム

フォーム名[英語]

Registration Previous Form

<[フォーム登録]画面>

## 6 [フォーム編集]画面で、登録前画面フォームを編集します。 次のようなイメージの「登録前フォーム」を作成します。

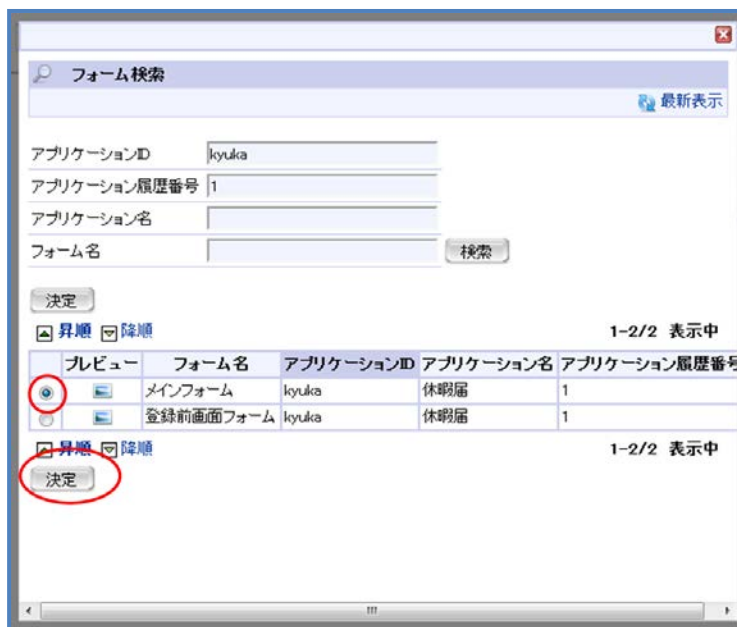
<[登録前フォーム]フォームの作成イメージ>

- 7 [再利用]を使って、メインフォームのアイテムを取得します。  
 [再利用]リンクをクリックします。  
 [フォーム検索]画面が表示されます。



<[フォーム編集]画面>

- 8 [フォーム検索]画面で[メインフォーム]を選択し、[決定]ボタンをクリックします。  
 [フォーム編集]画面にメインフォームのアイテムが表示されます。



<[フォーム検索]画面>

**\*** ● フォームの再利用を行うと、配置していたアイテムなどは全て削除されます。編集中のフォームに対して再利用を行う場合は注意してください。

- 9 必要なアイテムを残して、他のアイテムを削除します。  
 各アイテムの[×]ボタンをクリックすることでアイテムを削除することができます。  
 「休暇期間」、「休暇日数」、「事由」、「登録ボタン」、「横線」のアイテムを削除します。

<[フォーム編集]画面>

- 10 「登録日」と「次へボタン」アイテムを配置します。  
 ツールキットの入力アイテムから[日付]アイテムをドラッグして、アイテムを配置します。  
 プロパティの各項目を以下のように設定します。

アイテム名	登録日アイテム
ラベル	登録日
表示フォーマット	yyyy/MM/dd
フィールド識別名	登録日
フィールド識別ID	create_date
必須入力チェック	ON



<[フォーム編集]画面>

ツールキットのボタンアイテムから[ボタン (次へ)]アイテムをドラッグして、アイテムを配置します。プロパティは変更しません。



<[フォーム編集]画面>

## 11 英語環境でのフォームを設定します。

[ロケール変更リスト]を英語に変更します。上と同様にして、各アイテムの英語表示を設定します。

- 12 アイテムをドラッグしてレイアウトを修正して、[更新]リンクをクリックします。  
[戻る]リンクをクリックして、[フォーム一覧]画面に戻ります。

<[フォーム編集]画面>

- 13 「メインフォーム」の[フォーム編集]リンクをクリックし、メインフォームの[フォーム編集]画面を表示します。

編集	フォーム編集	プレビュー	フォーム名	フォーム備考
			メインフォーム	
			登録前画面フォーム	

<[フォーム一覧]画面>

# 14 「登録日」をメインフォームに追加します。

[ツールキット]の[入力アイテム]グループをクリックして、[日付]アイテムを画面に配置します。  
プロパティの各項目を以下のように設定します。

アイテム名	登録日アイテム
表示タイプ	登録:参照、更新:参照
ラベル	登録日
表示フォーマット	yyyy/MM/dd
フィールド識別名	登録日
フィールド識別ID	create_date
フィールド初期値	現在の日付:OFF



<[フォーム編集]画面>



- フォーム遷移で前のフォームからパラメータを受け取るためには、以下の条件を満たす必要があります。  
前のフォームと同じ[フィールド識別ID]を持つこと。  
前のフォームと同じデータタイプであること(例:文字列アイテムと、データタイプを文字列にした隠しパラメータ。)
- [メインフォーム]を作成し[テーブル設定]を行った後、[メインフォーム]のアイテムの項目の[データタイプ]を変更できません。変更するとデータ登録時にDBテーブルのカラムの型の不一致によりエラーとなります。  
これを回避するためには、アイテムの項目の[フィールド識別ID]を変更してください。



- 15 レイアウトを整えて、[更新]リンクをクリックし、編集したフォームを保存します。[戻る]リンクをクリックし、[フォーム一覧]画面へ戻ります。

<[フォーム編集]画面>

- 16 [フォーム遷移一覧]タブをクリックして、[フォーム遷移一覧]画面を表示します。

編集	フォーム編集	プレビュー	フォーム名	フォーム備考
			メインフォーム	
			登録前画面フォーム	

<[フォーム編集]画面>

- 17 [フォーム遷移一覧]画面の[登録画面遷移]の[詳細編集]リンクをクリックして、[フォーム遷移詳細編集]画面を表示します。



<[フォーム遷移一覧]画面>

- 18 [フォーム遷移詳細編集]画面で、登録画面遷移に追加したフォームを設定します。  
[追加]リンクをクリックして、[フォーム検索]画面を表示します。



<[フォーム遷移詳細編集]>

- 19 「登録前画面フォーム」を選択し、[決定]ボタンをクリックします。  
[フォーム遷移詳細編集]画面に「登録前画面フォーム」が設定されます。



<[フォーム検索]画面>

- 20 「登録前画面フォーム」をドラッグして、フォームの順番を「登録前画面フォーム」、「メインフォーム」の順に変更し、[更新]ボタンをクリックします。  
[戻る]リンクをクリックして、[フォーム遷移一覧]画面を表示します。



<[フォーム遷移詳細編集]画面>

## 21 [戻る]リンクをクリックして、[アプリケーション履歴一覧]画面を表示します。



<[フォーム遷移一覧]画面>

## 22 [テーブル設定]タブをクリックして、[テーブル設定]画面を表示します。



<[アプリケーション履歴一覧]画面>

## 23 [更新]リンクをクリックして、[テーブル更新]画面を表示します。

参照	種別	対象ID	テーブル名
	ヘッダー	imfr_form	imfr_ut_kyuka

<[テーブル設定]画面>

## 24 [更新]リンクをクリックし、メインフォームに追加したアイテムに対応するカラムを追加します。

項目名	列名	データ型	データサイズ	データサイズ(小数部)
登録日	imfr_ut_create_date	日付		

<[テーブル更新]画面>



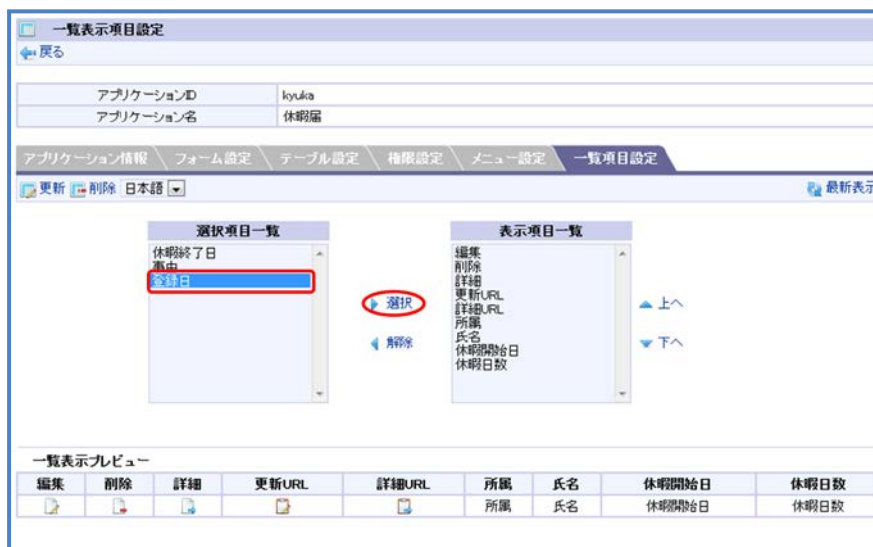
- [メインフォーム]にアイテムを追加した場合、DB登録などを行うためには、[テーブル更新]処理を行う必要があります。
- 更新時にエラーが発生した場合、次のことが原因と考えられますが、詳しくはログを参照してください。  
指定したデータサイズが大きすぎる。  
指定したデータサイズが、前より小さい。

25 [一覧項目設定]タブをクリックし、[一覧表示項目設定]画面を表示します。



<[テーブル設定]画面>

26 追加した項目を一覧画面に表示するために、[一覧表示項目設定]画面で設定します。  
[選択項目一覧]にある、追加した「登録日」を選択し、[選択]リンクをクリックします。



<[一覧表示項目設定]画面>

## 27 [更新]リンクをクリックして、一覧表示項目設定を更新します。

一覧表示項目設定

戻る

アプリケーションID: kyuka  
アプリケーション名: 休暇届

アプリケーション情報 / フォーム設定 / テーブル設定 / 権限設定 / メニュー設定 / 一覧項目設定

更新 削除 日本語 最新表示

選択項目一覧

休暇終了日  
事由

表示項目一覧

編集  
削除  
詳細  
更新URL  
詳細URL  
所属  
氏名  
休暇開始日  
休暇日数

一覧表示レビュー

編集	削除	詳細	更新URL	詳細URL	所属	氏名	休暇開始日	休暇日数	登録日
					所属	氏名	休暇開始日	休暇日数	登録日

<[一覧表示項目設定]画面>



- [メインフォーム]にアイテムを追加した場合、DB登録などを行うためには、[テーブル更新]処理を行う必要があります。



### 2.2.3 アプリケーション履歴を登録する

1つのアプリケーションには複数の[アプリケーション履歴]を登録することができます。[アプリケーション履歴]を利用すると、ある日を境に異なる画面に切り替える設定を行うことができますので、締日以降に新しい申請書の様式に自動的に切り替えることができますようになります。

「休暇届」を設定したアプリケーションに新しい[アプリケーション履歴]を追加するためには、以下の手順に従って操作を行います。



- 複数の[アプリケーション履歴]で有効期間が重なっている場合、アプリケーション履歴番号の大きい方が有効となります。

1

「休暇届」の[アプリケーション情報]画面を開き、[フォーム設定]タブをクリックします。  
[アプリケーション履歴一覧]画面が表示されます。  
[登録]リンクをクリックし、[アプリケーション履歴追加]画面を表示します。



<[アプリケーション履歴一覧]画面>

2

アプリケーション履歴に、以下のように入力し、[登録]ボタンをクリックします。

有効日付(開始)	2010/01/01
有効日付(終了)	2019/12/31
備考[日本語]	v2
備考[英語]	v2



アプリケーション履歴追加

戻る

アプリケーション履歴情報	
アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
有効日付(開始) <b>(必須)</b>	2010/01/01
有効日付(終了)	2019/12/31

日本語

備考 √2

英語

備考 √2

登録

<[アプリケーション履歴追加]画面>



- 「有効日付(終了)」は任意項目です。入力を省略した場合はWebPlatformのシステム終了日(デフォルトでは9999/12/31)になります。

3 登録後、[アプリケーション履歴情報]画面に遷移します。

アプリケーション履歴情報

戻る

アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	2

アプリケーション履歴情報 フォーム一覧 フォーム遷移一覧 ユーザプログラム一覧

有効日付(開始) <b>(必須)</b>	2010/01/01
有効日付(終了)	2019/12/31
メインフォーム名	メインフォーム

日本語

備考 √2

英語

備考 √2

更新 削除

<[アプリケーション履歴情報]画面>



- [アプリケーション履歴追加]処理では、元の履歴のフォームデータやフォーム遷移情報をコピーし、追加した履歴のフォームデータやフォーム遷移情報として登録します。



## 2.2.4 アプリケーションを使用してデータを登録する

一覧画面設定とメニュー設定を行うと、メニューに一覧画面を表示するためのリンクが表示されます。一覧画面を使用すると、登録したアプリケーションを利用してデータの登録を行ったり、登録したデータの参照、編集を行ったりすることができるようになります。

ここでは、一覧画面からデータを登録、編集、参照するための方法を説明します。



### 2.2.4.1 一覧画面から登録する

一覧画面を利用して登録したフォームを利用してデータを登録するためには、以下の手順に従って操作を行います。

1

メニューから[Formaアプリ]-[休暇届]-[休暇届 一覧画面]をクリックします。

休暇届の一覧画面が表示されます。一覧表の項目には、[一覧項目設定]で設定した項目が表示されます。

所属	氏名	休暇開始日	休暇日数	登録日
0-0/0 表示中				

<[休暇届一覧]画面>



- メニューが表示されない場合は、「休暇届」メニューが登録されているかどうか、および、メニューの表示権限設定を確認してください。表示権限が設定されている場合は、ログイン中のユーザがその権限リストに登録されているロール、組織などに所属しているか確認してください。

## 2 [登録]リンクをクリックし、休暇届の登録画面を表示します。



<[休暇届一覧]画面>



- [一覧表示権限設定]で登録権限が設定されていないユーザーの場合、[登録]リンクが表示されません。

## 3 休暇届の登録画面が表示されます。登録画面は、「登録前画面フォーム」、「メインフォーム」の順で遷移するように設定したので、「登録前画面フォーム」の画面が表示されます。各項目を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

<[休暇届登録]画面 1画面目>

- 4 登録フォーム遷移の2番目のフォームの画面が表示されます。  
各項目を入力し、[登録]ボタンをクリックします。登録処理を実行し、一覧画面を表示します。

休暇届

登録日 2012/04/16

所属 サンプル課11 氏名 上田辰男

休暇期間 2012/05/09 ~ 2012/05/11

休暇日数 3 日

事由 5/3 - 5/5の代休

登録

<[休暇届登録]画面 2画面目>

- 5 休暇届一覧画面が表示されます。一覧部分には登録したデータが表示されます。

休暇届

登録 | 検索 最新表示

昇順 降順 1-1/1 表示中

編集	削除	詳細	更新URL	詳細URL	所属	氏名	休暇開始日	休暇日数	登録日
					dept_sample_11	ueda	2012/05/09	3	2012/04/16

昇順 降順 1-1/1 表示中

<[休暇届一覧]画面>

## 2.2.4.2 一覧画面から更新する

アプリケーションを利用して登録したデータを更新するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[Formaアプリ]-[休暇届]-[休暇届 一覧画面]をクリックします。  
休暇届の一覧画面が表示されます。一覧表の項目には、[一覧項目設定]で設定した項目が表示されます。  
登録したデータの[編集]リンクをクリックします。休暇届の更新画面が表示されます。

編集	削除	詳細	更新URL	詳細URL	所属	氏名	休暇開始日	休暇日数	登録日
<a href="#">編集</a>	<a href="#">削除</a>	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">更新URL</a>	<a href="#">詳細URL</a>	dept_sample_11	ueda	2012/05/09	3	2012/04/16

<[休暇届一覧]画面>



- メニューが表示されない場合は、「休暇届」メニューが登録されているかどうか、および、メニューの表示権限設定を確認してください。表示権限が設定されている場合は、ログイン中のユーザがその権限リストに登録されているロール、組織などに所属しているか確認してください。
- 一覧表示項目に[編集]項目を設定していない場合は、[編集]の列が非表示になり、データの更新ができません。また、[一覧表示権限設定]で更新権限が設定されていないユーザーの場合は、[編集]リンクが非表示になります。

- 2 各項目を修正して、[更新]ボタンをクリックします。  
更新処理が実行され、休暇届一覧画面が表示されます。一覧部分には登録したデータが表示されます。

休暇届

登録日 2012/04/16

所属 サンプル課11 氏名 上田辰男

休暇期間 2012/05/14 ~ 2012/05/16

休暇日数 3 日

事由 5/3 - 5/5の代休

更新

<[休暇届更新]画面>

### 3 一覧画面に戻ります。



<[休暇届一覧]画面>



#### 2.2.4.3 一覧画面から参照する

アプリケーションを利用して登録したデータを参照するためには、以下の手順に従って操作を行います。

#### 1

- メニューから[Formaアプリ]-[休暇届]-[休暇届 一覧画面]をクリックします。  
 休暇届の一覧画面が表示されます。一覧表の項目には、[一覧項目設定]で設定した項目が表示されます。  
 登録したデータの[詳細]リンクをクリックします。休暇届の参照画面が表示されます。



<[休暇届一覧]画面>



- メニューが表示されない場合は、「休暇届」メニューが登録されているかどうか、および、メニューの表示権限設定を確認してください。表示権限が設定されている場合は、ログイン中のユーザがその権限リストに登録されているロール、組織などに所属しているか確認してください。
- 一覧表示項目に[詳細]項目を設定していない場合は、[詳細]の列が非表示になり、データの参照ができません。また、[一覧表示権限設定]で参照権限が設定されていないユーザーの場合は、[詳細]リンクが非表示になります。

## 2 休暇届の参照画面が表示されます。

<[休暇届参照]画面>

### 2.2.4.4 一覧画面から削除する

アプリケーションを利用して登録したデータを削除するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[Formaアプリ]-[休暇届]-[休暇届 一覧画面]をクリックします。  
 休暇届の一覧画面が表示されます。一覧表の項目には、[一覧項目設定]で設定した項目が表示されます。  
 登録したデータの[削除]リンクをクリックします。削除を確認するダイアログが表示され、[OK]ボタンをクリックすると該当データが削除されます。

編集	削除	詳細	更新URL	詳細URL	所属	氏名	休暇開始日	休暇日数	登録日
					dept_sample_11	ueds	2012/05/14	3	2012/04/16

<[休暇届一覧]画面>



- メニューが表示されない場合は、「休暇届」メニューが登録されているかどうか、および、メニューの表示権限設定を確認してください。表示権限が設定されている場合は、ログイン中のユーザがその権限リストに登録されているロール、組織などに所属しているか確認してください。
- 一覧表示項目に[削除]項目を設定していない場合は、[削除]の列が非表示になり、データの削除ができません。また、[一覧表示権限設定]で削除権限が設定されていないユーザーの場合は、[削除]リンクが非表示になります。



### 2.2.4.5 登録画面を使う

メニューから直接、登録したフォームを利用してデータを登録するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[Formaアプリ]-[休暇届]-[休暇届 登録画面]をクリックします。  
休暇届の登録画面が表示されます。

<[休暇届登録]画面>



- メニューが表示されない場合は、「休暇届」メニューが登録されているかどうか、および、メニューの表示権限設定を確認してください。表示権限が設定されている場合は、ログイン中のユーザがその権限リストに登録されているロール、組織などに所属しているか確認してください。
- [一覧表示権限設定]で登録権限が設定されていないユーザーの場合、登録画面を表示することはできません。
- 登録画面が表示されない場合は、アプリケーションが正常に登録されているか、現在の日付がアプリケーションのアプリケーション履歴期間の範囲内にあるかどうかを確認してください。

- 2 以降は、「2.2.4.1 一覧画面から登録する」と同様に登録処理を進めます。



## 2.3

# アプリケーションの更新

アプリケーション上の[メインフォーム]にアイテムを追加、削除、変更した場合、データベースの登録内容などを変更する必要があります。

ここでは、intra-mart上に登録したアプリケーションを更新する方法について説明します。



### 2.3.1 アプリケーションを更新する

ここでは、[2.2 アプリケーションの登録]で作成した「休暇届」のアプリケーションを例に、更新する方法について説明します。



#### 2.3.1.1 基本設定を行う

「休暇届」のアプリケーションに対して登録内容を更新するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[Formaアプリ作成]－[アプリ作成]－[アプリ一覧]をクリックします。  
[アプリケーション一覧] 画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 2 一覧から「休暇届」の行にある[編集]リンクをクリックします。  
[アプリケーション情報] 画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 3 [アプリケーション情報]の内容を編集して、[更新]ボタンをクリックします。  
 アプリケーションの更新処理が実行され、[アプリケーション情報]画面に戻ります。画面上に編集した内容が表示されます。



<[アプリケーション情報]画面>



## 2.3.2 アプリケーションのバージョンを更新する

「休暇届」のアプリケーションの[アプリケーション履歴]の内容を更新するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[Formaアプリ作成]－[アプリ作成]－[アプリ一覧]をクリックします。  
[アプリケーション一覧]画面が表示されます。



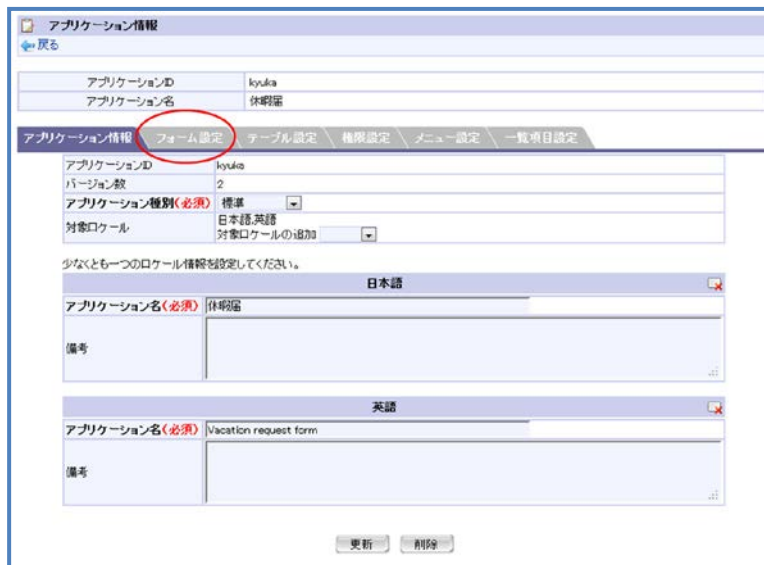
<[アプリケーション一覧]画面>

- 2 一覧から「休暇届」の行にある[編集]リンクをクリックします。  
[アプリケーション情報]画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 3 [フォーム設定]タブをクリックします。  
[アプリケーション履歴一覧] 画面が表示されます。



<[アプリケーション情報]画面>

- 4 一覧から更新する[アプリケーション履歴番号]の行にある[編集]リンクをクリックします。  
[アプリケーション履歴情報]画面が表示されます。



<[アプリケーション履歴一覧]画面>

- 5 アプリケーション履歴情報の内容を編集して、[更新]ボタンをクリックします。  
履歴情報の更新処理が実行され、[アプリケーション履歴情報]画面に編集した内容が表示されます。

アプリケーション履歴情報	
アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇屋
アプリケーション履歴番号	1

アプリケーション履歴情報    フォーム一覧    フォーム遷移一覧    ユーザプログラム一覧

有効日付(開始)(必須)	2011/11/01
有効日付(終了)	2009/12/31
メインフォーム名	メインフォーム

日本語

備考	v1
----	----

英語

備考	v1
----	----

更新    削除

<[アプリケーション履歴情報]画面>

# 2.4

## アプリケーションの削除

intra-mart上に登録したアプリケーションが不要になった場合は、アプリケーションを削除します。ここでは、intra-mart上に登録したアプリケーションを削除する方法について説明します。

アプリケーションを削除した際に削除されるデータは以下となります。

■「アプリケーションデータを格納するテーブルも削除します。」にチェックした場合

\* マスタデータ

IM-FormaDesignerアプリケーション定義情報

WF連携設定情報(アプリケーション種別「IM-Workflow」の場合)

\* トランザクションデータ

アプリケーションに紐づく入力データ(添付ファイルデータについては対象外)

IM-Workflowの案件と入力データの紐付けデータ(アプリケーション種別「IM-Workflow」の場合)

■「アプリケーションデータを格納するテーブルも削除します。」にチェックしなかった場合

\* マスタデータ

IM-FormaDesignerアプリケーション定義情報

WF連携設定情報(アプリケーション種別「IM-Workflow」の場合)



■アプリケーションの削除を行っても、IM-Workflowコンテンツ定義、案件データは削除されません。IM-Workflowのデータが削除されないため、そのままではIM-Workflowで起票や申請が可能な申請書一覧に表示される状態のままとなります。ただし、登録画面は表示されないため起票、申請処理は続行できません。



### 2.4.1 アプリケーションを削除する

「休暇届」のアプリケーションを削除するためには、以下の手順に従って操作を行います。

1

メニューから[Formaアプリ作成] - [アプリ作成] - [アプリ一覧]をクリックします。  
[アプリケーション一覧]画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 2 一覧から「休暇届」の行にある[編集]リンクをクリックします。  
[アプリケーション情報] 画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 3 [削除]ボタンをクリックして、「休暇届」アプリケーションを削除します。  
[確認]ダイアログが表示されます。

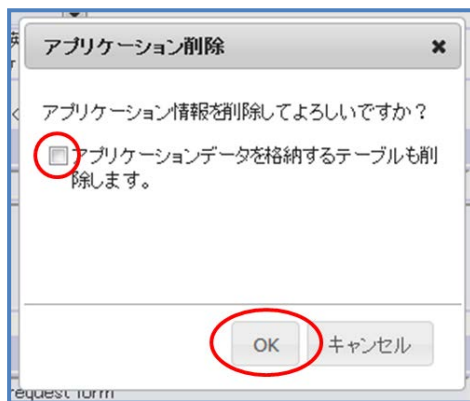


<[アプリケーション情報]画面>



- [アプリケーション履歴一覧]画面に複数の[アプリケーション履歴]が表示されている場合は、アプリケーションを削除することができません。この場合は、最初に[アプリケーション履歴]を削除する必要があります。[アプリケーション履歴]を削除する場合は[2.4.1 アプリケーションを削除する]を参照してください。

- 4 [OK]ボタンをクリックすると、アプリケーションを削除します。  
「アプリケーションデータを格納するテーブルも削除します。」にチェックをONにして[OK]ボタンをクリックすると、[テーブル設定]で作成したテーブルも削除されます。  
当該アプリケーションを利用して登録されたデータを残したい場合には、チェックをOFFにして[OK]ボタンをクリックしてください。  
[キャンセル]ボタンをクリックすると、アプリケーションの削除を中止します。



<[確認]ダイアログ>



- チェックボックスをOFFにして[OK]ボタンをクリックした場合は、データベースからテーブルを削除しません。テーブルを削除しない場合は登録するデータを保持しておくことはできますが、他のアプリケーションで同じテーブル名を使用できません。また、後で明示的にテーブルを削除するためには、データベースから直接削除する必要があります。





## 2.4.2 アプリケーション履歴を削除する

「休暇届」のアプリケーションの[アプリケーション履歴]を削除するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[Formaアプリ作成]－[アプリ作成]－[アプリ一覧]をクリックします。  
[アプリケーション一覧]画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 2 一覧から「休暇届」の行にある[編集]リンクをクリックします。  
[アプリケーション情報]画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 3 [フォーム設定]タブをクリックします。  
[アプリケーション履歴一覧]画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Application Information' (アプリケーション情報) screen. At the top, there are fields for 'Application ID' (アプリケーションID) and 'Application Name' (アプリケーション名), both set to 'kyuka' and '休暇届' respectively. Below this is a tabbed interface with 'Form Settings' (フォーム設定) selected and circled in red. The 'Form Settings' section includes fields for 'Application ID', 'Version Count' (バージョン数), 'Application Type' (アプリケーション種別), and 'Target Localization' (対象ロケール). Below these are sections for 'Japanese' (日本語) and 'English' (英語), each with a field for 'Application Name' (アプリケーション名) and a 'Remarks' (備考) field. The Japanese name is '休暇届' and the English name is 'Vacation request form'. At the bottom, there are 'Update' (更新) and 'Delete' (削除) buttons.

<[アプリケーション情報]画面>

- 4 削除するアプリケーション履歴の[編集]リンクをクリックします。  
[アプリケーション履歴情報]画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Application History Overview' (アプリケーション履歴一覧) screen. It features a table with columns for 'Application ID', 'Application Name', 'Application History Number' (アプリケーション履歴番号), 'Valid Start Date' (有効日付(開始)), 'Valid End Date' (有効日付(終了)), 'Remarks' (備考), and 'Update Date' (更新日). The second row is selected, and its 'Edit' (編集) link is circled in red. The table data is as follows:

アプリケーション履歴番号	有効日付(開始)	有効日付(終了)	備考	更新日
1	2011/11/01	2999/12/31	v1	2011/11/26
2	2010/01/01	2019/12/31	v2	2011/11/25

<[アプリケーション履歴一覧]画面>

- 5 [削除]ボタンをクリックして、[アプリケーション履歴]を削除します。  
[確認]ダイアログが表示されます。

アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	2

アプリケーション履歴情報 | フォーム一覧 | フォーム遷移一覧 | ユーザプログラム一覧

有効日付(開始)(必須) | 2010/01/01

有効日付(終了) | 2019/12/31

メインフォーム名 | メインフォーム

日本語

備考 | √2

英語

備考 | √2

更新 | 削除

<[アプリケーション履歴情報]画面>

- 6 [OK]ボタンをクリックすると、[アプリケーション履歴]を削除します。  
[キャンセル]ボタンをクリックすると、アプリケーションの削除を中止します。

削除してよろしいですか?

OK | キャンセル

<[確認]ダイアログ>

# 2.5

## ユーザプログラムの管理

アプリケーションの入力チェックや、後処理に利用するユーザプログラムを登録、更新、削除することができます。

入力チェックや後処理で利用するユーザプログラムをアプリケーションに登録することにより、IM-FormaDesignerの入力チェックや登録、更新、削除処理に実行するプログラムを追加することができます。

プログラムの作成方法についてIM-FormaDesignerの「プログラミングガイド」をご覧ください。

ここでは、「休暇届」を例に、後処理にユーザプログラムを登録する方法を説明します。



### 2.5.1 ユーザプログラムを登録する

アプリケーションにユーザプログラムを登録するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[Formaアプリ作成]－[アプリ作成]－[アプリ一覧]をクリックします。  
[アプリケーション一覧]画面が表示されます。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 2 一覧から「休暇届」の行にある[編集]リンクをクリックします。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 3 [フォーム設定]タブをクリックします。  
[アプリケーション履歴一覧]画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Application Information' page with the 'Form Settings' tab selected. The application ID is 'kyuka' and the name is '休暇届'. Below the tabs, there are fields for 'Application ID', 'Version Count', 'Application Type', and 'Target Role'. A note indicates that at least one role information must be set. There are sections for 'Japanese' and 'English' with fields for 'Application Name' and 'Remarks'. At the bottom, there are 'Update' and 'Delete' buttons.

<[アプリケーション情報]画面>

- 4 ユーザプログラムを登録するアプリケーション履歴の[編集]リンクをクリックします。  
[アプリケーション履歴情報]画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Application History List' page. It displays a table with columns for 'Edit', 'Application History Number', 'Effective Date (Start)', 'Effective Date (End)', 'Remarks', and 'Update Date'. The second record is highlighted, and its 'Edit' link is circled in red. The table shows two records for application ID 'kyuka'.

編集	アプリケーション履歴番号	有効日付(開始)	有効日付(終了)	備考	更新日
	1	2011/11/01	2999/12/31		2012/03/13
	2	2010/01/01	2019/12/31 v2		2012/03/13

<[アプリケーション履歴一覧]画面>

- 5 [ユーザプログラム一覧]タブをクリックします。  
[ユーザプログラム一覧]画面が表示されます。



<[アプリケーション履歴情報]画面>

- 6 後処理プログラム登録の[追加]リンクをクリックします。  
[ユーザプログラム登録]画面が表示されます。



<[ユーザプログラム一覧]画面>

## 7 [ユーザプログラム登録]画面で各項目に以下のように入力します。

プログラムパスには、実際に配置するプログラムファイルのパスを記述してください。

他の後処理プログラム(ここでは更新と削除)にも同様の入力内容で登録する場合には、コピーのチェックボックスにチェックを入れてください。

[登録]ボタンをクリックします。

プログラム種別	スクリプト開発モデル
プログラムパス	path/to/user_program/script_program
プログラム名[日本語]	連携処理 1
プログラム名[英語]	co-operation 1
後処理プログラム[更新]にコピー	ON
後処理プログラム[削除]にコピー	ON

<[ユーザプログラム登録]画面>



- **プログラムパスについて**  
プログラム種別がスクリプト開発モデルとJavaEE開発モデルとの場合にプログラムパスの記述方法とプログラムの配置場所が異なります。それぞれの記述方法と配置場所は以下の通りです。
- **プログラム種別: スクリプト開発モデルの場合**  
プログラムファイルは、「スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ」配下に配置してください。プログラムパスには、ここをルートとしたパスを記述します。  
例: スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリが C:/imart/pages で、配置場所が C:/imart/pages/src/myprogram/program01.js の場合、プログラムパスは、myprogram/program01となります。
- **プログラム種別: JavaEE開発モデルの場合**  
プログラムファイル(jarファイル、またはclassファイル)は、クラスパスの通ったところに配置してください。プログラムパスには、パッケージ名.クラス名を記述します。  
例: パッケージ名が jp.co.mypackage、クラス名が ProgramClass の場合、プログラムパスは、jp.co.mypackage.ProgramClassとなります。

8 登録後、[戻る]リンクをクリックして、[ユーザプログラム一覧]画面へ戻ります。

ユーザプログラム情報	
アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	2
ユーザプログラム種別	後処理
実行処理種別	登録

ユーザプログラム情報	
プログラム種別(必須)	スクリプト開発モデル
プログラムパス(必須)	path/to/user_program/script_program

日本語	
プログラム名(必須)	連携処理1
備考	

英語	
プログラム名(必須)	co-operation 1
備考	

更新 削除

<[ユーザプログラム情報]画面>

9 後処理プログラムの登録と更新、削除にそれぞれ登録した情報が表示されます。

ユーザプログラム一覧	
アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	2

アプリケーション履歴情報 / フォーム一覧 / フォーム遷移一覧 / ユーザプログラム一覧

入力チェックプログラム		
編集	プログラム名	備考

後処理プログラム - 登録		
編集	プログラム名	備考
	連携処理1	

後処理プログラム - 更新		
編集	プログラム名	備考
	連携処理1	

後処理プログラム - 削除		
編集	プログラム名	備考
	連携処理1	

<[ユーザプログラム一覧]画面>





## 2.5.2 ユーザプログラムを更新する

アプリケーションにユーザプログラムを更新するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 [ユーザプログラム一覧]を表示します。  
「2.5.1 ユーザプログラムを登録する」の操作を行って、ユーザプログラム一覧を表示します。

ユーザプログラム一覧		
アプリケーションID	kyuka	
アプリケーション名	休暇届	
アプリケーション履歴番号	2	
<a href="#">戻る</a> <span style="float: right;"><a href="#">最新表示</a></span>		
アプリケーション履歴情報 / フォーム一覧 / フォーム遷移一覧 / <b>ユーザプログラム一覧</b>		
<b>入力チェックプログラム</b> <a href="#">追加</a>		
編集	プログラム名	備考
<a href="#">連携処理1</a>		
<b>後処理プログラム - 登録</b> <a href="#">追加</a>		
編集	プログラム名	備考
<a href="#">連携処理1</a>		
<b>後処理プログラム - 更新</b> <a href="#">追加</a>		
編集	プログラム名	備考
<a href="#">連携処理1</a>		
<b>後処理プログラム - 削除</b> <a href="#">追加</a>		
編集	プログラム名	備考
<a href="#">連携処理1</a>		

<[ユーザプログラム一覧]画面>

- 2 後処理プログラム登録の[編集]リンクをクリックします。  
[ユーザプログラム情報]画面が表示されます。

ユーザプログラム一覧		
アプリケーションID	kyuka	
アプリケーション名	休暇届	
アプリケーション履歴番号	2	
<a href="#">戻る</a> <span style="float: right;"><a href="#">最新表示</a></span>		
アプリケーション履歴情報 / フォーム一覧 / フォーム遷移一覧 / <b>ユーザプログラム一覧</b>		
<b>入力チェックプログラム</b> <a href="#">追加</a>		
編集	プログラム名	備考
<a href="#">連携処理1</a>		
<b>後処理プログラム - 登録</b> <a href="#">追加</a>		
編集	プログラム名	備考
<a href="#">連携処理1</a>		
<b>後処理プログラム - 更新</b> <a href="#">追加</a>		
編集	プログラム名	備考
<a href="#">連携処理1</a>		
<b>後処理プログラム - 削除</b> <a href="#">追加</a>		
編集	プログラム名	備考
<a href="#">連携処理1</a>		

<[ユーザプログラム一覧]画面>

- 3 [ユーザプログラム情報]画面で以下のように入力します。  
[更新]ボタンをクリックします。

プログラム種別	スクリプト開発モデル
プログラムパス	path/to/user_program/script_program2
プログラム名[日本語]	連携処理2
プログラム名[英語]	co-operation 2

ユーザプログラム情報

戻る

アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	2
ユーザプログラム種別	後処理
実行処理種別	登録

ユーザプログラム情報

プログラム種別(必須) スクリプト開発モデル

プログラムパス(必須) path/to/user\_program/script\_program2

日本語

プログラム名(必須) 連携処理2

備考

英語

プログラム名(必須) co-operation 2

備考

更新 削除

<[ユーザプログラム情報]画面>



### 2.5.3 ユーザプログラムを削除する

アプリケーションに登録したユーザプログラムを削除するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 [ユーザプログラム一覧]を表示します。  
「2.5.1 ユーザプログラムを登録する」の操作を行って、ユーザプログラム一覧を表示します。

アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	2

アプリケーション履歴情報 / フォーム一覧 / フォーム遷移一覧 / ユーザプログラム一覧

入力チェックプログラム		
編集	プログラム名	備考

後処理プログラム - 登録		
編集	プログラム名	備考
連携処理2		

後処理プログラム - 更新		
編集	プログラム名	備考
連携処理1		

後処理プログラム - 削除		
編集	プログラム名	備考
連携処理1		

<[ユーザプログラム一覧]画面>

- 2 後処理プログラム登録の[編集]リンクをクリックします。  
[ユーザプログラム情報]画面が表示されます。

アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	2

アプリケーション履歴情報 / フォーム一覧 / フォーム遷移一覧 / ユーザプログラム一覧

入力チェックプログラム		
編集	プログラム名	備考

後処理プログラム - 登録		
編集	プログラム名	備考
連携処理2		

後処理プログラム - 更新		
編集	プログラム名	備考
連携処理1		

後処理プログラム - 削除		
編集	プログラム名	備考
連携処理1		

<[ユーザプログラム一覧]画面>

- 3 [削除]ボタンをクリックして、[ユーザプログラム]を削除します。  
[確認]ダイアログが表示されます。

The screenshot shows the 'ユーザプログラム情報' (User Program Information) screen. At the top, there is a table with the following data:

アプリケーションID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
アプリケーション履歴番号	2
ユーザプログラム種別	後処理
実行処理種別	登録

Below this table is a section titled 'ユーザプログラム情報' (User Program Information) with the following fields:

- プログラム種別(必須): スクリプト開発モデル
- プログラムパス(必須): path/to/user\_program/script\_program2

There are two language sections: '日本語' (Japanese) and '英語' (English). Each section has a 'プログラム名(必須)' (Program Name) field and a '備考' (Remarks) field.

- 日本語: プログラム名(必須) is '連携処理2', 備考 is empty.
- 英語: プログラム名(必須) is 'co-operation 2', 備考 is empty.

At the bottom of the screen, there are two buttons: '更新' (Update) and '削除' (Delete). The '削除' button is circled in red.

<[ユーザプログラム情報]画面>

- 4 [OK]ボタンをクリックすると、[ユーザプログラム]を削除します。  
[キャンセル]ボタンをクリックすると、ユーザプログラムの削除を中止します。

The screenshot shows a confirmation dialog box with the following text:

削除してよろしいですか?

At the bottom of the dialog, there are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

<[確認]ダイアログ>

# 2.6

## PDF出力のための設定

ここでは、IM-FormaDesignerのフォームをPDFファイルとして出力する設定と方法について説明します。



### 2.6.1 PDF出力機能とは

IM-FormaDesignerのアプリケーションからPDFファイルにダウンロードできます。  
PDFの出力は、アプリケーションの一覧表示画面、参照画面上に配置した画面アイテム「ボタン(イベント)」で実行できます。



- 一覧表示画面からPDFファイルを出力する場合、実行するユーザに対象のアプリケーションに対する参照権限を付与する必要があります。



### 2.6.2 PDFファイルとして出力できる内容

IM-FormaDesignerのアプリケーションからPDFファイルとして出力できる内容は、フォーム遷移「参照遷移」に設定されている参照画面です。

フォーム画面で複数のフォームを遷移するように設定していた場合、最初に表示するフォームのみがPDFとして出力できます。

2番目以降に遷移するフォームをPDFとして出力するときは、そのフォーム上に画面アイテムの「ボタン(イベント)」を配置し、スクリプトでPDFを出力するように設定してください。



- 以下はPDFファイルに出力されませんので、ご注意ください。
  - ・画面アイテムのプロパティ「表示スタイル」で「参照画面」が「非表示」に設定されている画面アイテム
  - ・表示イメージが「ボタン」形式となる画面アイテム(標準の画面アイテムでは「ボタン(登録)」「ボタン(次へ)」「ボタン(戻る)」「ボタン(一覧へ戻る)」「ボタン(一時保存)」「ボタン(イベント)」が該当します。)
  - ・画面アイテム「イメージ」でgif形式の画像ファイルを参照している場合(配置していた場合には、その範囲の枠だけが出力されます。)



## 2.6.3 PDFファイルを一覧表示画面から出力するための設定方法

アプリケーションの「一覧表示項目設定」で「PDF」を表示項目一覧に追加します。



<[一覧表示項目設定]画面>



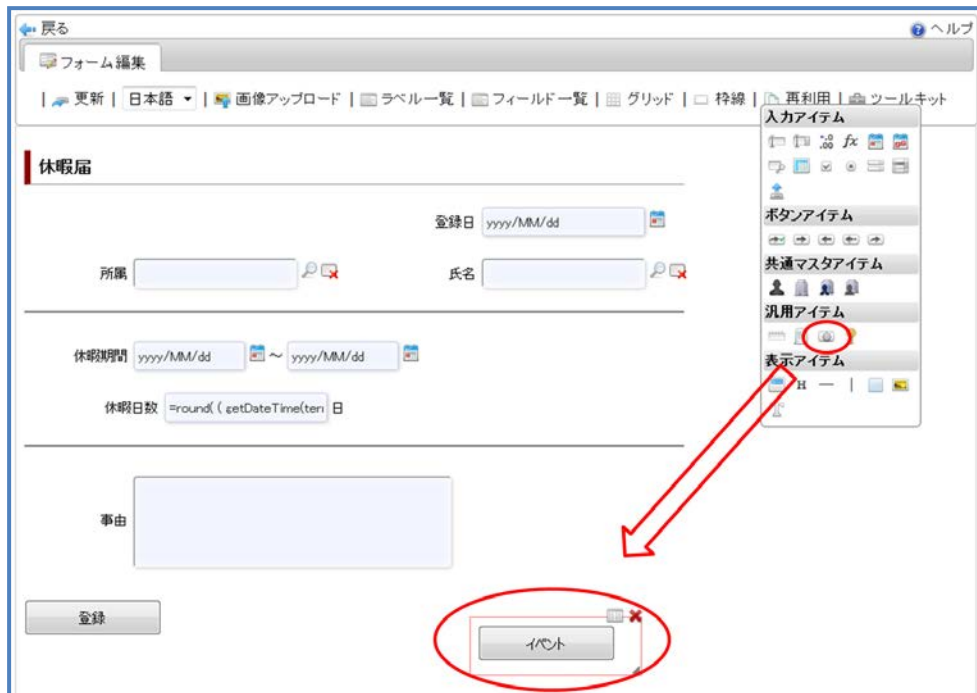
<[一覧表示項目設定]画面>



## 2.6.4 PDFファイルをボタンで出力するための設定方法

フォームに画面アイテム「ボタン(イベント)」を配置し、ボタンを押下することによってPDF出力するための設定方法を説明します。

- 1 参照画面として利用するフォームに画面アイテム「ボタン(イベント)」を配置します。



<[フォーム編集]画面>

- 2 画面アイテム「ボタン(イベント)」のプロパティを設定します。  
プロパティのスクリプトタブを開き、PDF出力の関数「printPage();」を記述します。



<[ボタン(イベント)のプロパティ]>

参照画面として、ボタン(イベント)を配置した画面を表示し、ボタンをクリックするとPDFファイルが生成されダウンロードを開始します。



- 画面アイテム「ボタン(イベント)」でPDF出力する場合の注意  
画面アイテム「ボタン(イベント)」を利用してPDF出力を行う場合、そのボタンは参照画面にのみ配置するようにしてください。  
参照画面以外に配置し、PDF出力処理を行うと正常に動作しません。  
登録画面から印刷処理を実行すると、登録データIDが確定していないため、PDF出力処理に失敗します。  
編集画面から印刷処理を実行すると、PDF出力処理後に更新を実行しても更新されません。

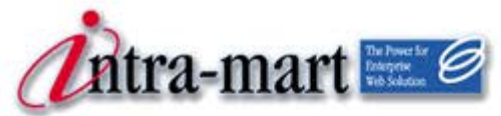


### 2.6.5 PDFファイルの出カイメージの確認方法

フォームの作成時にPDFの出カイメージを確認する場合には、ChromeやSafariを利用してご確認ください。

PDF出力機能は、「wkhtmltopdf」を利用してPDFファイルを生成しておりますが、ファイルの生成時に利用している描画エンジンはChromeやSafariで使用しているWebkitエンジンを利用しています。そのため、PDF出力時のイメージはChromeやSafariを利用したときと同等のものとなります。





**intra-mart WebPlatform/AppFramework**

## 第3章 ワークフローとの連携

# 3.1

## IM-Workflow連携

IM-FormaDesignerで登録したアプリケーションは、IM-Workflowと連携することで、簡単にIM-FormaDesignerで作成した登録画面、更新画面、参照画面をワークフローで使用することができます。

ワークフロー側では、起票、申請時に指定する基準日によって、アプリケーションに設定されているアプリケーション履歴のうち使用するアプリケーション履歴を決定します。そのため、ワークフローでは過去にさかのぼって申請したり、逆に未来で使用されるアプリケーションで申請を行ったりすることができます。

ワークフロー連携を行うと、画面設定とプログラム設定が行われた「コンテンツ定義」が自動生成されます。申請を行うためには、ルートと処理対象者が設定された「ルート定義」と、「コンテンツ定義」「ルート定義」をひとつにまとめた「フロー定義」の設定が追加が必要です。

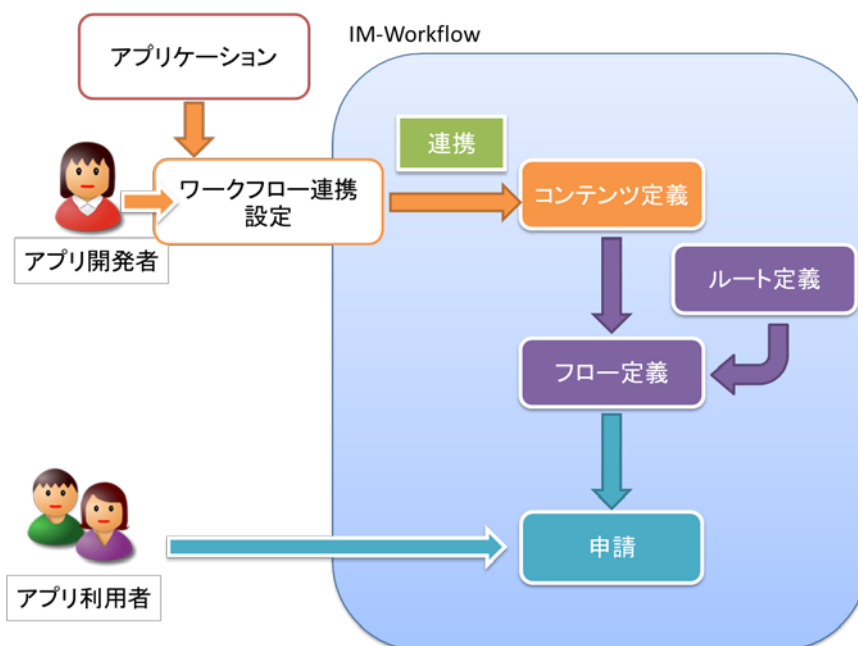
ここでは、IM-FormaDesignerで作成したアプリケーションを、IM-Workflowと連携して使用可能にするための方法について説明します。



### 3.1.1 IM-Workflow連携の概要

IM-Workflowで申請を行うためには、処理の流れと処理対象者の設定を行った「ルート定義」、および、コンテンツ定義とルート定義を紐付けて各ノードの詳細設定を行った「フロー定義」が必要です。

IM-FormaDesignerのIM-Workflow連携機能を利用すると、「登録されたフォームを使用するように設定された画面定義とユーザプログラム定義」が設定されている「コンテンツ定義」が作成されます。ここに足りない「メール定義」「ルール定義」を追加設定して、「ルート定義」と「フロー定義」を新規登録することで、IM-Workflowで使用できるフロー定義が完成します。



<IM-Workflowとの連携>



### 3.1.2 連携するアプリケーションを準備する

IM-Workflow 連携を行うためには、連携するアプリケーションの[アプリケーション種別]が[IM-Workflow]である必要があります。

ここでは、[2.2 アプリケーションの登録]で作成した「休暇届」と同様の手順で作成したIM-Workflow連携用の「休暇届」を使って説明します。



#### 3.1.2.1 IM-Workflow連携用アプリケーションを作成する

[アプリケーション種別]が[IM-Workflow]のアプリケーションを作成します。

- 1 メニューから[Formaアプリ作成]→[アプリ作成]→[アプリ一覧]をクリックします。  
[アプリケーション一覧]画面が表示されます。  
[登録]リンクをクリックして、アプリケーション登録画面を表示します。



<[アプリケーション一覧]画面>

- 2 IM-Workflow連携用のアプリケーションを登録します。

アプリケーションID	kyuka2
アプリケーション種別	IM-Workflow
有効日付(開始)	2011/11/01
対象ロケール	日本語、英語
アプリケーション名[日本語]	休暇届
アプリケーション備考[日本語]	IM-Workflow連携用
アプリケーション名[英語]	Vacation request form
アプリケーション備考[英語]	IM-Workflow co-operation



<[アプリケーション登録]画面>

### 3 フォームの設定を行います。

[2.2.1.2 フォームの設定を行う]と同様にして「休暇届」のフォームの設定を行います。

[フォーム更新]画面で、「登録日」アイテムの[表示タイプ：申請]、[表示タイプ：再申請]を[入力可]に変更します。

### 4 [テーブル設定]を行います。

[2.2.1.3 テーブル設定を行う]と同様にして「休暇届」のテーブル設定を行います。

#### 3.1.2.2 参照フォーム遷移を追加する

IM-Workflow連携の承認画面設定で使用するために、[参照画面遷移]を追加します。  
以降の設定は、IM-Workflow連携のために必須ではありません。

### 1 フォーム追加を行います。

「kyuka2」アプリケーションの[アプリケーション情報]画面を表示します。

[フォーム設定]タブをクリックして[アプリケーション履歴一覧]画面を表示します。

[編集]リンクをクリックして、[アプリケーション履歴情報]画面を表示します。

[フォーム一覧]タブをクリックし、[フォーム一覧]画面を表示します。

[登録]リンクをクリックし、[フォーム登録]画面を表示します。

[フォーム登録]画面から、参照画面を追加します。以下のように各項目を入力し、[登録]ボタンをクリックします。

フォーム名[日本語]	簡略参照画面
フォーム名[英語]	Simple reference

<[フォーム登録]画面>

- 2 [再利用]を利用し、「メインフォーム」をコピーします。  
「事由」アイテムを削除し、[更新]リンクをクリックします。

<[フォーム編集]画面>

3 [戻る]リンクをクリックして、[フォーム一覧]画面を表示します。

<[フォーム編集]画面>

4 [フォーム遷移一覧]タブをクリックし、[フォーム遷移一覧]画面を表示します。

編集	フォーム編集	プレビュー	フォーム名	フォーム備考
			メインフォーム	
			納品参照画面	

<[フォーム一覧]画面>

- 5 [参照画面遷移]の[追加]リンクをクリックします。  
[フォーム遷移登録]画面が表示されます。

登録画面遷移	更新画面遷移	参照画面遷移
編集 詳細編集 デフォルト	編集 詳細編集 デフォルト	編集 詳細編集 デフォルト
フォーム遷移名	フォーム遷移名	フォーム遷移名
フォーム件数	フォーム件数	フォーム件数
登録画面	更新画面	参照画面
1	1	1

<[フォーム遷移一覧]画面>



- [アプリケーション種別]が「IM-Workflow」の場合は、[参照画面遷移]を複数設定することができます。  
[IM-Workflow連携設定]の[承認画面設定]で、ワークフローのノード単位に[参照画面遷移]を設定することができます。

- 6 「簡易参照画面」の[参照遷移]を登録します。  
各項目を以下のように入力し、[登録]ボタンをクリックします。  
[フォーム遷移詳細編集]画面を表示します。

フォーム遷移名[日本語]	簡略参照画面
フォーム遷移名[英語]	Simple reference

日本語	英語
フォーム遷移名(必須)	フォーム遷移名(必須)
簡易参照画面	Simple reference

<[フォーム遷移登録]画面>

7 「簡易参照画面」を追加します。

[追加]リンクをクリックし、[フォーム検索]画面から「簡易参照画面」を選択します。

[更新]ボタンをクリックし、[戻る]リンクをクリックし、[フォーム遷移一覧]画面を表示します。



<[フォーム遷移詳細編集]画面>

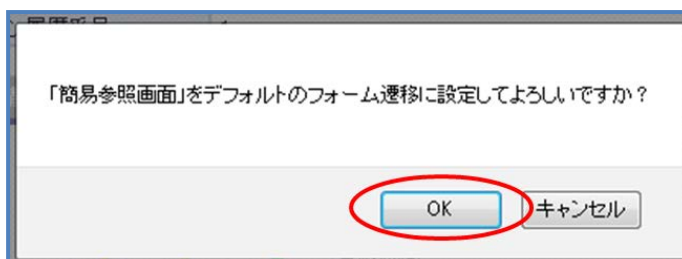
8 デフォルトの遷移を変更します。

「簡易参照画面」の[デフォルト]をクリックして、デフォルトに設定します。



<[フォーム遷移一覧]画面>

9 [OK]ボタンをクリックします。



<[確認]ダイアログ>



## 10 「簡易参照画面」がデフォルトとして表示されます。

以上でIM-Workflow連携で使用するアプリケーションの作成は終了です。

フォーム遷移一覧				
戻る				最新表示
アプリケーションID	kyuka2			
アプリケーション名	休暇届			
アプリケーション履歴番号	1			
アプリケーション履歴情報 / フォーム一覧 / <b>フォーム遷移一覧</b> / ユーザプログラム一覧				
<b>登録画面遷移</b>				
編集	詳細編集	デフォルト	フォーム遷移名	フォーム件数
			登録画面	1
<b>更新画面遷移</b>				
編集	詳細編集	デフォルト	フォーム遷移名	フォーム件数
			更新画面	1
<b>参照画面遷移</b>				
編集	詳細編集	デフォルト	フォーム遷移名	フォーム件数
			参照画面	1
			簡易参照画面	1

<[フォーム遷移一覧]画面>



### 3.1.3 連携するための設定を行う

ここでは、IM-FormaDesignerのワークフロー連携機能を使用して作成した「コンテンツ定義」の確認と、「ルート定義」「フロー定義」を追加設定して、IM-Workflowで使用できるフロー定義として完成させる方法について説明します。



#### 3.1.3.1 IM-Workflow連携用アプリケーションを作成する

IM-Workflow連携を行うためには、連携するアプリケーションのアプリケーション種別が[IM-Workflow]である必要があります。



#### 3.1.3.2 基本設定を行う

IM-Workflowと連携するためには、アプリケーションをIM-Workflow側に登録する基本設定を行います。  
[3.1.2 連携するアプリケーションを準備する]で作成した「休暇届」を例に、IM-Workflow連携する手順を説明します。

1

メニューから[Formaアプリ] - [WF連携設定]をクリックします。

[連携情報] 画面が表示されます。

[登録]リンクをクリックして、[コンテンツ作成]画面を表示します。

<[連携情報]画面>

2

各項目に以下のように入力して[登録]ボタンをクリックします。

[アプリケーション名]は[虫めがね]リンクをクリックし、[アプリケーション検索]画面を表示し、アプリケーションID「kyuka2」を選択します。

コンテンツID	kyuka
アプリケーション名	休暇届
有効日付(開始)	2011/11/01
コンテンツ名[日本語]	休暇届
コンテンツ名[英語]	Vacation request form

コンテンツ名[中国語]

休暇申請表

コンテンツ作成

コンテンツID(必須) kyuka

アプリケーション名(必須) kyuka2

開始日(必須) 2011/11/01

終了日

日本語

コンテンツ名(必須) 休暇届

備考

英語

コンテンツ名(必須) Vacation request form

備考

中国語(簡体字)

コンテンツ名(必須) 休暇申請表

備考

登録

&lt;[コンテンツ作成]画面&gt;



- フォームに[印影表示]アイテムを使用する場合は、「印影を利用するための設定を追加する」のチェックボックスにチェックを入れてください。登録するコンテンツに、印影処理のためのユーザープログラムが追加されます。

### 3 [コンテンツ連携情報]画面が表示されます。

コンテンツ連携情報

アプリケーションID kyuka2

アプリケーション名 休暇届

コンテンツ連携情報 承認画面設定 案件プロパティ設定 追記設定

コンテンツID kyuka

アプリケーションID kyuka2

アプリケーション名 休暇届

コンテンツ名 休暇届

備考

中国語(簡体字)

コンテンツ名 休暇申請表

備考

削除

コンテンツ連携情報の作成に成功しました。IM-Workflowでフロー定義を登録してください。

&lt;[コンテンツ連携情報]画面&gt;

#### 4 メニューから[ワークフロー] (IM-Workflow) – [ワークフローシステム管理者] – [マスタ定義] – [コンテンツ定義]をクリックします。

登録した「休暇届」が一覧に表示されていることを確認します。

以上でIM-Workflow連携の基本的な設定は終了です。



<[コンテンツ定義]画面>



- IM-Workflowをインストールした直後では、メニューに「ワークフロー」が複数表示されますのでご注意ください。
- 上記のメニューが表示されない場合は、IM-Workflowのメニュー設定の表示権限を確認してください。
- IM-Workflowの操作については「IM-Workflow 管理者 操作ガイド」を参照してください。
- IM-Workflow連携機能で作成されたコンテンツ定義をIM-Workflow側で直接変更しないでください。IM-Workflowの画面から操作を行うと、IM-FormaDesignerでの連携設定が上書きされてしまうことがあります。ただし、以下の設定は変更することができます。
  - 「メール定義」「ルール定義」の追加、更新、削除
 詳しくは「1.1.5 IM-Workflow連携の設定手順」を参照してください。



### 3.1.3.3 ルート設定を行う

続けて「ルート定義」の設定を行います。

「ルート定義」では、処理の流れと各処理（ノード）の処理対象者の設定などを行います。



- 「ルート定義」の設定方法については「IM-Workflow 管理者 操作ガイド」を参照してください。



### 3.1.3.4 フロー設定を行う

続けて「フロー定義」の設定を行います。

「フロー定義」では、IM-Workflow連携によって作成された「コンテンツ定義」と、「3.1.3.3 ルート設定を行う」で作成した「ルート定義」を紐付け、各処理（ノード）で行う処理の内容を設定します。IM-Workflowでは、この「フロー定義」を基準にして申請を行うことができます。

IM-Workflow連携によって作成されたコンテンツ定義「休暇届」と、ルート定義「直線ルート」（サンプル）を紐付けた「フロー定義」を作成するためには、以下の手順に従って操作を行います。

1

メニューから[ワークフロー] (IM-Workflow) – [ワークフローシステム管理者] – [マスタ定義] – [フロー定義] をクリックします。

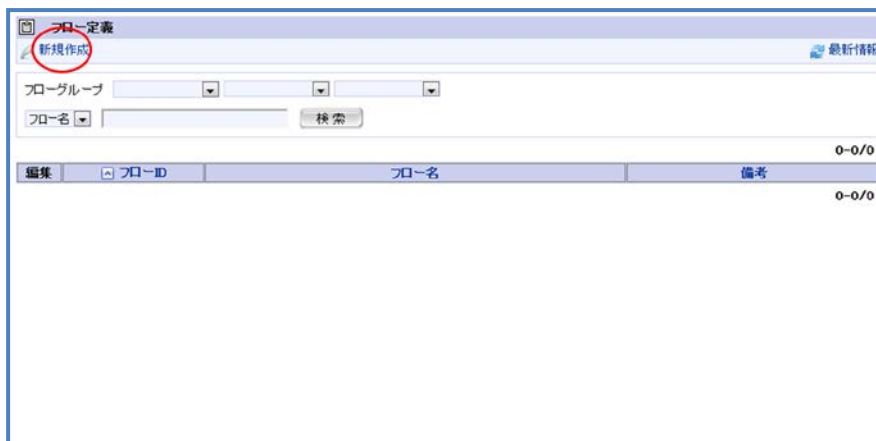
[フロー定義] 画面が表示されます。

<[フロー定義]画面>



- IM-Workflowをインストールした直後では、メニューに「ワークフロー」が複数表示されますのでご注意ください。
- 上記のメニューが表示されない場合は、IM-Workflowのメニュー設定の表示権限を確認してください。
- IM-Workflowの操作については「IM-Workflow 管理者 操作ガイド」を参照してください。

- 2 [新規作成]リンクをクリックします。  
 [フロー定義－新規作成] 画面が表示されます。



<[フロー定義]画面>

- 3 各項目を以下のようにを入力して、[登録]ボタンをクリックします。  
 フロー定義の登録処理が実行され、[フロー定義－編集]画面が表示されます。画面上に登録した内容が表示されます。

フローID	kyuka
フロー名[日本語]	休暇届
フロー名[英語]	Vacation request form
フロー名[中国語]	休假申请表



<[フロー定義 - 新規作成]画面>

- 4 [バージョン]タブの[新規作成]リンクをクリックします。  
[フロー定義-バージョン-新規作成] 画面が表示されます。



<[フロー定義-編集]画面>

- 5 各項目を以下のように入力して、[登録]ボタンをクリックします。  
バージョンの登録処理が実行され、[フロー定義-バージョン-編集]画面が表示されます。画面上に登録した内容が表示され、設定できる項目のタブが追加表示されます。

バージョン期間[開始日]	2011/11/01
コンテンツ	休暇届
ルート	直線ルート

<[フロー定義 - バージョン - 新規作成]画面>

- 6 必要に応じて[参照者] (参照者/標準組織)タブ、[コンテンツ詳細]タブ、および、[ルート詳細]タブの設定を行います。

基本情報		参照者	コンテンツ詳細	ルート詳細
フローID	kyuka			
フロー名	休明簿			
バージョン期間 (必須)	2011/11/01 から 2009/12/31 まで			
バージョン有効/無効 (必須)	● 有効 ○ 無効			
備考	日本語			
	英語			
	中国語			
コンテンツ (必須)	休明簿			
ルート (必須)	連続ルート			
カレンダー				
機能設定	ファイルの添付	● 有効 ○ 無効		
	一括処理	● 有効 ○ 無効 <input type="checkbox"/> 全てのノードに設定		
	一括確認	● 有効 ○ 無効		
	完了した案件の確認	○ 有効 ● 無効		
	自動処理	○ 有効 ● 無効 <input type="checkbox"/> 全てのノードに設定		
自動催促	○ 有効 ● 無効 <input type="checkbox"/> 全てのノードに設定			

<[フロー定義-バージョン-編集]画面>



- ルート内に「分岐開始・終了」「動的承認」「縦配置」「横配置」ノードが存在する場合は、[ルート詳細]タブでの追加設定が必要です。必ず設定を行ってください。
- IM-Workflowの操作については「IM-Workflow 管理者 操作ガイド」を参照してください。



### 3.1.3.5 承認画面設定を行う

IM-Workflowの承認ノード単位に承認画面を設定することができます。

例えば、最終承認者には最終承認者用の承認画面を表示するようにすることができます。



- [承認画面設定]を行うためには、アプリケーションに複数の参照画面遷移を設定しておく必要があります。参照画面遷移の設定については、[3.1.2.2 参照フォーム遷移を追加する]を参照してください。
- [承認画面設定]の設定をしていないノードは、[デフォルト]の参照画面遷移を使用します。
- 承認画面設定できるノードは、承認ノード・動的承認ノード・縦配置ノード・横配置ノードです。(IM-FormaDesigner 7.2.4以降のパッチを適用する必要があります。)

- 1 メニューから[Formaアプリ作成] – [アプリ作成] – [WF連携設定]をクリックし、[連携情報]画面を表示します。「休暇届」の[編集]リンクをクリックし、[コンテンツ連携情報]画面を表示します。

編集	アプリケーションID	アプリケーション名	コンテンツID	コンテンツ名	備考
<a href="#">編集</a>	kyuka2	休暇届	kyuka	休暇届	

<[連携情報]画面>

- 2 [承認画面設定]タブをクリックし、[承認画面設定]画面を表示します。

コンテンツID	kyuka
アプリケーションID	kyuka2
アプリケーション名	休暇届
<input checked="" type="checkbox"/> アプリケーション名を案件名に設定する	
<b>日本語</b>	
コンテンツ名	休暇届
備考	
<b>英語</b>	
コンテンツ名	Vacation request form
備考	
<b>中国語</b>	
コンテンツ名	休假申请表
備考	

<[コンテンツ連携情報]画面>

3 [登録]リンクをクリックし、[承認画面設定登録]画面を表示します。



<[承認画面設定]画面>

4 ノードと参照遷移とを結びつけます。  
ノードIDの[虫めがね]リンクをクリックして、[フロー選択]画面を表示します。



<[承認画面設定登録]画面>

5 「休暇届」のフローの[選択]リンクをクリックします。



<[フロー選択]画面>

- 6 「サンプル部門01」を選択し、[決定]ボタンをクリックします。  
 選択したノードが[承認画面設定登録]画面にセットされます。



<[ノード選択]画面>

- 7 [参照遷移]を「参照画面」に変更して、[登録]ボタンをクリックします。  
 [承認画面設定]画面を表示します。



<[承認画面設定登録]画面>

- 8 登録した承認画面設定が表示されていることを確認します。  
 以上で承認画面設定は終了です。



<[承認画面設定]画面>



### 3.1.3.6 案件プロパティ設定を行う

IM-Workflowには「案件プロパティ定義」が用意されています。IM-FormaDesignerで案件プロパティの連携を行うと、申請時に画面で入力した項目値をIM-Workflowの「未処理一覧」画面や「処理済一覧」画面に表示したり、メールの本文内に入力値を含めたり、分岐などのルールで条件値として使用したりすることができるようになります。

例えば物品購入の稟議書の場合、購入金額を案件プロパティに設定しておくことで、未処理一覧からすべての案件の購入金額を一括で閲覧することができるようになります。

アプリケーション「休暇届」の「休暇日数」を連携させるためには、以下の手順に従って操作を行います。



- 案件プロパティと連携させる項目は、フォームの該当するアイテムが以下の条件を満たしていなければなりません。  
[フィールド値DB登録]がONであること。  
[表示タイプ]が入力可であること。  
[メインフォーム]に同一の項目(フィールド識別IDが同じ項目)があること。
- [明細テーブル]アイテムの各項目は、案件プロパティと連携させることはできません。
- 案件プロパティ設定できるノードは、申請ノード・承認ノード・動的承認ノード・縦配置ノード・横配置ノードです。  
(IM-FormaDesigner 7.2.4以降のパッチを適用する必要があります。)

## 1

メニューから「ワークフロー」(IM-Workflow) - 「ワークフローシステム管理者」 - 「マスタ定義」 - 「案件プロパティ定義」をクリックします。

「案件プロパティ定義」画面が表示されます。



<「案件プロパティ定義」画面>



- IM-Workflowをインストールした直後では、メニューに「ワークフロー」が複数表示されますのでご注意ください。
- 上記のメニューが表示されない場合は、IM-Workflowのメニュー設定の表示権限を確認してください。
- IM-Workflowの操作については「IM-Workflow 管理者 操作ガイド」を参照してください。

- 2 [新規作成]リンクをクリックします。  
[案件プロパティ定義-新規作成] 画面が表示されます。

<[案件プロパティ定義]画面>

- 3 各項目を以下のように入力し、[登録]ボタンをクリックします。  
案件プロパティの登録処理が実行され、[案件プロパティ定義]画面に戻ります。

キー	vacation_days
キー名[日本語]	休暇日数
キー名[英語]	Vacation days
キー名[中国語]	数休假日
型	数値
使用種別	一覧表示項目の項目として使用する:ON
表示位置	右寄せ
検索範囲	範囲検索

<[案件プロパティ定義-新規作成]画面>



- 「キー」と「キー名」はフォームの入力項目の名称と一致させる必要はありません。
- 「使用種別」の「一覧表示項目の項目として使用する」以外は任意です。

4 登録した「休暇日数」が一覧に表示されていることを確認します。



<[案件プロパティ定義]画面>

5 メニューから[Formaアプリ作成] - [アプリ作成] - [WF連携設定]をクリックし、[連携情報]画面を表示します。  
[連携情報] 画面が表示されます。



<[連携情報]画面>

6 [案件プロパティ設定]タブをクリックします。  
[案件プロパティ設定] 画面が表示されます。



<[コンテンツ連携情報]画面>

- 7 [登録]リンクをクリックします。  
[案件プロパティ設定登録] 画面が表示されます。



<[案件プロパティ設定]画面>

- 8 「ノードID」の[虫めがね]リンクをクリックします。  
[フロー選択] 画面が表示されます。



<[案件プロパティ設定登録]画面>

- 9 「休暇届」の[選択]リンクをクリックします。  
[ノード選択] 画面が表示されます。画面上にフロー定義「休暇届」に登録されているルート内のノードが一覧で表示されます。



<[フロー選択]画面>

## 10 「ノード名」から「申請」を選択して、[決定]ボタンをクリックします。

[案件プロパティ設定登録]画面に戻ります。「ノードID」に選択したノードのIDが表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled 'ノード選択' (Node Selection) with a '戻る' (Back) button. It contains two dropdown menus for 'フローバージョン' (Flow Version) and 'ルートバージョン' (Route Version), both set to '2011/11/01-2999/12/31' and '2010/01/01-2999/12/31' respectively. Below these is a list of nodes. The first node, '申請' (Application), is highlighted with a red box. Below the list is a '決定' (Decide) button, also circled in red.

<[ノード選択]画面>

## 11 「案件プロパティキー」から「休暇日数」、「項目ID」から「休暇日数」を選択して、[登録]ボタンをクリックします。

案件プロパティの連携処理が実行され、[案件プロパティ設定]画面に戻ります。画面上に登録した案件プロパティが表示されます。

以上で案件プロパティの連携設定は終了です。

The screenshot shows a dialog box titled '案件プロパティ設定登録' (Case Property Setting Registration) with a search bar for '対象バージョン選択' (Select Target Version). It contains four rows of input fields: 'フローID(必須)' (Flow ID) with value '休暇届', 'ノードID(必須)' (Node ID) with value 'route\_01\_01', '案件プロパティキー(必須)' (Case Property Key) with value 'vacation\_days|休暇日数', and '項目ID(必須)' (Item ID) with value 'vacation\_dates|休暇日数'. Below these fields is a '登録' (Register) button, circled in red.

<[案件プロパティ設定登録]画面>



- 項目IDには案件プロパティと連携することができる項目のみ表示されます。
- 案件プロパティ設定登録後、フォームの該当アイテムを変更し、案件プロパティ連携できる条件を満たさないと、申請、承認時に案件プロパティへ値はセットされません。  
フォームのアイテムの設定を変更する場合は、不整合を起こさないように注意してください。  
(例) 申請ノードで休暇日数を案件プロパティ設定します。休暇日数の[表示タイプ: 申請]を[入力可]から[参照]に変更すると、案件プロパティ連携するためには[入力可]でなければならないので、案件プロパティへ値はセットされません。
- 案件プロパティ設定する項目は、案件プロパティキーと型をそろえる必要があります。異なる型で登録を行った場合、登録時にエラーとなったり、登録は成功しても、IM-Workflowの一覧の該当項目でソートを行うとエラーが発生したりします。
- 日付型やタイムスタンプ型の項目を設定する場合は、フォーマットを「yyyy/MM/dd」にして、案件プロパティキーの型を文字列に設定する必要があります。フォーマットが異なる場合、検索条件にマッチしません。



### 3.1.3.7 追記設定を行う

承認時の承認画面に表示される参照画面では、基本的にすべての項目が編集できない読み取り専用の状態になりますが、追記設定を行うと指定の承認時のみ参照画面の一部項目を編集可能にしたり、非表示に設定したりすることができます。

アプリケーション「休暇届」に追記設定を行うためには、以下の手順に従って操作を行います。



- 追記設定する項目は、フォームの該当するアイテムが以下の条件を満たしていなければなりません。  
[表示タイプ:承認]が「参照」であること。  
[フィールド値DB登録]がONであること。
- 追記設定はアイテム単位で機能します。  
(例)明細テーブルアイテムは、テーブル内の個々の項目でなく、テーブル全体に対して追記設定が機能します。
- 追記設定できるノードは承認ノード・動的承認ノード・縦配置ノード・横配置ノードです。  
(IM-FormaDesigner 7.2.4以降のパッチを適用する必要があります。)

- 1 メニューから[Formaアプリ作成] - [アプリ作成] - [WF連携設定]をクリックし、[連携情報]画面を表示します。  
「休暇届」の[編集]リンクをクリックし、[コンテンツ連携情報]画面を表示します。

編集	アプリケーションID	アプリケーション名	コンテンツID	コンテンツ名	備考
<a href="#">編集</a>	kyuka2	休暇届	kyuka	休暇届	

<[連携情報]画面>

- 2 [追記設定]タブをクリックし、[追記設定]画面を表示します。

コンテンツID	kyuka
アプリケーションID	kyuka2
アプリケーション名	休暇届
<input checked="" type="checkbox"/> アプリケーション名を案件名に設定する	

日本語	
コンテンツ名	休暇届
備考	

英語	
コンテンツ名	Vacation request form
備考	

中国語	
コンテンツ名	休假申请表
備考	

<[コンテンツ連携情報]画面>

- 3 [登録]リンクをクリックします。  
[追記設定登録]画面が表示されます。



<[追記設定]画面>

- 4 ノードIDの[虫めがね]リンクをクリックし、[フロー選択]画面を表示します。



<[追記設定登録]画面>

- 5 「休暇届」を選択し、[ノード選択]画面を表示します。



<[フロー選択]画面>

## 6 「サンプル部門01」のノードを選択し、[決定]ボタンをクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled 'ノード選択' (Node Selection) with a '戻る' (Back) button. It contains two dropdown menus for 'フローバージョン' (Flow Version) and 'ルートバージョン' (Route Version), both set to '2011/11/01-2999/12/31'. Below these is a list of nodes, with 'サンプル部門01' selected and highlighted by a red box. At the bottom, a '決定' (Decide) button is circled in red.

<[ノード選択]画面>

## 7 選択したノードが[ノードID]にセットされます。

項目IDに「事由アイテム」を選択し、[登録]ボタンをクリックします。

追記設定の登録処理が実行され、[追記設定]画面に戻ります。画面上に登録した追記設定が表示されます。

以上で追記設定は終了です。

The screenshot shows a dialog box titled '追記設定登録' (Add Note Setting Registration) with a '対象バージョン選択' (Select Target Version) button. It contains a form with the following fields: 'アプリケーション履歴番号(必須)' (Application History Number) set to '1'; 'フローID(必須)' (Flow ID) set to '休暇届'; 'ノードID(必須)' (Node ID) set to 'route\_01\_02^temp\_02'; 'フォームID(必須)' (Form ID) set to 'メインフォーム'; '項目ID(必須)' (Item ID) set to '事由アイテム'; and '追記種別(必須)' (Note Type) set to '追記可能'. A '登録' (Register) button is circled in red at the bottom.

<[追記設定登録]画面>



- 項目IDには追記設定することができる項目のみ表示されます。
- 追記設定登録後、フォームの該当アイテムを変更し、追記設定できる条件を満たさないと、承認時に追記設定は機能しません。  
フォームのアイテムの設定を変更する場合は、不整合を起こさないように注意してください。  
(例)メインフォームの事由アイテムの[表示タイプ:承認]を[参照]から[入力可]に変更すると、追記設定するためには[参照]でなければならないので、追記設定は機能しません。

「追記種別」は以下の項目から選択することができます。

**追記可能**

設定した項目の入力内容を承認者が変更できるようにします。

**非表示**

設定した項目の入力内容を参照画面上に表示せずに隠します。



### 3.1.4 画面を利用して申請する

IM-Workflow連携機能で連携を行ったアプリケーション「休暇届」を実際に利用して申請を行うためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[ワークフロー] (IM-Workflow) - [申請]をクリックし、[申請]画面を表示します。  
「休暇届」のフローの[申請]リンクをクリックします。  
[休暇届]の登録画面が表示されます。

<[申請]画面>

- 2 各項目を入力して、[申請]ボタンをクリックします。  
[申請]画面が表示されます。

<[休暇届]の登録画面>

- 3 「案件名」に任意の案件名を入力、「担当組織」から任意の組織を選択して、[申請]ボタンをクリックします。  
申請処理が実行され、案件が作成されます。申請処理後は [申請] 画面に戻ります。

申請【申請】	フロー	閉じる
案件名(必須)	体職届(3/23)	
申請者	上田辰男	
申請基準日	2012/03/21	
担当組織(必須)	サンプル課12	
優先度	通常	
コメント		
添付ファイル		
根回しメール		
<input type="button" value="申請"/>		

<[IM-Workflow 申請]画面>



- これ以降のIM-Workflowでの操作方法は「IM-Workflow 利用者 操作ガイド」を参照してください。



### 3.1.5 申請時の登録内容を確認する

IM-Workflow連携機能で連携を行ったアプリケーション「休暇届」を利用して申請した内容を確認するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[ワークフロー] (IM-Workflow) - [処理済]をクリックします。  
[処理済] 画面が表示されます。  
申請した案件の[詳細]リンクをクリックします。  
「休暇届」ダイアログが表示されます。



<[処理済]画面>

- 2 案件申請時に登録した内容が表示されます。  
デフォルトの参照画面遷移に指定した「簡易参照画面」で表示されます。

**休暇届**

---

登録日

所属       氏名

---

休暇期間  ~

休暇日数  日

<[休暇届 参照画面]ダイアログ>



## 3.1.6 連携の設定を更新する

ここでは、IM-FormaDesignerのワークフロー連携機能を使用して作成した「コンテンツ定義」の「承認画面設定」と「案件プロパティ設定」、「追記設定」について、設定内容を更新する方法について説明します。



### 3.1.6.1 承認画面設定を更新・削除する

アプリケーション「休暇届」の[承認画面設定]を更新、削除するためには、以下の手順に従って操作を行います。

1

アプリケーション「休暇届」の[承認画面設定]画面を表示します。

メニューから[Formaアプリ作成] - [アプリ作成] - [WF連携設定]をクリックし、[連携情報]画面を表示します。

「休暇届」の[編集]リンクをクリックし、[コンテンツ連携情報]画面を表示します。

[承認画面設定]タブをクリックし、[承認画面設定]画面を表示します。

一覧から登録した承認画面設定の[編集]リンクをクリックし、[承認画面設定編集]画面を表示します。

編集	フローID	ノードID	アプリケーション履歴番号	参照遷移名
<a href="#">編集</a>	休暇届	route_01_02`temp_02	1	参照画面

<[承認画面設定]画面>

2

参照遷移の設定内容を変更する場合は、新しい内容に変更して[更新]ボタンをクリックします。

また、参照遷移を削除する場合は、[削除]ボタンをクリックします。

<[承認画面設定編集]画面>



- 確認ノードではフォーム遷移の設定時に参照画面遷移でデフォルトに設定した画面(デフォルトの承認画面)が表示されます。

## 3.1.6.2 案件プロパティ設定を更新・削除する

アプリケーション「休暇届」の「案件プロパティ設定」を更新、削除するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 「休暇届」の[案件プロパティ設定]画面を表示します。  
 メニューから[Formaアプリ作成] - [アプリ作成] - [WF連携設定]をクリックし、[連携情報]画面を表示します。  
 「休暇届」の[編集]リンクをクリックし、[コンテンツ連携情報]画面を表示します。  
 [案件プロパティ設定]タブをクリックし、[案件プロパティ設定]画面を表示します。  
 一覧から登録した案件プロパティ設定の[編集]リンクをクリックし、[案件プロパティ設定編集]画面を表示します。



<[案件プロパティ設定]画面>

- 2 案件プロパティの設定内容を変更するには、新しい内容に変更して、[更新]ボタンをクリックします。  
 また、この案件プロパティ設定を削除する場合は、[削除]ボタンをクリックします。



<[案件プロパティ設定編集]画面>



### 3.1.6.3 追記設定を更新・削除する

アプリケーション「休暇届」の「追記設定」を更新、削除するためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 アプリケーション「休暇届」の[追記設定]画面を表示します。  
 メニューから[Formaアプリ作成] - [アプリ作成] - [WF連携設定]をクリックし、[連携情報]画面を表示します。  
 「休暇届」の[編集]リンクをクリックし、[コンテンツ連携情報]画面を表示します。  
 [追記設定]タブをクリックし、[追記設定]画面を表示します。  
 一覧から登録した追記設定の[編集]リンクをクリックし、[追記設定編集]画面を表示します。

編集	フローID	ノードID	アプリケーション履歴番号	フォームID	項目ID	追記種別
	休暇届	route_01_02^temp_02	1	メインフォーム	事由アイテム	追記可能

<[追記設定]画面>

- 2 追記設定の設定内容を変更するには、新しい内容に変更して、[更新]ボタンをクリックします。  
 また、この追記設定を削除する場合は、[削除]ボタンをクリックします。

アプリケーション履歴番号	1
フローID	休暇届
ノードID	route_01_02^temp_02
フォームID	メインフォーム
項目ID	事由アイテム
追記種別(必須)	追記可能

<[追記設定編集]画面>



### 3.1.7 申請書を再利用する

IM-FormaDesignerのアプリケーションを利用して申請した申請書のデータを再利用することで、効率良く新しい申請書を作成して申請することができます。

IM-Workflow連携機能で連携を行ったアプリケーション「休暇届」を利用して申請した内容を元に、新しい申請を行うためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 メニューから[Formaアプリ] - [WF申請書再利用]をクリックし、[再利用]画面を表示します。再利用する案件の行にある[申請]リンクをクリックします。

<[再利用]画面>



- 一覧には、IM-FormaDesignerと連携しているフローを使用して申請した案件のみが表示されます。IM-Workflowから標準の機能で申請を行った案件は表示されません。

- 2 元となる案件の情報から必要な項目内容を変更して、[申請]ボタンをクリックします。[申請]画面が表示されます。

<[休暇届]の登録画面>

- 3 「案件名」に任意の案件名を入力、「担当組織」から任意の組織を選択して、[申請]ボタンをクリックします。  
申請処理が実行され、案件が作成されます。申請処理後は「再利用」画面に戻ります。

申請 [申請]	
フロー <span style="float: right;">✕ 閉じる</span>	
案件名(必須)	休暇届(3/26)
申請者	上田辰男
申請基準日	2012/03/14
担当組織(必須)	サンプル課12 ▼
優先度	通常 ▼
コメント	
添付ファイル	
根回しメール	
<span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">申請</span>	

<[IM-Workflow 申請]画面>



### 3.1.8 連携を解除する

IM-Workflow連携機能で連携を行ったアプリケーション「休暇届」の連携を解除して、IM-Workflowで使用不可にするためには、以下の手順に従って操作を行います。



- 連携を解除した場合でも、IM-Workflow側にコンテンツ定義が残ります。完全に削除するためには、ワークフロー側のコンテンツ定義、フロー定義を削除する必要があります。フロー定義を削除しない場合、[申請]画面に連携したフローが表示されたままとなります。コンテンツ定義を削除するためには、そのコンテンツ定義を使用しているフロー定義を削除する必要があるなど、いくつかの制限があります。詳しくは「IM-Workflow 管理者 操作ガイド」を参照してください。

#### 1

[コンテンツ連携情報]画面を表示します。

メニューから[Formaアプリ作成] - [アプリ作成] - [WF連携設定]をクリックし、[連携情報]画面を表示します。

「休暇届」の[編集]リンクをクリックします。[コンテンツ連携情報]画面が表示されます。



<[連携情報]画面>

#### 2

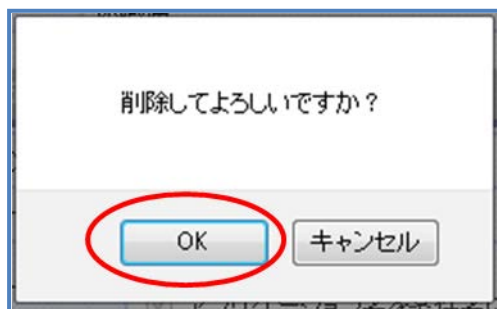
[削除]ボタンをクリックします。

[確認]ダイアログが表示されます。



<[コンテンツ連携情報]画面>

- 3 [OK]ボタンをクリックします。  
コンテンツ連携情報の削除処理が実行され、[連携情報] 画面に戻ります。  
以上でIM-Workflow連携の解除は終了です。



<[確認]ダイアログ>

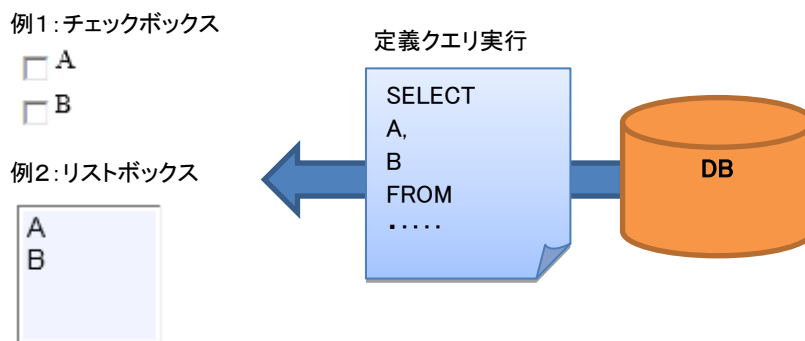
## 第4章 データソース定義

# 4.1

## データソース定義の概要

IM-FormaDesignerで利用する一部のアイテムでは、データソースを定義することにより、アプリ開発者があらかじめ用意したデータベース上のテーブルから取得した値を使用することができます。この機能により、各種アイテムを幅広い用途で使用できます。

データソース定義を使用できるアイテムは、ラジオボタン・チェックボックス・リストボックス・一覧選択です。これらのアイテムでは、定義されているクエリを使用してデータベースから動的に値を取得し、選択項目や登録値として利用する事が可能です。

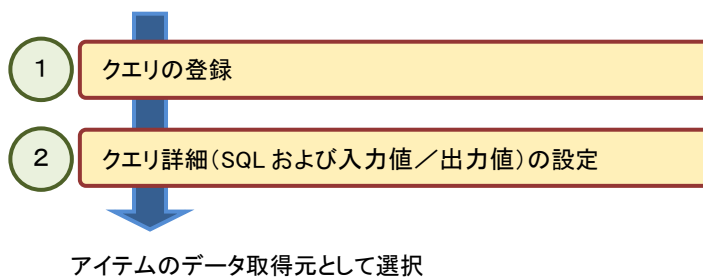


<データソース定義利用イメージ>



### 4.1.1 データソース定義の流れ

データソース定義は、グループDB、またはシステムDBに対してのクエリをそれぞれ登録することができます。ここで登録したクエリは、ラジオボタン、チェックボックス、リストボックス、一覧選択の取得元として利用することができます。入力値/出力値として使用する項目は、クエリ詳細作成時に設定をおこないます。



<データソース定義利用イメージ>

# 4.2

## データソースの登録

アプリ開発管理者がデータソースを登録し、ラジオボタンやチェックボックス、一覧選択等のアイテムで  
使用できるようにします。



### 4.2.1 データソースを登録する

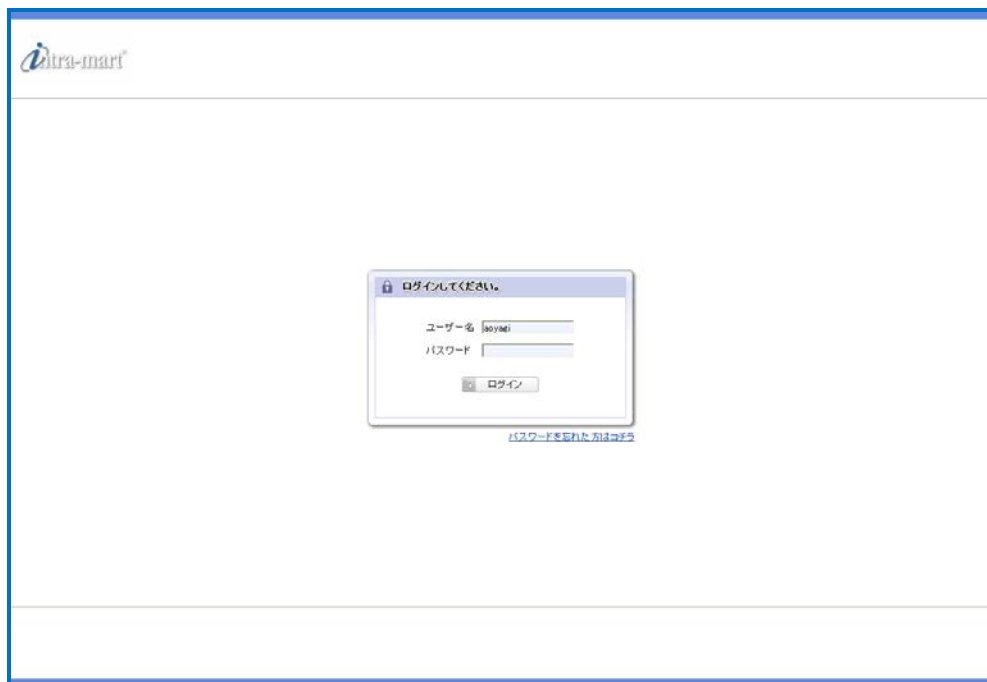
データソースを登録する方法について、システムDB上のデータソース定義を作成する例を説明します。※  
操作手順はグループDBについてもほぼ同様です。



#### 4.2.1.1 クエリ登録を行う

以下の手順に従ってデータソースを作成していきます。

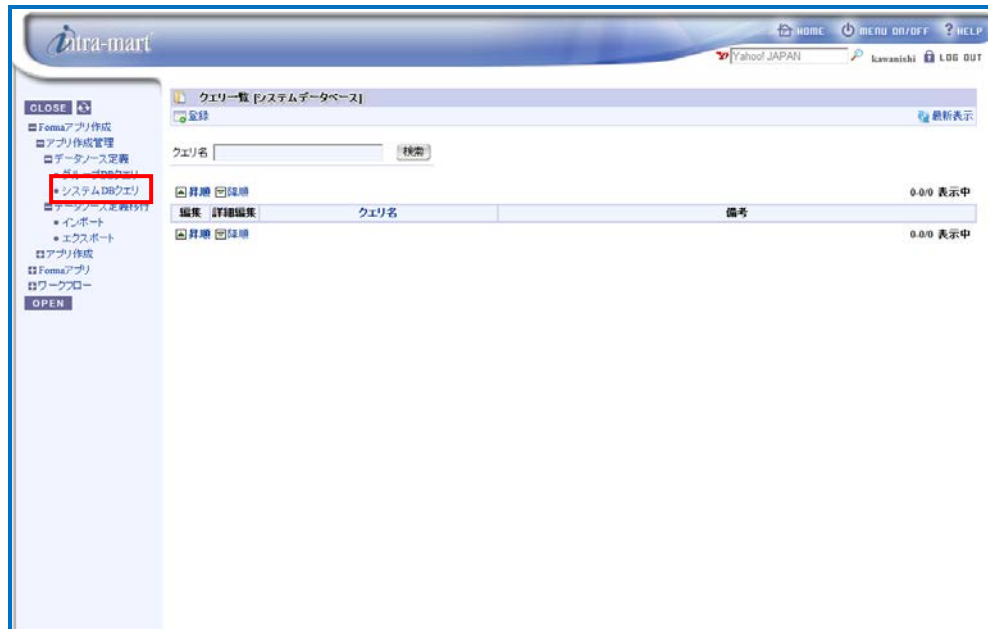
- 1 ブラウザで一般ユーザのログイン画面を開き、ログインします。  
ユーザのメイン画面が表示されます。



<一般ユーザログイン画面>

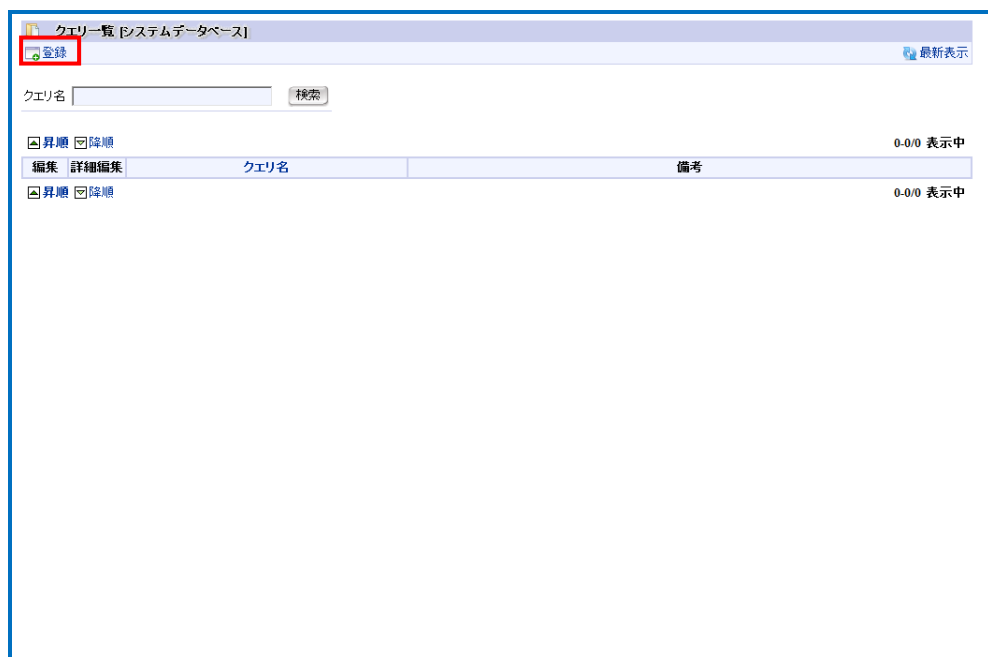


- 2 メニューから[Formaアプリ作成]－[アプリ作成管理]－[データソース定義]－[システムDBクエリ]をクリックします。  
[クエリー一覧]画面が表示されます。



<[クエリー一覧]画面>

- 3 [登録]リンクをクリックします。  
[クエリ登録]画面が表示されます。



<[クエリー一覧]画面>

- 4 クエリ名、備考を入力し[登録]をクリックします。  
クエリが登録され、編集および詳細情報の作成ができるようになります。

<[クエリ登録]画面>

#### 4.2.1.2 クエリ詳細登録を行う

クエリを登録したら、次に詳細なSQL情報を定義します。

- 1 メニューから[Formaアプリ作成]－[アプリ作成管理]－[データソース定義]－[システムDBクエリ]をクリックします。  
[クエリ一覧]画面が表示されます。

<[クエリ一覧]画面>

- 2 SQLおよび、出力値を入力します。出力値にはアイテムで使用したいカラムを指定します。入力値には条件用バインド変数として使用する項目を定義します。

<b>DB接続参照</b>	対象の接続ID(システムDB)を選択します。(グループDBクエリの作成時、この項目は表示されません。)
<b>SQL</b>	データソースとして実行するSQLを入力します。
<b>テスト実行値</b>	入力値に代入する値を入力し、テスト実行時に実際の動作を確認することができます。
<b>カラム名</b>	出力値の対象となるデータベースカラム名を入力します。
<b>データ型</b>	VARCHAR・NUMBER・DATE・TIMESTAMP型を正しく指定する必要があります。
<b>論理名</b>	ここに入力した名称は、アイテム作成時に利用する値を指定する際に参照されます。
<b>追加／削除アイコン</b>	入力値および出力値の追加・削除がおこなえます。
<b>テスト実行ボタン</b>	SQLの実行結果を確認できます。
<b>登録ボタン</b>	入力したクエリ詳細情報を登録します。

クエリ詳細登録 [システムデータベース]

戻る

クエリ名: クエリ1

DB接続参照: default

SQL

```
SELECT
  column1 as col1
FROM
  sample_table
WHERE
  column2 = ?
```

入力値

テスト実行値	データ型	論理名	削除
IN 1	VARCHAR	日本語: 条件項目1 英語: Condition item1 中国語:	-

出力値

カラム名	データ型	論理名	削除
OUT 1: col1	VARCHAR	日本語: 取得項目1 英語: Acquisitive item1 中国語:	-

テスト実行 登録

<[クエリ詳細登録]画面>

### 3 [登録]ボタンを押すとクエリ詳細を登録します。

クエリ詳細登録 [システムデータベース]

クエリ名: クエリ1

DB接続参照: default

SQL:

```
SELECT
    column1 as col1
FROM
    sample_table
WHERE
    column2 = ?
```

入力値:

テスト実行値	データ型	論理名	追加
IN 1	VARCHAR	日本語: 条件項目1	-
		英語: Condition item1	
		中国語:	

出力値:

カラム名	データ型	論理名	削除
OUT 1: col1	VARCHAR	日本語: 取得項目1	-
		英語: Acquisitive item1	
		中国語:	

テスト実行 登録

<[クエリ詳細登録]画面>

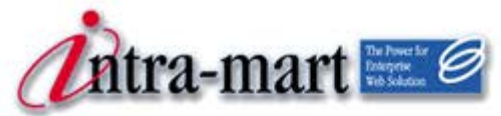
## クエリ詳細設定の注意

クエリ詳細画面では自由にSQLを記述できます。

ここで指定するクエリは、サブクエリとして実行されます。

そのため、クエリ内で ORDER BY句 を指定すると、SQLServerではエラーになります。SQLServer では、ORDER BY句 を指定しないようにしてください。

DDLを記載した場合であっても動作する可能性がありますので、DDLは記載しないでください。またセキュリティの観点から、この機能を利用できる権限はアプリ開発管理者のみにしてください。



**intra-mart WebPlatform/AppFramework**

## 第5章 採番ルール定義

# 5.1

## 採番ルール定義の概要

IM-FormaDesignerで採番の機能を利用するには、採番ルール定義を登録し、採番アイテムを利用します。

採番ルール定義で採番方法の設定を行ってから、アプリケーションのフォーム上で採番アイテムとして利用します。

この機能により、フォームに採番した値を登録値として利用することができます。

## 5.2

# 採番ルール定義の登録

アプリ開発管理者が採番ルール定義を登録し、採番アイテムで使用できるようにします。



### 5.2.1 採番ルール定義を登録する

採番ルール定義登録画面から採番ルール定義を設定し、登録します。  
以下の手順に従って採番ルール定義を作成していきます。



#### 5.2.1.1 採番ルール定義の登録を行う

以下の手順に従って採番ルール定義を作成していきます。

メニューから [Formaアプリ作成] - [アプリ作成管理] - [採番ルール定義一覧] をクリックします。  
[採番ルール定義一覧]画面が表示されます。

編集	採番ルール定義名	番号接頭語	表示桁数	増分値	番号接尾語	採番例
昇順 降順						0-0/0 表示中
昇順 降順						0-0/0 表示中

<[採番ルール定義一覧]画面>

[登録]リンクをクリックします。  
[採番ルール定義新規登録]画面が表示されます。

編集	採番ルール定義名	番号接頭語	表示桁数	増分値	番号接尾語	採番例
昇順 降順						0-0/0 表示中
昇順 降順						0-0/0 表示中

<[採番ルール定義一覧]画面>

各項目を入力し、登録ボタンをクリックします。

番号接頭語、開始番号、表示桁数、番号接尾語を入力すると、採番例の欄に採番される文字が表示されます。

**番号接頭語**

採番番号の前に付加したい文字を入力します。

**開始番号**

採番番号の開始番号を入力します。

**表示桁数**

採番番号の桁数を入力します。  
採番番号の上限はこの表示桁数になります。

**増分値**

1回の採番時に採番番号に加算する数値を入力します。

**番号接尾語**

採番番号の後に付加したい文字を入力します。

**採番ルール定義名**

この採番ルール定義の名称を各ロケールごとに入力します。

<[採番ルール定義新規登録]画面>



## 第6章 インポート・エクスポート

# 6.1

## インポート・エクスポートの概要

IM-FormaDesignerで登録したフォームとアプリケーション・データソースは、外部ファイルから外部ファイルから取り込んだり（インポート）、逆に外部ファイルへ書き出したり（エクスポート）することができます。

アプリケーションエクスポート・インポートで取り扱うファイルは、フォームとアプリケーションがセットで保存されているZIPファイルです。ファイル内には以下の情報が含まれています。

- フォームの定義情報とファイル（IM-FormaDesigner で作成した画面情報および画像ファイル）
- フォーム遷移情報
- アプリケーション情報および履歴
- アプリケーションのテーブル設定情報
- アプリケーションの一覧項目設定情報
- アプリケーションの表示権限設定情報
- IM-Workflow 連携情報

以下の情報は含まれないため、インポートを行っても復元されませんのでご注意ください。

- アプリケーションのメニュー設定情報
- フォーム、アプリケーションを使用して登録画面から登録したデータ
- IM-Workflow でフォーム、アプリケーションを使用して申請・承認画面から登録したデータ

インポート・エクスポートはブラウザ上でアップロード、または、ダウンロード操作で行うか、Storage Serviceが動作しているサーバのディスク上から読み取り、または、書き込みのいずれかの方法で実行することができます。

比較的大きなファイルを取り扱う場合はStorage Serviceのディスクを使用することで、ファイルイメージを経由するサービスを減らすことができるため、サーバ負荷を減らすことができます。

インポートを行う場合、基本的に既存の定義情報に上書きします。1つのバージョン情報のみが含まれるフォーム、アプリケーションをインポートした場合、そのバージョン情報のみが上書きされます。

すべてのバージョンが削除された状態で1つのバージョン情報をインポートすると、そのバージョンのみが登録されます。このとき、バージョン履歴番号は変更されません。例えば、バージョン履歴番号が「2」のバージョンのみが保存されたファイルをインポートした場合、同じIDを持つフォーム、アプリケーションが登録されていないければ、バージョン履歴番号が「2」のバージョンが復元され、バージョン履歴番号「1」が抜けた状態になります。

データソースエクスポート・インポートで取り扱うファイルは、データソース定義とSQLがセットで保存されているZIPファイルです。ファイル内には以下の情報が含まれています。

- データソース定義情報とファイル（データソース定義画面で作成した SQL 情報）

データソースインポートを行う場合、基本的に既存の定義情報に上書きします。エクスポートは、ログインユーザーのログイングループデータベース、およびシステムデータベースが対象となります。

## 6.2

# インポート・エクスポートの実行

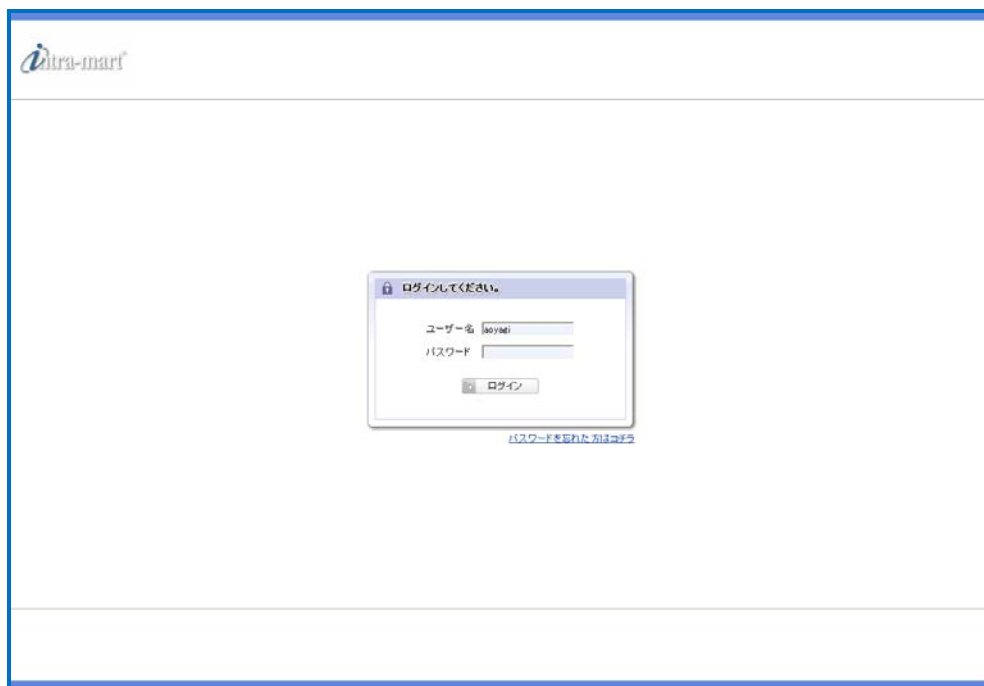
ここでは、IM-FormaDesignerで作成したアプリケーション、データソースを外部ファイルから取り込む（インポート）操作、および、外部ファイルへ書き出す（エクスポート）操作を行うための方法について説明します。



### 6.2.1 アプリケーションのインポートを行う

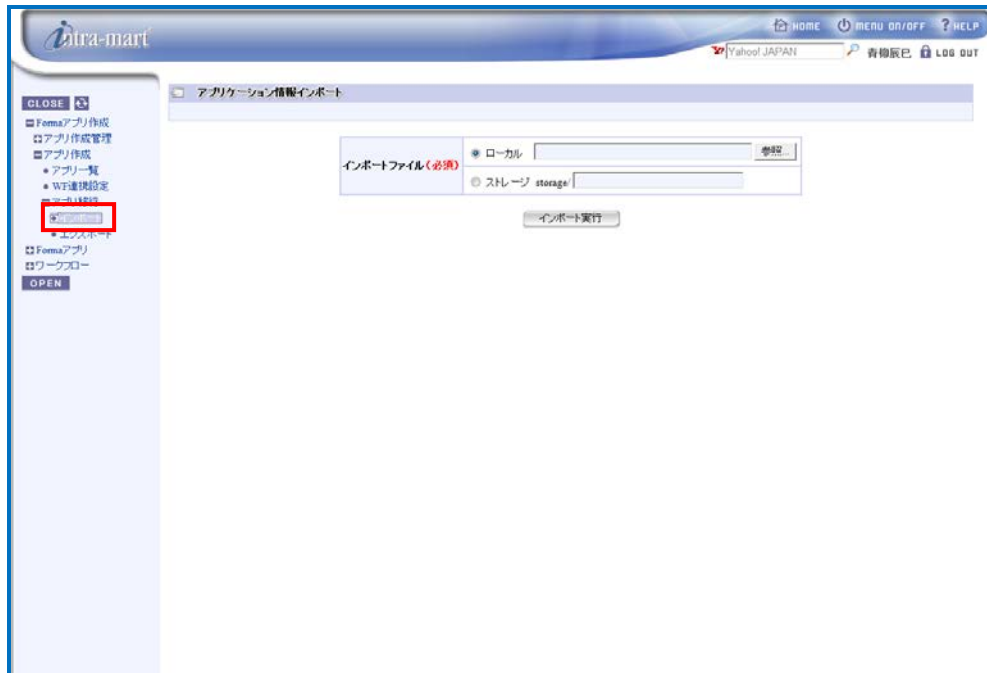
フォーム、アプリケーションを外部ファイルから取り込む（インポートする）ためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 ブラウザで一般ユーザのログイン画面を開き、ログインします。  
ユーザのメイン画面が表示されます。



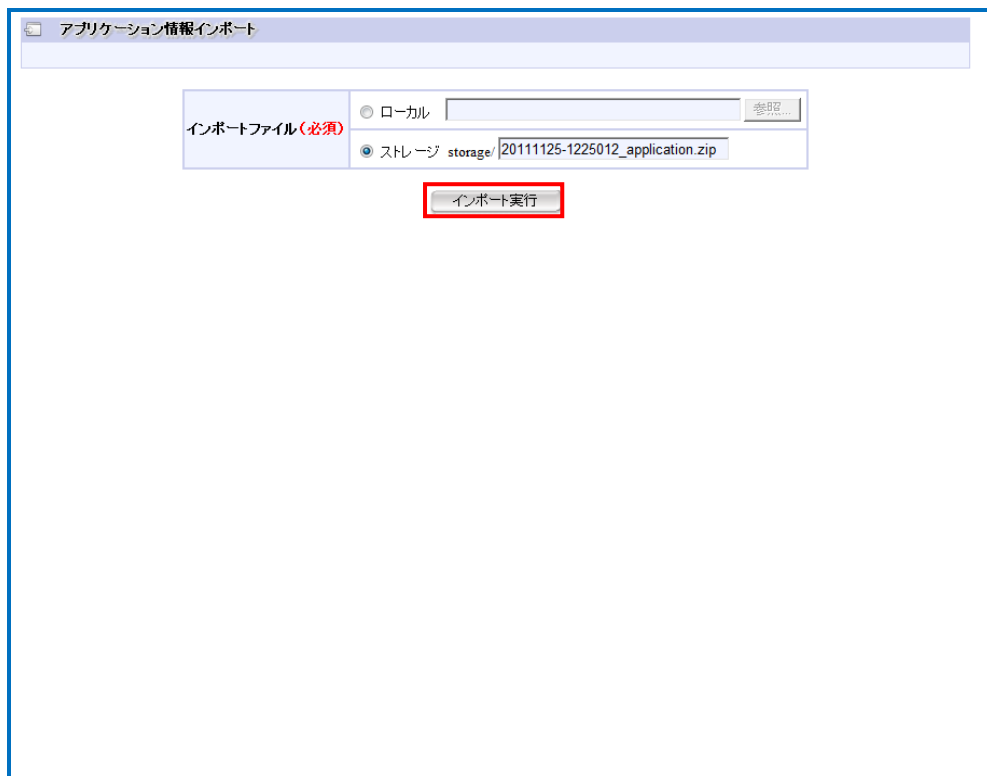
<一般ユーザログイン画面>

- 2 メニューから[Formaアプリ作成]－[アプリ作成]－[アプリ移行]－[インポート]をクリックします。  
[アプリケーション情報インポート] 画面が表示されます。



<[アプリケーション情報インポート]画面>

- 3 「インポートファイル」からインポートするファイルの場所を指定して、[インポート実行]ボタンをクリックします。  
インポート処理が実行され、[インポート処理結果] 画面が表示されます。画面上にフォーム、アプリケーションのインポート結果が表示されます。



<[アプリケーション情報インポート]画面>

- 4 インポートの処理結果を確認して、[戻る]リンクをクリックします。  
 [アプリケーション情報インポート] 画面に戻ります。  
 以上でフォーム、アプリケーションのインポートは終了です。

インポート処理結果

戻る

アプリケーションID:app5【サンプルアプリ】のインポートに成功しました。

アプリケーション情報

アプリケーションID	アプリケーション名	処理結果
app5	app5	アプリケーション情報を登録しました。
app5	サンプルアプリ	アプリケーション情報を登録しました。
app5		アプリケーション履歴情報を登録しました。
app5		アプリケーション履歴情報を登録しました。
app5		アプリケーション履歴情報を登録しました。

フォーム情報

フォームID		処理結果
5i0sma0l7tdg8n		フォームリレーション情報を登録しました。
5i0snotwvjv5lt8n		フォームリレーション情報を登録しました。
フォームID	フォーム名	処理結果
5i0sma0l7tdg8n	メインフォーム	フォーム情報を登録しました。
5i0snotwvjv5lt8n	mainform	フォーム情報を登録しました。
5i0snotwvjv5lt8n	めいんふぉーむ	フォーム情報を登録しました。

権限情報

アプリケーションID		処理結果
app5		処理対象権限情報を登録しました。
app5		ロール権限情報を登録しました。
app5		ユーザ権限情報を登録しました。
app5		組織権限情報を登録しました。
app5		パブリックグループ権限情報を登録しました。

<[インポート処理結果]画面>



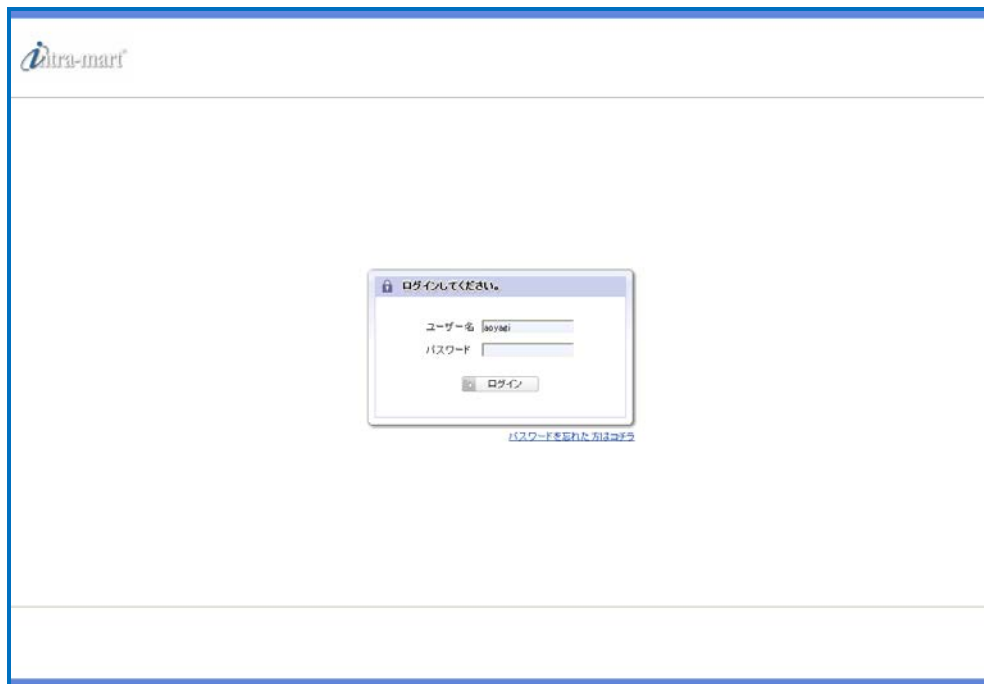
- インポートできなかった内容については画面上に赤色の文字で表示されます。
- フォームとアプリケーションの定義情報は上書きされますが、アプリケーションのテーブル設定は上書きされないため、すでに同名のテーブルが存在している場合はテーブルの作成に失敗します。この場合、フォームの内容によりデータベース設定の更新が必要になる場合があります。
- エクスポートする環境とインポートする環境でサーバの文字コードが異なる場合は、インポートしたデータをそのままIM-FormaDesignerの画面で読み込むことができません。インポート後にStorage以下に生成されるjsonファイルの文字コードを、インポート環境と同じ文字コードに変換する必要があります。
- データベースがSQL Serverの場合は、データ型の違いから、本機能を利用しての他のデータベースへの移行はサポートの対象外となっております。SQL Server以外のデータベースからSQL Serverへのデータ移行についても、同様です。
- ユーザプログラムのソースファイルはインポート・エクスポート対象外です。移行先に手動でソースファイルを配置してください。



## 6.2.2 アプリケーションのエクスポートを行う

フォーム、アプリケーションを外部ファイルへ書き出す（エクスポートする）ためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 ブラウザで一般ユーザのログイン画面を開き、ログインします。  
ユーザのメイン画面が表示されます。



<一般ユーザログイン画面>

- 2 メニューから[Formaアプリ作成] - [アプリ作成] - [アプリ移行] - [エクスポート]をクリックします。  
[アプリケーション情報エクスポート] 画面が表示されます。



<[アプリケーション情報エクスポート]画面>

### 3 「出力先」を選択します。「ストレージ」を選択した場合は、出力先のパスも入力します。

アプリケーション情報エクスポート

アプリケーション名  検索

出力先  ダウンロード  ストレージ storage/

昇順 降順 1-1/1 表示中

エクスポート	アプリケーションID	最新バージョン	アプリケーション名	備考
	sample_app	1	アプリケーション1	備考です

昇順 降順 1-1/1 表示中

### 4 エクスポートするアプリケーションの行にある[エクスポート]アイコンをクリックします。エクスポート処理が実行されます。以上でアプリケーションのエクスポートは終了です。

アプリケーション情報エクスポート

アプリケーション名  検索

出力先  ダウンロード  ストレージ storage/

昇順 降順 1-1/1 表示中

エクスポート	アプリケーションID	最新バージョン	アプリケーション名	備考
	sample_app	1	アプリケーション1	備考です

昇順 降順 1-1/1 表示中

<[アプリケーション情報エクスポート]画面>



### 6.2.3 IM-Workflowのインポートとエクスポートについて

IM-FormaDesignerのアプリケーションのインポートとエクスポートでは、IM-FormaDesignerのアプリケーションの情報のみを扱っています。IM-Workflow連携で作成したIM-Workflowのマスタ定義情報(コンテンツ定義)はインポート、エクスポートしません。

IM-FormaDesignerのIM-Workflow連携で作成したコンテンツ定義や、IM-Workflowで作成したルート定義、フロー定義、案件プロパティ等をインポート、エクスポートするためには、IM-Workflow側のインポート、エクスポート機能を利用する必要があります。

- インポート、エクスポートの対象となるマスタ情報

IM-Workflowのインポート、エクスポートの対象となるマスタ定義は、以下の通りです。

#### コンテンツ定義

IM-Workflow連携登録で作成したコンテンツ定義が対象です。

#### フロー定義

対象となるコンテンツ定義とひもづくフロー定義が対象です。

#### ルート定義

対象となるフロー定義とひもづくルート定義が対象です。

#### 案件プロパティ定義

IM-Workflow連携の案件プロパティ設定で使用している案件プロパティ定義が対象です。

- インポート、エクスポートの順番について

IM-FormaDesigner、IM-Workflowのインポート(エクスポート)をする順番は特にありません。

IM-Workflowのインポート、エクスポートの詳細については、「IM-Workflow 管理者 操作ガイド」を参照してください。

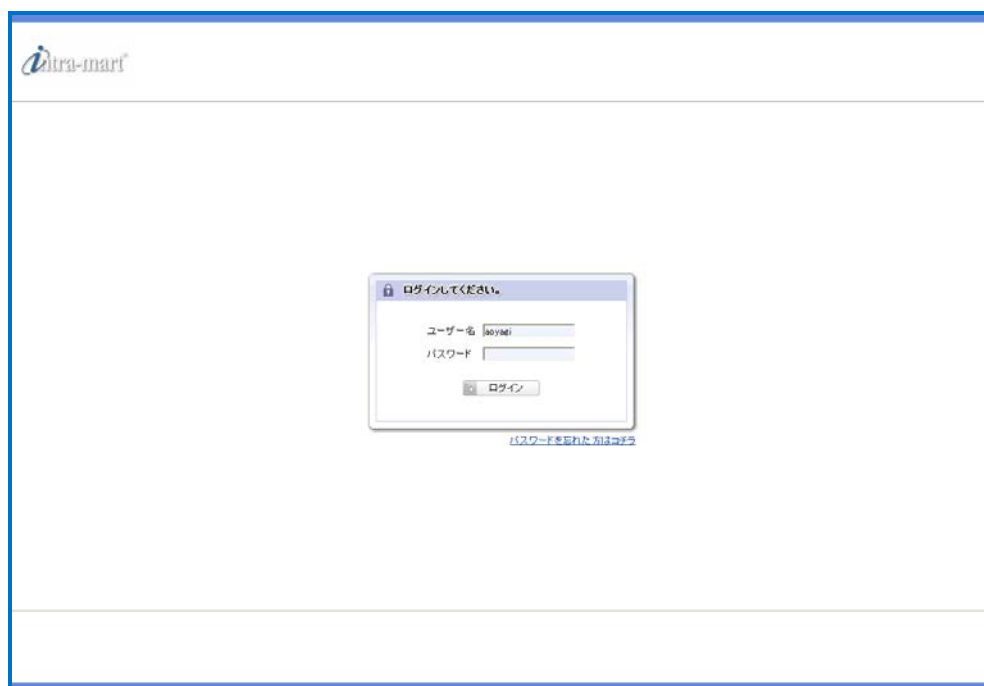




## 6.2.4 データソースのインポートを行う

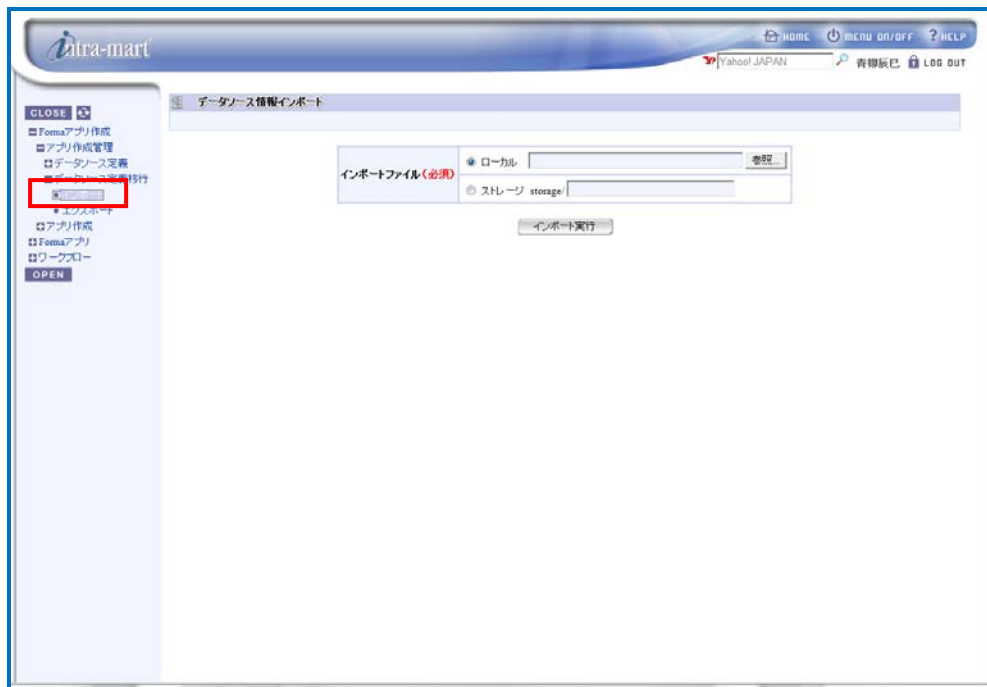
データソースを外部ファイルから取り込む（インポートする）ためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 ブラウザで一般ユーザのログイン画面を開き、ログインします。  
ユーザのメイン画面が表示されます。



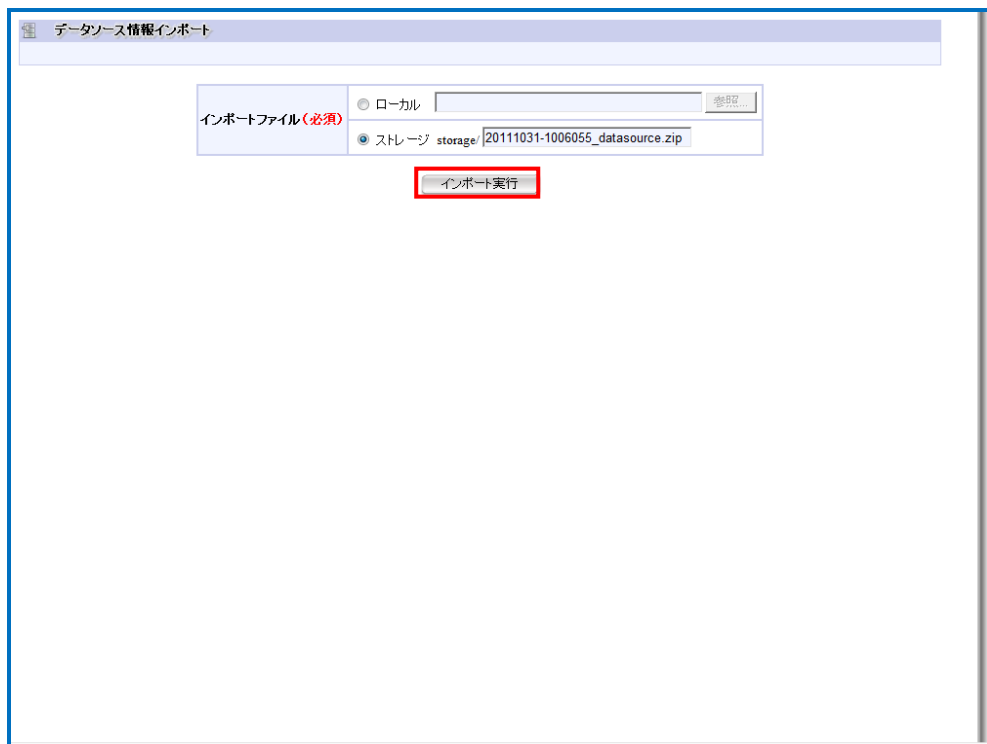
<一般ユーザログイン画面>

- 2 メニューから[Formaアプリ作成]－[アプリ作成管理]－[データソース定義移行]－[インポート]をクリックします。  
[データソース情報インポート]画面が表示されます。



<[データソース情報インポート]画面>

- 3 「インポートファイル」からインポートするファイルの場所を指定して、[インポート実行]ボタンをクリックします。  
インポート処理が実行され、[インポート処理結果]画面が表示されます。画面上にデータソースのインポート結果が表示されます。



<[データソース情報インポート]画面>

- 4 インポートの処理結果を確認して、[戻る]リンクをクリックします。  
[データソース情報インポート] 画面に戻ります。  
以上でデータソースのインポートは終了です。



<[インポート処理結果]画面>



- インポートできなかった内容については画面上に赤色の文字で表示されます。

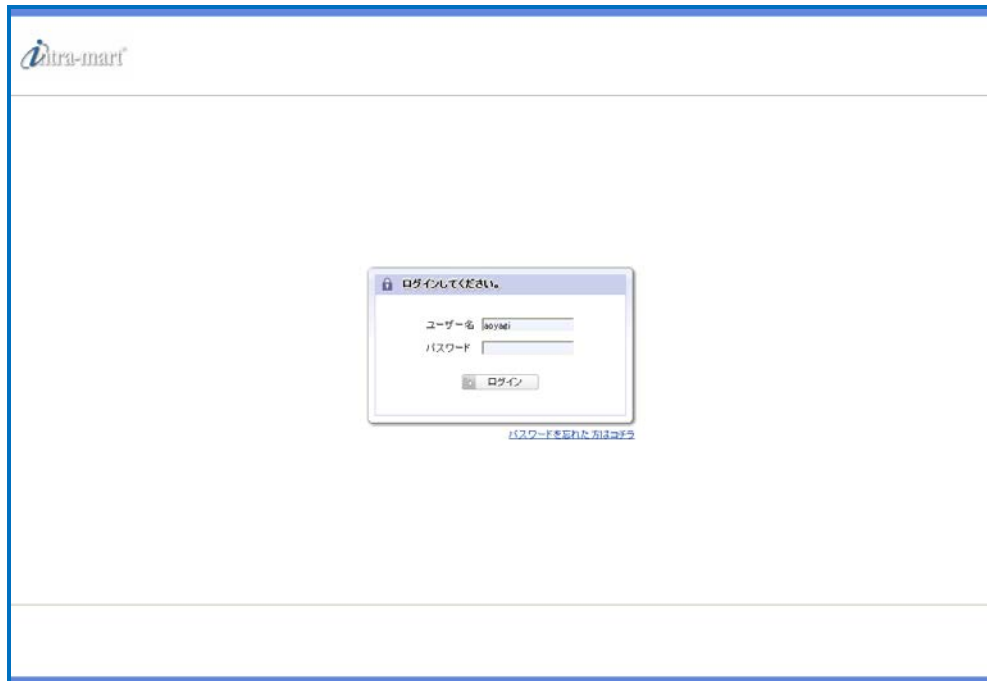


## 6.2.5 データソースのエクスポートを行う

データソースのエクスポートを実行すると登録されている全てのデータソース情報がエクスポートされます。

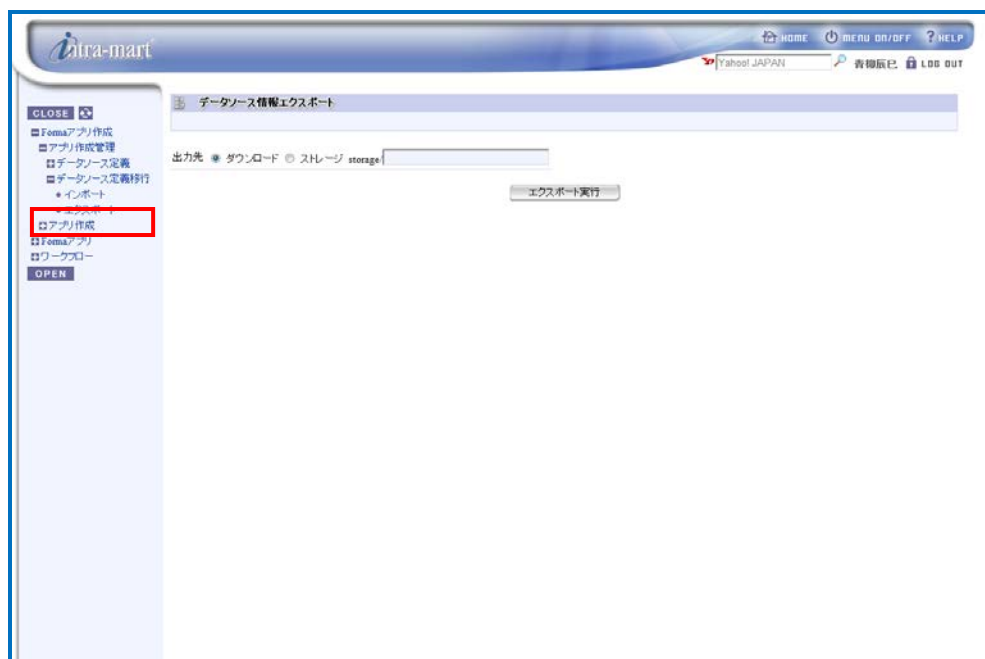
データソースを外部ファイルへ書き出す（エクスポートする）ためには、以下の手順に従って操作を行います。

- 1 ブラウザで一般ユーザのログイン画面を開き、ログインします。  
ユーザのメイン画面が表示されます。



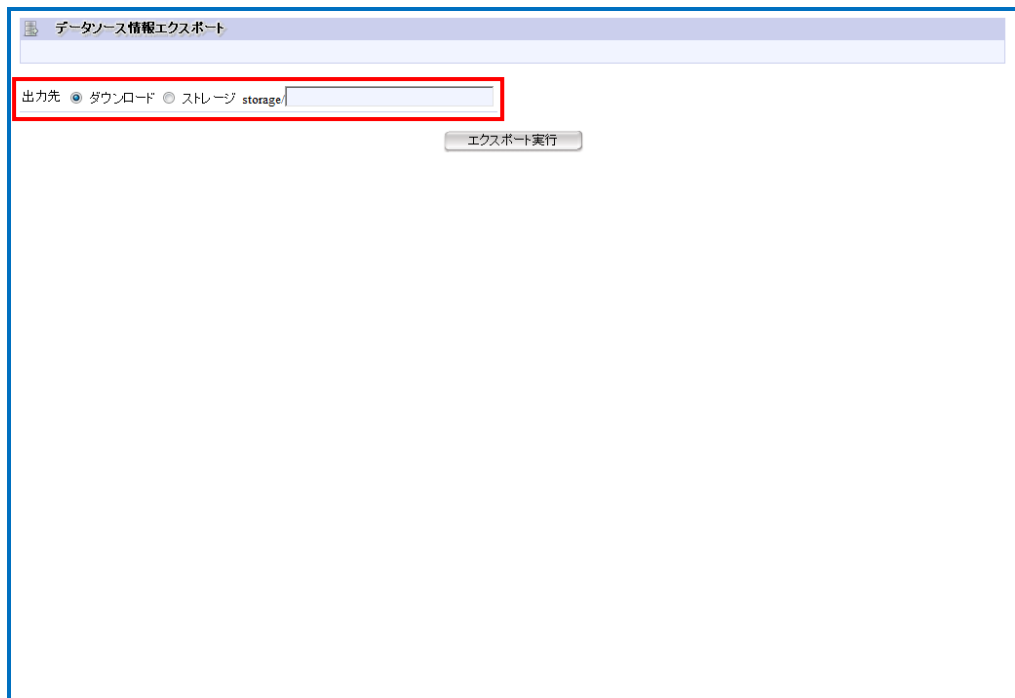
<一般ユーザログイン画面>

- 2 メニューから[Formaアプリ作成] - [アプリ作成管理] - [データソース定義移行] - [エクスポート]をクリックします。[データソース情報エクスポート]画面が表示されます。



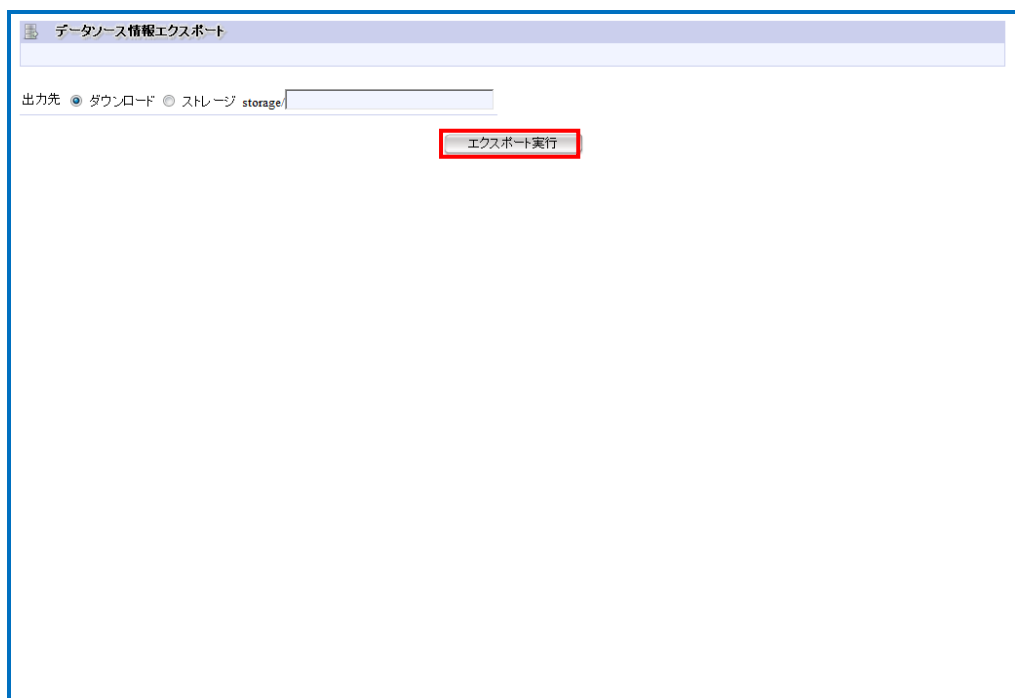
<[データソース情報エクスポート]画面>

3 「出力先」を選択します。「ストレージ」を選択した場合は、出力先のパスも入力します。



<[データソース情報エクスポート]画面>

4 [エクスポート実行]ボタンをクリックします。  
エクスポート処理が実行されます。  
以上でデータソースのエクスポートは終了です。



<[データソース情報エクスポート]画面>



## IM-FormaDesigner Ver.7.2

---

2016/08/01 第 11 版

**操作ガイド**

**株式会社 NTT データ イントラマート**

TEL(03)5549-2821 FAX(03)5549-2816

E-mail : [info@intra-mart.jp](mailto:info@intra-mart.jp)

ホームページ : <http://www.intra-mart.jp>

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

---

※本マニュアルに記載されている社名および商品名は、一般に各社の商標および登録商標です。